

1997年度

外国語学部共通科目シラバス

教養課程シラバス

外国語学部共通自由科目シラバス

獨協大学

利用上の注意

- ① この冊子では、目次が1994年度以降入学者用と、1993年度以前入学者用とに分かれています。
- ② 目次では、部門ごとに科目名、指導教員名、掲載ページが記載されています。
- ③ 科目名の表記について

入学年度によって、科目名の異なる科目があります。該当する入学年度は、科目名末尾のカッコ内に表示されています。表示がない場合は、入学年度による科目名の区別はありません。正しい科目名で履修するよう、注意してください。自分の入学年度を対象としていない科目名での履修登録はできません。

- ④ 「文化人類学」は1994年度以降・1993年度以前、どちらの入学者にも開設していますが、それぞれ下記の表のように合併しており、異なる科目です。履修登録や、試験の際には十分に気をつけてください。

	1994年度以降入学者	1993年度以前入学者
科	文化人類学	人類学
目 名	社会科学特殊講義A (文化人類学特殊講義) 3	文化人類学

目 次

1994年度以降入学者対象

「保健体育」部門

保健体育講義	1	-----	(半期完結)	久 松 一 恵	-----	1
"	2	-----	(半期完結)	青 柳 多恵子	-----	3
"	2	-----	(前期完結)	梶 野 克 之	-----	5
"	2	-----	(後期完結)	梶 野 克 之	-----	7

「人文科学」部門

哲学		-----		高 尾 由 子	-----	9
"		-----		松 丸 壽 雄	-----	11
心理学		-----		杉 山 憲 司	-----	13
"		-----		三 本 茂	-----	15
倫理学		-----		市 川 達 人	-----	17
国語学		-----		桂 千佳子	-----	19
"		-----		小 島 幸 枝	-----	21
国語表現		-----		飯 島 一 彦	-----	23
"		-----		小 島 幸 枝	-----	25
"		-----		中 村 文	-----	27
"		-----		肥 田 野 昌 之	-----	29
日本文学		-----		飯 島 一 彦	-----	31
"		-----		北 村 進	-----	33
"		-----		肥 田 野 昌 之	-----	35
外国文学		-----		北 澤 滋 久	-----	37
"		-----		松 山 恒 見	-----	39
"		-----		宮 澤 康 造	-----	41
"		-----		山 路 朝 彦	-----	43
歴史学						
" (日本史)		-----		新 井 孝 重	-----	45
" (日本史)		-----		齊 藤 博	-----	47
" (東洋史)		-----		熊 谷 哲 也	-----	49
" (西洋史)		-----		高 橋 正 男	-----	51
" (西洋史)		-----		古 川 堅 治	-----	53
人文科学特殊講義A						
" (現代社会と学問)	1	-----		川 村 肇	-----	55
" (西洋哲学史)	2	-----		谷 口 郁 夫	-----	57
" (哲学思想史)	3	-----		谷 口 郁 夫	-----	59
" (キリスト教史Ⅰ)	4	-----		中 島 文 夫	-----	61

〃	(日本近代史)	5	-----	中 村	繁	-----	6 3
〃	(古典古代の遺産)	6	-----	古 川	堅 治	-----	6 5
〃	(東洋思想史)	7	-----	松 丸	壽 雄	-----	6 7

「社会科学」部門

政治学	-----	志 摩	園 子	-----	6 9		
経済学	-----	岡 田	博	-----	7 1		
日本国憲法	-----	元 山	健	-----	7 3		
社会学	-----	有 吉	広 介	-----	7 5		
国際関係論	-----	阿 部	純 一	-----	7 7		
文化人類学	-----	井 上	兼 行	-----	7 9		
社会科学特殊講義A							
〃	(教育法)	1	-----	市 川	須美子	-----	8 1
〃	(近代市民社会像の形成と批判)	2	-----	市 川	達 人	-----	8 3
〃	(文化人類学特殊講義)	3	-----	井 上	兼 行	-----	8 5
〃	(広告論)	4	-----	梶 山	皓	-----	8 6
〃	(マスコミュニケーション論)	5	-----	佐々木	輝 美	-----	8 8
〃	(メディアにみる国際関係)	6	-----	佐 藤	真千子	-----	9 0
〃	(日本経済論)	7	-----	波 形	昭 一	-----	9 2
〃	(歴史的に見たパレスチナ問題)	8	-----	奈良本	英 佑	-----	9 4
〃	(経済理論の基礎 ーマクロ理論を中心として)	9	-----	西 村	允 克	-----	9 6
〃	(国際法)	10	-----	廣 部	和 也	-----	9 8
〃	(国際貿易と国際収支調整)	11	-----	益 山	光 央	-----	1 0 0
〃	(民法概論)	12	-----	松 嶋	由紀子	-----	1 0 2
〃	(社会思想史)	13	-----	松 丸	壽 雄	-----	1 0 4
〃	(集団と文化の社会心理学)	14	-----	三 本	茂	-----	1 0 6
〃	(ジャーナリズム)	15	-----	森 永	京 一	-----	1 0 8
〃	(世論調査)	16	-----	森 永	京 一	-----	1 1 0
〃	(貿易実務)	17	-----	山 崎	静 光	-----	1 1 2

「自然科学」部門

数 学	-----	福 井	尚 生	-----	1 1 4		
物理学	-----	東	孝 博	-----	1 1 6		
地 学	-----	福 井	尚 生	-----	1 1 8		
生物学 A	-----	加 藤	僖 重	-----	1 2 0		
〃 B	-----	加 藤	僖 重	-----	1 2 2		
自然科学概論	-----	福 井	尚 生	-----	1 2 4		
自然科学特殊講義A							
〃	(東洋の健康論)	1	-----	青 柳	多恵子	-----	1 2 6
〃	(トレーニング論)	2	-----	梶 野	克 之	-----	1 2 8
〃	(植物と人間)	3	-----	加 藤	僖 重	-----	1 3 0
〃	(化学)	4	-----	杉 浦	三千夫	-----	1 3 2
〃	(宇宙論)	5	-----	福 井	尚 生	-----	1 3 4

「情報科学」部門

コンピュータ概論	-----	各担当教員	-----	136
情報論	-----	前田 功雄	-----	138
文献調査法	-----	宮部 頼子	-----	140
言語学	-----	新里 博樹	-----	142
〃	-----	城田 俊	-----	144
情報科学特殊講義A				
〃(コンピュータ・プログラミング論)	1 --	高柳 敏子	-----	146
〃(コンピュータ・プログラミング論)	1 --	立田 ルミ	-----	148
〃(コンピュータサイエンスと自然言語処理)	2 --	工藤 育男	-----	150
〃(情報処理)	3 --	東 孝博	-----	152
言語学特殊講義A				
〃(音の構造)	-----	伊豆山 敦子	-----	154

「比較文化」部門

地域文化研究				
〃(現代英米社会研究)	1 -----	有吉 広介	-----	156
〃(日本の民族芸能)	2 -----	飯島 一彦	-----	158
〃(熱帯雨林の生態と開発問題)	3 -----	犬井 正	-----	160
〃(ヨーロッパ近代とイスラーム世界)	4 -----	奈良本 英佑	-----	162
〃(スペイン：歴史と文化)	5 -----	野々山 ミチコ	-----	164
〃(戦後冷戦史の展開)	6 -----	深谷 満雄	-----	166
〃(西洋美術史)	7 -----	前川 久美子	-----	168
〃(中洋-ネパール-インド-チベット-の社会と文化)	8 -----	三本 茂	-----	170
比較文化論特殊講義A				
〃(カリブ海域の民族と文化)	1 -----	井上 兼行	-----	172
〃(東西文化比較)	2 -----	近衛 秀健	-----	174
〃(南から見る南北アメリカ関係)	3 -----	佐藤 勘治	-----	176
〃(能楽における中世武士の諸像)	4 -----	瀬尾 菊治	-----	178
〃(ユダヤ教の歴史)	5 -----	高橋 正男	-----	180
〃(比較教育)	6 -----	鳥谷部 志乃恵	-----	182
〃(神話・説話の世界)	7 -----	肥田野 昌之	-----	184
〃(古代ギリシャ社会における日常生活)	8 -----	古川 堅治	-----	186
〃(アラブ文化・芸術)	9 -----	本田 孝一	-----	188
比較文化論特殊講義B				
〃(ヨーロッパから見た日本思想)	-----	(後期完結) B. Stevens	-----	190

「日本語教育」部門

日本語学概論	-----	金田一 秀穂	-----	191
日本語教育概論	-----	井口 厚夫	-----	193
日本語教授法Ⅰ	-----	中西 家栄子	-----	195
日本語教授法Ⅱ	-----	井口 厚夫	-----	197
日本語文法論	-----	城田 俊	-----	199

日本語音声学	-----	城 田 俊	-----	201
対照言語学	-----	中 西 家栄子	-----	203
日本語史	-----	小 島 幸 枝	-----	205

「第三外国語」部門

ドイツ語Ⅰ	-----	大 串 紀代子	-----	207
ドイツ語Ⅱ	-----	渡 部 重 美	-----	208
フランス語Ⅰ	-----	柴 田 芳 幸	-----	209
フランス語Ⅱ	-----	佐 藤 領 時	-----	210
スペイン語Ⅰ (総)	-----	佐 藤 勘 治	-----	211
" (〃)	-----	J. L. Velasco	-----	211
" (L)	-----	高 松 朋 子	-----	212
スペイン語Ⅱ (総)	-----	高 松 朋 子	-----	213
" (L)	-----	佐 藤 勘 治	-----	214
" (読)	-----	佐 藤 勘 治	-----	215
スペイン語Ⅲ (総)	-----	北 岸 団	-----	216
" (L)	-----	霞 洋 子	-----	217
" (読)	-----	野々山 ミチコ	-----	218
ロシア語Ⅰ	-----	井 上 幸 義	-----	219
ロシア語Ⅱ	-----	井 上 幸 義	-----	220
中国語Ⅰ	-----	秦 敏	-----	221
"	-----	張 繼 濱	-----	222
"	-----	頼 明	-----	223
中国語Ⅱ	-----	陳 跡	-----	224
朝鮮語Ⅰ	-----	朴 勇 俊	-----	225
朝鮮語Ⅱ	-----	朴 聖 雨	-----	226
アラビア語Ⅰ	-----	本 田 孝 一	-----	227
アラビア語Ⅱ	-----	本 田 孝 一	-----	228
古典ギリシア語	-----	古 川 堅 治	-----	229
ラテン語	-----	松 田 治	-----	230

「共通演習」部門

共通演習	-----	有 吉 広 介	-----	231
"	-----	飯 島 一 彦	-----	233
"	-----	井 口 厚 夫	-----	235
"	-----	城 田 俊	-----	236
"	-----	高 橋 正 男	-----	238
"	-----	瀧 本 孝 雄	-----	239
"	-----	中 西 家栄子	-----	241
"	-----	古 川 堅 治	-----	243
"	-----	松 丸 壽 雄	-----	245
"	-----	三 本 茂	-----	247

目 次

1993 年度以前入学者対象

一般教育科目

「人文科学」系列

哲学	高尾由子	9
"	松丸壽雄	11
倫理学	市川達人	17
日本語学	桂千佳子	19
"	小島幸枝	21
国語	飯島一彦	23
"	小島幸枝	25
"	中村文	27
"	肥田野昌之	29
日本文学	飯島一彦	31
"	北村進	33
"	肥田野昌之	35
外国文学	北澤滋久	37
"	松山恒見	39
"	宮澤康造	41
"	山路朝彦	43
日本史	新井孝重	45
"	齊藤博	47
東洋史	熊谷哲也	49
西洋史	高橋正男	51
"	古川堅治	53
一般言語学	新里博樹	142
"	城田俊	144
一般音声学	伊豆山敦子	154

「社会科学」系列

経済学 (外国語・法学部生対象)	岡田博	71
" (経済学科生対象)	益山光央	(経済学部シラバス「経済学」を参照)
" (経営学科生対象)	駒形哲哉	"
政治学	小野修三	249
"	志摩園子	69
"	星野昭吉	251
法学(「日本国憲法」2単位を含む)(外国語・経済学部生対象)	元山健	73
" (法学部生対象)	市川須美子	(法学部内の「政治学入門」を参照)
" (法学部生対象)	鈴木淳一	"

社会学	有吉広介	75
社会思想史	市川達人	83
"	松丸壽雄	104
人文地理学	犬井正	160

「自然科学」系列

心理学	杉山憲司	13
"	三本茂	15
数学Ⅰ (経済学部生対象)	遠藤信	253
数学Ⅱ	遠藤信	253
数学概論 (外国語・法学部生対象)	福井尚生	114
物理学	東孝博	116
化学	杉浦三千夫	132
地学	福井尚生	118
生物学A	加藤僖重	120
" B	加藤僖重	122
人類学	井上兼行	79
自然科学概論	遠藤信	255
"	福井尚生	124
コンピュータ概論	各担当教員	136

— 保健体育科目 —

「保健体育」部門

保健体育講義1	(半期完結) 久松一恵	1
" 2	(半期完結) 青柳多恵子	3
" 2	(前期完結) 梶野克之	5
" 2	(後期完結) 梶野克之	7

— 共通自由科目 —

「文化・思想」部門

西洋哲学史	谷口郁夫	57
キリスト教思潮	中島文夫	61
西洋美術史	前川久美子	168
東洋思想史	松丸壽雄	67
マスコミュニケーション論1	佐々木輝美	88
" 2	森永京一	108
社会心理学	三本茂	106
文化人類学	井上兼行	85
情報論	前田功雄	138
コンピュータ・プログラミング論1	高柳敏子	146
" 2	立田ルミ	148
西洋文化特殊講義A-1	近衛秀健	174

西洋文化特殊講義A—2	高橋正男	180
" 3	古川堅治	186
" 4	古川堅治	65
日本文化特殊講義A—1	飯島一彦	158
" 2	瀬尾菊次	178
" 3	中村 粲	63
" 4	肥田野昌之	184

「社会・国際関係」部門

比較文化論特殊講義A	奈良本英佑	162
比較文化論特殊講義B	B. Stevens	190
情報論特殊講義A	工藤育男	150
マスコミュニケーション論特殊講義A	梶山 皓	86
時事問題研究	阿部純一	77
世論調査	森永京一	110
文献調査法	宮部頼子	140
経済原論	西村允克	96
日本経済論	波形昭一	92
貿易実務	山崎静光	112
民法概論	松嶋由紀子	102
教育法	市川須美子	81
国際関係論1	有賀 貞	257
" 2	竹田いさみ	259
" 2	竹田いさみ	259
" 2	有賀 貞	257
国際法	廣部和也	98
国際経済論	益山光央	100
国際政治史	深谷満雄	166
時事問題研究特殊講義A—1	佐藤勘治	176
" 2	奈良本英佑	94
国際関係論特殊講義A	佐藤真千子	90

「言語」部門

日本語教授法	中西家栄子	195
日本語学概論	金田一秀穂	191
日本語文法論	城田 俊	199
日本語音声学	城田 俊	201
日本語教育概論	井口厚夫	193
日本語史	小島幸枝	205
対照言語学	中西家栄子	203
日本語学特殊講義A	井口厚夫	197
古典ギリシア語	古川堅治	229
ラテン語	松田 治	230
ドイツ語I	大串紀代子	207

ドイツ語Ⅱ	渡部重美	208
フランス語Ⅰ	柴田芳幸	209
フランス語Ⅱ	佐藤領時	210
スペイン語Ⅰ(総)	佐藤勘治	211
" "	J. L. Velasco	211
" (L)	高松朋子	212
スペイン語Ⅱ(総)	高松朋子	213
" (L)	佐藤勘治	214
" (読)	佐藤勘治	215
スペイン語Ⅲ(総)	北岸団	216
" (L)	霞洋子	217
" (読)	野々山ミチコ	218
ロシア語Ⅰ	井上幸義	219
ロシア語Ⅱ	井上幸義	220
中国語Ⅰ	秦敏	221
"	張継濱	222
"	頼明	223
中国語Ⅱ	陳跡	224
朝鮮語Ⅰ	朴勇俊	225
朝鮮語Ⅱ	朴聖雨	226
アラビア語Ⅰ	本田孝一	227
アラビア語Ⅱ	本田孝一	228

科目名	保健体育講義1	担当者名	久松一恵
-----	---------	------	------

(半期完結)

講義の目標	<p>健康が作られたり、壊されたりする所は家庭、学校、職場、そして地球規模での社会においてである。しかも、生まれてから死ぬまで同一の地域・環境の中で暮す人は少なく、余儀なく、あるいは自ら進んで移動したり、時に外国生活をする機会が増加している。</p> <p>それぞれの文化あるいは文明の中に潜在する健康危険を意識し、必要な保健医療サービスを利用しながら、心身を調整したり、また生活環境に対処する実際的知識を問うこと。</p>		
講義概要	<p>本講義では生活者個人として心得ておくべき健康管理上の問題を、生活環境と心の問題に分けて、取り上げる。</p> <p>前者では、いかなる時代、いかなる所でも、とくに開発途上国では重要な病原微生物による健康障害と、食品の生産・製造・加工技術の高度化及び食品流通の国際化によって危惧される化学物質の安全性、外国へ旅行する場合の留意点について講義し、後者では主として精神不健康・精神障害の予防の視点で、その基本的考え方を述べる。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	厚生統計協会編集・発行『国民衛生の動向』（厚生指標臨時増刊号） 課題に応じてプリントを配布し、参考文献を紹介する。	
評価方法	<p>学期末の定期試験による。</p> <p>授業への出席状況も考慮する。</p> <p>受講者が少人数の場合にはレポート提出を課すこともある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>欠席者にはプリントを配布しない。</p> <p>時間が十分ないので、特に希望する課題があれば、最初に申し出られたい。クラスにより内容がいく分異なることになろう。</p>		

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	健康学について
2	健康に関連する基本概念 (1) 健康、不健康、疾病、障害
3	(2) リハビリテーション、看護、介護、死
4	食品保健 (1) 食中毒の予防
5	(2) 食品の安全
6	(3) 食品の安全、飲料水の条件
7	海外旅行と健康 (1) 感染症の問題
8	(2) 飛行機、自然環境、携行医薬品類
9	精神保健 (1) 心の健康、その考え方
10	(2) 心の不健康
11	(3) 精神障害の予防
12	まとめ
備考	

科目名	保健体育講義2	担当者名	青柳 多恵子
-----	---------	------	--------

(半期完結)

講義の目標	<p>近年、健康革命が起こり、人々はタバコ・酒・諸々の薬の人体に及ぼす悪影響について真剣に考え、禁煙に踏切り、よりよい食事や運動に心掛けて病気にならないようにと思い始めた。しかし、現代生活の便利な日常生活が身体に及ぼす影響を考える時、何を成すべきかについてはまだ混乱があるといえる。現実の我々が営んでいる“文化的”なライフスタイルの多くを失わずに、より長く、より健康で、生産的な人生を豊かに生きるための、問題解決を研究することを目標とする。</p>	
講義概要	<p>現代の文明の発達が人間の生活環境や、健康にとって極めて危険な状態にある事と、真の健康の意味を正しく把握し、生涯を通して個々の事態に応じた運動処方の基本をしる。真の健康について検証し、その上に立って個人に合った運動プログラムについて作成していく。個々の体力を検証したうえで、栄養の問題・年齢に応じた運動の問題・日常生活の問題点や環境の作り出すストレスと疾病の関わりを考えながら、安全かつ健康な生活のための運動処方を作成する現代のトータルフィットネスに必要な項目を一つずつ検証する。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『大学生の体力テストハンドブック』 ・『体力科学からみた健康問題』加藤 橘夫著 ・『日本人の健康観』NHK ・『健康・体力づくり』ネット・ローレンス著 ・『スポーマンの食卓』五明 みさ子著
評価方法	<p>テストと出席状況による。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	機械文明の身体に及ぼす功罪について
2	運動不足と健康・疾病との関係
3	体力とは
4	栄養面から見た現代人の健康
5	身体運動から見た現代人の健康
6	疾病から見た現代人の健康
7	スポーツとその運動強度
8	運動処方について [その必要性と在り方]
9	年齢・性差・環境と健康
10	心拍数・エネルギー代謝率・スポーツからみる運動強度
11	個人に合う運動処方と健康維持について
12	まとめ レポート
備考	

科目名	保健体育講義2	担当者名	梶野克之
-----	---------	------	------

(前期完結)

講義の目標	<p>生涯を通じての健康のためには、年齢・体力に応じた身体活動の実践が重要である。人間の社会生活にとって不可欠の文化活動として存在するスポーツ・身体活動の実践により健康の増進と体力の維持向上をはかることが重要になる。これらの課題を解決するために、体育・スポーツに関する情報を理解したうえで、実践に結びつけることが大切である。体育学に関する知識をいろいろな角度から探究し、社会生活にとって重要な基礎的理論を身につけることにより、現在から将来にわたって健康で有意義な社会生活が送れることを目的としたい。前期・後期で講義内容を変えるので興味のあるものを選択してほしい。</p>		
講義概要	<p>体育学に関する知識についていろいろな角度から解説する。 現代社会の特質とスポーツについて、その現状と問題点についての理解を深める。つづいて体育をめぐる心理学的な側面について、個人・集団にわたって解説する。さらに体育・スポーツの変遷について解説していく。</p>		
使用教材	テキスト	必要に応じてプリントを配布する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 桑野豊編『現代社会とスポーツ』不味堂出版 ・ 大学保健体育研究会編『大学生の体育と保健』道和書院 	
評価方法	評価は授業への参加態度、出席回数、定期試験の成績を加味して決定する。		
受講者に対する要望など	半期完結科目であるので、講義内容に注意して選択してほしい。後期を選択する場合も第1回目の授業に出席して下さい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要の全般的な説明と、現代社会とスポーツについて考える。現代社会の特質に伴う体力の必要性や、スポーツに対する考え方の社会的背景とその変化などについて解説する。
2	前回に引き続き、生活の中のスポーツについてその現状と問題点を探り、これからの生活の質をめぐっての理解を深めるとともに、今後の課題について考える。
3	前回に引き続き、現代生活と運動不足について考える。運動不足による生体の変化や、生活構造の変化と体力や、運動不足と疾病についての理解を深める。
4	前回に引き続き、現代社会におけるスポーツについてその概念を理解するとともに、スポーツの施設やスポーツの振興といったスポーツにかかわる諸問題について考える。
5	体育の心理について考える。体育の心理的側面について、発育・発達の意義、発達段階について考え、さらに身体的機能や運動能力の発達などをとらえて理解する。
6	前回に引き続き、体育における運動学習について考える。学習の意義を考えるとともに、運動技能の能率化について理解し、練習の意味を考えると同時に、その効果について理解する。
7	前回に引き続き、体育における集団の心理について考える。集団として実施される体育活動について、その集団の形成や集団の構造について理解するとともに、集団の機能について理解する。
8	前回に引き続き、体育にかかわる心理学諸問題について考える。「あがる」心理についての理解を深めるとともに、かんとこつといわれるものについても考えていく。
9	体育・スポーツの変遷について考える。先史時代の未分化の体育・スポーツについて理解を深めるとともに、古代国家の体育・スポーツの教育的意義について考える。
10	前回に引き続き、体育・スポーツの歴史的な面の理解を深める。中世の体育・スポーツのついでにの考え方を理解するとともに、文芸復興時代の体育の考え方について理解を深める。
11	前回に引き続き、近代体育の成立について各国ごとの体育・スポーツについて理解する。国家や民族に重点をおいた体育思想について理解するとともに個人主義・自由主義の背景について考える。
12	前回に引き続き、体育の歴史的側面について考える。日本の体育・スポーツの変遷について理解する。定期試験の範囲を発表するとともに、出題の傾向について発表する。
備 考	

科目名	保健体育講義2	担当者名	梶野克之
-----	---------	------	------

(後期完結)

講義の目標	<p>生涯を通じての健康のためには、年齢・体力に応じた身体活動の実践が重要である。人間の社会生活にとって不可欠の文化活動として存在するスポーツ・身体活動の実践により健康の増進と体力の維持向上をはかることが重要になる。これらの課題を解決するために、体育・スポーツに関する情報を理解したうえで、実践に結びつけることが大切である。体育学に関する知識をいろいろな角度から探究し、社会生活にとって重要な基礎的理論を身につけることにより、現在から将来にわたって健康で有意義な社会生活を送れることを目的としたい。前期・後期で講義内容を変えるので興味のあるものを選択してほしい。</p>	
講義概要	<p>体育学に関する知識についていろいろな角度から解説する。</p> <p>体育・スポーツの実践にかかわる身体運動について、生理学的な側面から解説し理解を深める。現代社会をめぐる体力についてその現状を理解するとともに、体力を向上させるトレーニングについて考える。</p>	
使用教材	テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・糸野豊編『現代社会とスポーツ』不味堂出版 ・大学保健体育研究会編『大学生の体育と保健』道和書院
評価方法	<p>評価は授業への参加態度、出席回数、定期試験の成績を加味して決定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>半期完結科目であるので、講義内容に注意して選択してほしい。後期を選択する場合も第1回目の授業に出席して下さい。</p>	

年 間 講 義 予 定

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要の全般的な説明と運動の生理について考える。身体活動の生理学的な側面について、運動と呼吸から理解する。呼吸数や換気量を理解したうえで、酸素摂取量やエネルギー代謝などを考える。
2	前回に引き続き、運動と筋力について考える。筋収縮のメカニズムについて考え、収縮のエネルギー源について理解する。運動を制御する神経系についての理解を深める。
3	前回に引き続き、運動と筋力について考える。筋収縮にともなう疲労の発生について理解するとともに、疲労の要因についての諸説を理解する。
4	前回に引き続き、運動と傷害について考える。スポーツにともなう傷害の種類と見分け方を理解するとともに、救急法についても考え、傷害の予防について理解を深める。
5	体力とトレーニングについて考える。体力の概念について理解を深める。学生の体格・体力について理解するとともに、体力診断についてその方法を理解するとともに意義について考える。
6	前回に引き続き、体力づくりとトレーニングについて、その定義について考え理解を深める。さらにトレーニングの一般的な原則についての理解を深める。
7	前回に引き続き、体力づくりの具体的な方法について考える。筋力にかかわる、ウェイト・トレーニングと、全身持久力にかかわる、サーキット・トレーニングについての理解を深める。
8	前回に引き続き、成長期とトレーニングについて考える。長い成長段階に応じたトレーニングについて理解する。身体発達にかかわる要因について考えるとともに年齢に応じたトレーニングについて理解する。
9	前回に引き続き、トレーニングと栄養について考える。運動とエネルギーの補給について理解を深め、運動強度と利用されるエネルギー源についての理解を深める。
10	前回に引き続き、スポーツ活動とエネルギーについて考える。水分の補給やスポーツ選手の体重調節について考えるとともに、ビタミンとミネラルの必要性について考える。
11	前回に引き続き、体力の維持について考える。加齢にともなう体力の変化を理解し、運動習慣と成人病とのかかわりや、運動療法の可能性についても考えていく。
12	前回に引き続き、体力の維持について考える。定期試験の範囲を発表するとともに、出願傾向について発表する。
備考	

科目名	哲 学	担当者名	高 尾 由 子
-----	-----	------	---------

講義の目標	「自分で、哲学的に、考える」ことをめざす。主に西洋哲学の基本的な概念を用いながら、「私」という足場を固め、「他者」と「世界」に向かう態度をつくってゆく。	
講義概要	哲学史上の主要な思想家の著作を手がかりにするが、哲学史の知識を得るのではなく、その考え方、また考えるための準備の仕方を扱う。	
使用教材	テキスト	年間予定を参照。
	参考文献	授業時に指示する。
評価方法	前後期各一回のレポートによる。 提出期限・提出方法は授業時に指示する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義内容の説明をして、哲学という学について考える。
2	プラトンの『ソクラテスの弁明』を読みながら「哲学すること」について考える。
3	"
4	"
5	"
6	"
7	デカルトの『方法叙説』を読みながら、「私」、「精神と身体」について考える。
8	"
9	"
10	"
11	"
12	前期のまとめと課題の説明。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	デカルト以後のヨーロッパ大陸の哲学（大陸合理論）とイギリスの思想（イギリス経験論）を対比させながら、「厳密な知」について考える。
2	"
3	カントの『純粋理性批判』の、とくに序文を読みながら、「主観」、「客観」、「世界」について考える。
4	"
5	"
6	"
7	"
8	"
9	ヴィトゲンシュタインの『論理哲学論考』を読みながら、「言語」と「世界」について考える。
10	"
11	"
12	一年間のまとめと課題の説明。
備考	

科目名	哲 学	担当者名	松 丸 壽 雄
-----	-----	------	---------

講義の目標	人間は存在する限り、様々な問題と遭遇し、それと対決せざるを得ない。その場合に、どのような立場から、どのように問題に対処するかを、様々な角度から考えることができるように目指す。	
講義概要	人の生涯は、生まれ、世界の中に生き、死にゆく。それぞれの人の生涯の中で様々な局面において何時かは考えなければならないのは、生、愛、世界、死をめぐる問題であろう。これらの問題を、どう対処するかを、何人かの思想家の考えたところから知ることにする。続いて、これらの問題を自分の問題として捉えたらどうなるか、をディスカッションを通じて検討して行く。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	講義中に指示
評価方法	最低年二回のレポートとディスカッションの積極的参加度により評価	
受講者に対する要望など	自分で考えようと努力し、ディスカッションに積極的に参加する用意のある人たち。単に哲学的知識を身につけたいだけの人は、他の講義を受けること。ディスカッションという性質上、人数制限も有り得る。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要説明
2	ディスカッションのグループ分け
3	愛について
4	同上
5	同上
6	同上
7	愛をめぐる諸問題
8	ディスカッション
9	各グループの発表
10	同上
11	生について
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の続き
2	身体について
3	同上
4	世界について
5	ディスカッション
6	各グループの発表
7	同上
8	死について
9	同上
10	安楽死、脳死の問題
11	ディスカッション
12	各グループの発表
備考	

科目名	心理学	担当者名	杉山憲司
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>この授業では、性格、発達、動機づけ、社会などの心理学の諸領域からなるべく広範囲なテーマを選び、心理学の問題の捉え方、研究方法を紹介しながら、心理学のキー概念や諸理論を学ぶ。そして、現代の様々な日常的諸問題に諸概念や諸理論を、適用し、諸課題を捉える心理学の視点や問題への対処法について講義する予定である。</p> <p>心理学から見た科学的な人間の理解が講義の最終的な目標である。しかしその人間観は単一ではなく、複数の多様な人間観とその背景をなす研究成果とを学ぶことになる。</p>	
講義概要	<p>心理学の研究内容は日常的で身近な現象が多い。従って、学生は、既に、一定の意見を持っていることが多い。例えば、良心や道徳性の問題、知的理解と行動の関係、社会現象や自分の行動の因果帰属、人の性格の形成と変容過程などであるが、案外、解っていないことも多く科学的研究の成果を論議する。また、心理学は自分自身を研究対象にすることも多く、また、心理学は自分自身が研究者でありながら同時に研究対象という特徴があり、自己意識についても講義する。</p> <p>心理学の領域を大きく分けると、①性格や知性などの様に、一人一人の個性・個人差の領域と、②人間に共通する学習・知覚・動機づけなどの一般的な共通特性とに分けられるが、これらと日常生活との関わりについて講述する予定である。</p>	
使用教材	テキスト	青柳肇・瀧本孝雄・杉山憲司・矢澤圭介（編著）「こころのサイエンス」「トピックスこころのサイエンス」福村出版（各¥1,900）
	参考文献	教科書の各章末に参考文献が示されている。その他は授業中に随時指示する。
評価方法	<p>前後期2回の試験で評価する（追試は教務課を通すこと）。</p> <p>リーディングレポートの実施については授業の始めに相談する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>この授業を自分自身を知り、見つめ直すチャンスとして利用すること。</p> <p>授業を聞く際、自分の専攻や、将来の職業、現代社会の諸問題との関連を考えながら聴講するよう希望する。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	心理学への導入：心理学の全体の体系について。心理学の研究対象と研究方法。他の学問との比較。人間に共通な一般法則を学習する意味。一人一人の個性や個人差について。
2	前期目標：人間の個性理解 I. パーソナリティ（性格）（1章）：1）気質類型論とクレペリン検査、DSM-IVと精神障害
3	2）パーソナリティの特性論 質問紙性格検査、因子分析と根源特性 標準心理検査
4	3）パーソナリティの力動論 フロイトの精神分析、無意識、幼児期の重視、心的外傷 4）人間性心理学説のパーソナリティ論
5	パーソナリティの形成・発達と病理 1）初期経験の重要性、相互作用説、遺伝プログラムと状況規定性 2）パーソナリティの病理と対処法、クライアント中心療法
6	II. 知能と創造性（2章）：1）知能研究の源、知能観と知能検査、2）新しい知能観、偏差値の功罪、能力が動機づけか
7	創造性と創造性の開発：知能検査で測られていないもう一つの能力 1）拡散的思考と集中的思考 2）創造性の育成と活性化
8	III. 生涯発達（3章）：1）研究の源と発達観の変遷、生涯発達の視点 2）研究法：縦断的研究、親や教師の発達観とピグマリオン効果
9	初期発達 1）乳児の気質の型、アタッチメント 2）コンピテンスと自己原因性の獲得
10	社会性の発達 1）道徳性と向社会性の発達段階 2）仲間関係のルールとスキル
11	青年期と自己意識 1）公的自己・私的自己、自我同一性の獲得 2）自己主張、対人不安
12	生涯発達と生き甲斐 1）仕事と生き甲斐、キャリアーとしての職業 2）老人の喪失感、統制感の喪失
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期目標：人間理解のために、IV. 行動の視点からの人間研究（4章） 1）行動の種類と発達・進化 2）学習の基本型、しつけ、情緒の統制など、他律から自律へ
2	行動の視点から人間研究（その2） 1）模倣の理論、役割、影響力のあるモデルの特性など、観察学習の影響 2）行動の自己制御（良心の仕組みと機能）
3	重要な学習・行動の種類と内容 1）スポーツと健康の自己管理、2）技能学習の特徴、自動車運転の要因と交通安全
4	重要な学習・行動の種類と内容（その2社会的行動）：1）リーダーシップ 2）同調と服従、実験室のアイヒマン
5	社会的行動（その2）：3）攻撃行動、愛他行動 4）課題達成と愛他行動のバランスと育成
6	V. 感覚受容器、知覚や認知の視点から（5章） 1）感覚（受容器の特徴や種差など、対人感受性も人毎に違う 2）知覚（恒常性や錯視などの特徴、人毎にもの見方は違う
7	3）認知のプロセス 4）人間の情報処理モデル、日常的判断との異同 2）社会的認知、事象の原因帰属
8	記憶の構造や特徴 1）短期記憶・長期記憶、意味記憶・エピソード記憶など 2）記憶の情報処理モデル
9	VI. 動機づけと情緒の視点から（6章）： 1）生理的動機、ホメオステシス 2）情緒、快不快が行動に及ぼす効果
10	内発的動機 1）知的好奇心、自己原因性、有能感、動機の自発性と活性化の条件 2）内発的動機づけの活性化、最適不適合とズレ理論
11	対人社会動機 1）愛着、共感性と愛他動機 2）動機の矛盾、コンフリクト、フラストレーション、ストレス
12	最終のまとめ 1）心理学からみた人間、2）現代の問題にどれだけ答えられたか、3）自己について何を学び得たか等と、残された諸課題について。
備考	

科目名	心理学	担当者名	三本 茂
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>人間行動を理解するために——心理学は、人間の行動における法則性を明らかにしようとする科学である。今年度の講義では、人間の行動を個人行動と社会的行動の二つの側面から考察する。</p>		
講義概要	<p>個人としての行動の側面については、パーソナリティ（性格、知能、集団的パーソナリティ、適応のメカニズムなど）を取り上げる。</p> <p>次いで、社会的行動の側面では、集団の機能、リーダーシップ、コミュニケーション、社会的態度、文化と社会現象などを扱う。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	その都度紹介する。	
評価方法	<p>前期のレポートと年度末の筆記試験による。ただし、随時のレポート提出を要求することがある。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	性格とパーソナリティー
2	性格の理論(1)
3	性格の理論(2)
4	パーソナリティーの形成
5	集団的パーソナリティー
6	パーソナリティーの診断(1)
7	パーソナリティーの診断(2)
8	適応のメカニズム
9	知能の構造論
10	知能検査
11	知能の分布とその特性
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	人間の集団と他の動物の集団
2	集団の機能(1)
3	集団の機能(2)
4	リーダーシップ
5	集団内のコミュニケーション
6	社会的態度 (形成と変容)
7	社会と文化(1)
8	社会と文化(2)
9	社会と文化(3)
10	社会現象(1) マス・コミュニケーション、流行
11	社会現象(2) 流言、パニック
12	
備考	

科目名	倫理学	担当者名	市川 達人
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>前半は倫理に関する理論的な理解を目的として倫理学上の基礎概念について解説する。</p> <p>後半は今日の実践倫理の主要テーマである環境倫理について考える。倫理的視点から時代をみすえる方法を確立することを目標とする。</p>	
講義概要	<p>私たちの日常生活は様々な倫理的価値や規範を織り込んで成立している。しかし、その論理は必ずしも自覚されているわけではない。その隠れた論理を明晰な自覚にまで高めようとするのが倫理学である。</p> <p>実証科学万能の風潮のなかで冷遇されてきた倫理学であるが、今日環境や医療、また政治や経済の領域で正義や善についての倫理的論議が盛んになってきている。</p> <p>講義は前半と後半に分け、前半では倫理学の原理論を、後半では地球環境の時代が提起する倫理的問題を取り上げていきたい。</p>	
使用教材	テキスト	使用しない
	参考文献	尾関周二編『環境哲学の研究』大月書店
評価方法	<p>後期の一括試験で評価する。</p> <p>レポートの提出を求めることもありうる。</p>	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の予定。倫理学の対象と課題
2	倫理の概念
3	規範としての倫理(1) 動機—行為—結果の連関と倫理的判断
4	規範としての倫理(2) 法の問題
5	規範としての倫理(3) 習俗の問題
6	価値としての倫理(1) 価値と欲求構造
7	価値としての倫理(2) 価値と真実
8	価値としての倫理(3) 人格と人間性の価値
9	倫理的問題状況と倫理学の歴史(1)
10	倫理的問題状況と倫理学の歴史(2)
11	功利主義と自由主義(1)
12	功利主義と自由主義(2)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	環境をめぐる問題状況
2	環境と自然の概念(1)
3	環境と自然の概念(2)
4	人間中心主義と生命中心主義(1)
5	人間中心主義と生命中心主義(2)
6	共生とは？
7	人間存在の特異性と自然との関係
8	社会的公正と環境倫理
9	フェミニズムと環境倫理
10	マルサス主義と環境倫理
11	風土の理論と環境倫理
12	まとめ
備考	

科目名	国語学（94年度以降） 日本語学（93年度以前）	担当者名	桂 千佳子
-----	-----------------------------	------	-------

講義の目標	<p>コトバの本質について深く考え、各自が、自分なりの言語観を持てるようにする。 書くことを通し、自分の中に、表現するためのルートづくりをする。</p>	
講義概要	<p>はじめに、自分にとってコトバとは何か、ということを考えながら、コトバの本質や機能について学ぶ。その後、日本語の特徴について、表記、文の構造、文法観などをとりあげながら触れていく。</p>	
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	・金田一春彦・林大・柴田武編『日本語百科大事典』大修館書店 各テーマごとに参考文献を指示する。
評価方法	<p>前期のレポート（第8回の実作の時に提出）と、後期のテストとの総合評価とする。</p>	
受講者に対する要望など	<p>一般論として捉えるのではなく、自問自答をくり返しなが、各自が独自の見解を持てるようにしてほしい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要、方針等について触れる。 コトバへの想い ー母語と母国語, 言霊
2	頭の中の文法 ー外国人学習者の誤用例をめぐって
3	「コトバが話せる」のは本能か
4	コトバはなぜ通じるのかⅠ ー現象と認知と言語表現
5	コトバはなぜ通じるのかⅡ ーソシユールの言語理論
6	コトバはなぜ通じるのかⅢ ー理解するということ
7	コトバはなぜ通じるのかⅣ ー表現するということ
8	コトバと取り組むⅠ ー実作(作文を書いて提出してもらいます。)
9	コトバと取り組むⅡ ー作文返却, 講評
10	日本語の表記Ⅰ ー漢字とマンガ
11	日本語の表記Ⅱ ー漢字が脳の発達を妨げる?
12	日本語の表記Ⅲ まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	コトバの構造と文法観
2	日本語の文の構造Ⅰ
3	日本語の文の構造Ⅱ ーコトの種類
4	日本語の文の構造Ⅲ ームード
5	日本人が考えてきたことⅠ ー「桜が咲く」は文か
6	日本人が考えてきたことⅡ ー「言語過程説」という考え方
7	日本人が考えてきたことⅢ ー渡辺実の構文論
8	日本人が考えてきたことⅣ ー「主語廃止論」とは?
9	日本語の「時」の表現Ⅰ ーテンス
10	日本語の「時」の表現Ⅱ ーアスペクト
11	まとめ、質疑応答
12	テスト
備考	

科目名	国語学（94年度以降） 日本語学（93年度以前）	担当者名	小島幸枝
-----	-----------------------------	------	------

講義の目標	<p>世界の言語を使用人口の割からみると、ドイツ語に並んで第6位に位置づけられる日本語を、日本人自身は、学校教育を通して体系的には学んでいないのではないだろうか。国際社会にあって日本人の海外進出が日常的になっている現今、単に日本で生れ成長して日本語で用が足せる程度では日本語を修得しているとはいえない。</p> <p>本講では日本民族の地理的環境をふまえた重層文化に根ざす日本語の、基本知識の修得を目標とする。</p>		
講義概要	<p>国語学とはどのような内容をもつ学問なのか、国語学の分野を、音声音韻・文字・文法・語彙・文体の領域に分けて講義する。</p>		
使用教材	テキスト	<p>福島邦道著 国語学要論（笠間書院）</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・岩波講座日本語（岩波書店） ・講座日本語学（明治書院） ・橋本進吉：国語学概論（岩波書店） ・金田一春彦：日本語（岩波新書） ・築島裕：国語学（東大出版会） ・国語学会編：国語学大辞典（東京堂） ・佐藤喜代治編：国語学研究事典（明治書院） 他 	
評価方法	<p>原則として前期はテスト、後期はレポートとする。</p>		
受講者に対する要望など	<p>日本語教師を志す学生は受講することが望ましい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本語の特徴（日本語系統論のきめて）
2	日本語の音韻（音声学と音韻論、音節文字）
3	五十音図といろは歌、天地詞
4	漢字音
5	音韻の変遷
6	アクセント
7	文字（漢字、国字）
8	仮名1（万葉仮名、上代特殊仮名遣）
9	仮名2（片仮名、反切）
10	仮名3（平仮名）
11	かなづかい（定家仮名遣、契沖仮名遣、歴史的仮名遣）
12	ローマ字（単音文字）ポルトガル式ローマ字、ヘボン式ローマ字、日本式ローマ字
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文法総説(1)
2	文法総説(2)
3	文法総説(3)
4	文法総説(4)
5	文法総説(5)
6	文法総説(6)
7	語彙・文体・辞書について(1)
8	語彙・文体・辞書について(2)
9	語彙・文体・辞書について(3)
10	語彙・文体・辞書について(4)
11	語彙・文体・辞書について(5)
12	国語問題について 21世紀の日本語への展望
備考	

科目名	国語表現（94年度以降） 国語（93年度以前）	担当者名	飯島一彦
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	<p>言語の表現手段には、「読む」「書く」「話す」「聞く」「考える」などの分野があるが、中でも、現在の日本の教育課程ではほとんど省みられることのない、日本語を「話す」「聞く」ことを中心に、「考える」にまで至る、表現の基礎的なトレーニングを行なう。表現手段を獲得できなければ、十分な表現をなしえることはできず、従って他者とのコミュニケーションを完成させることも期待できない。この授業は、日本語によるコミュニケーションを、口頭表現を中心に、より完全に近づけることが目標となる。</p>	
講義概要	<p>基礎的な概念は講義するが、それをもとにした実践、つまり学生諸君の毎時間の表現の、実際のトレーニングが主体となる。毎週出される課題に一週間とりくんで、次の週の授業時にその結果をもとに実践する、といった形式が多くなる。従って、トレーニングは課題を前提になされるから、課題にとりくまなかったものは受講しても無意味である。</p>	
使用教材	テキスト	特になし
	参考文献	特になし
評価方法	<p>毎回のトレーニングに対するとりくみの深さ、その成果。夏期・冬期休業中に課するレポート他の課題の提出、後期最後に行なわれる発表の成果、等々平常点の成績が中心となる。</p>	
受講者に対する要望など	<p>膨大な課題が出されるので、覚悟して受講すること。欠席すると表現の訓練の連続性が損なわれるので、欠席しないこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業ガイダンス。
2	講義：国語とは、表現とは、コミュニケーションのサイクル。
3	
4	
5	
6	
7	諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
8	
9	
10	
11	
12	夏休み課題ガイダンス。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏休み課題提出。後期ガイダンス。
2	
3	
4	
5	
6	諸君の進度に応じた、各種トレーニング・プログラム。
7	
8	
9	
10	
11	
12	冬休み課題提出。年間のまとめ。
備考	

科目名	国語表現（94年度以降） 国語（93年度以前）	担当者名	小島幸枝
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	<p>過去の人間の考え方に共鳴したり、未来の人間に語りかけられるのはことばの力である。しかしことばは、ただ通じればよいというものでもない。人の心をうつ美しいことば、的確な表現、それは確かに才能にもよるがたゆまぬ努力と訓練によってある程度習熟できるものである。本講は、社会人予備軍としての大学生の日本語力を培うために、社会の変化に関心をもち情報の吸収および判断力を養うこと、実用文を短時間で書きあげる練習、敬語の使い方、手紙の書き方など、国語の運用面について講述する。</p>		
講義概要	<p>前期は音声言語表現を中心とし、一分間スピーチの演習、朗読など、後期は文字言語表現を中心とし、実用文の実作、相互の添削、手紙文のかき方などを学ぶ。評価は平常点をもってする。すなわち課題として社説の要約、800字の作文、読書報告文を提出する。</p>		
使用教材	テキスト	松村明編『国語表現法』おうふう	
	参考文献	・都度、紹介する。	
評価方法	提出物による平常点、および出席点。		
受講者に対する要望など	授業中に作業することがありますので、無断で2週連続して欠席した場合は受講資格がなくなると思っています。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	表現者（送り手）と理解者（受け手）のことばにおけるメカニズムを概説
2	音声言語について。文字言語との差異および特徴の認識
3	音声言語の種々相
4	日本語の基礎知識——日本語の音韻、アクセントの特徴
5	美しいことばの条件。正確さと品格をどのように獲得するか
6	スピーチ（演習） 互いのスピーチをきいて評価、および自己評価をする
7	反省とまとめ（次週ディベートの予告）
8	ディベート
9	反省とまとめ
10	敬語について。日本の敬語の歴史と特徴（上代～中世）
11	同上（中世末～現代）
12	漢字テスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文字言語——文章を書く手順、材料の収集法
2	文章を書く——自由文又は意見文
3	交換、添削しあう
4	手紙を書く——型のある文章、敬語
5	材料の収集と選択、配列——説明文、報告文を書く
6	文献、資料を用いて文章を補強する
7	漢字テスト
8	アウトラインの作り方——効率よく文章を書くために
9	評論を書く
10	段落とトピックセンテンスのきめ方——書評を書く
11	交換、批評しあう
12	推敲のポイントを学ぶ。まとめ
備考	前期は、読解と実作を習慣づけるために宿題形式で①社説要約（週1作）②読書報告（月1本）③作文（週1作）を課すが後期は短時間で実作する習慣をつけるために作文は授業中に完成する。従って③の課題はない。

科目名	国語表現（94年度以降） 国語（93年度以前）	担当者名	中村文
-----	----------------------------	------	-----

講義の目標	<p>私たちが他者と接する場面で、言葉はどのようにはたらくものなのだろうか。「超～」や「すげ～」と言うだけで、気分を伝え合うことのできる相手との会話は、確かに楽かもしれないけれど、そこに安住しては、他者にも、そして他ならぬ自分にさえ、出会うことができない。社会に出て働き始めれば、また厳しい言葉の規範に従わざるをえず、それで自分自身が見つけにくくなってしまいうことも多いだろう。だから、比較的自由に言葉が使える今、自分の考えをかたどることを通して、「私とは何か」という問題を見つて直す時間を持ってもらいたい。</p>		
講義概要	<p>日本の国語教育は、あまりにもアララギ的な考え方に毒されていると思う。抒情的であることも、抽象的な概念で事態を示すことも、大事には違いないが、最も重要なのは、言葉によって対象を理解すること、自分の考えを言葉できちんと伝えられることではないだろうか。従って、この授業では、自分の使っている言葉を認識することから始めて、様々なジャンルの文章を読んで、それに対する自分の考えを書くことに重点を置く。読んでもらう文章は、現代的なテーマを取り扱ったものであるから、書くことを通して、考え、判断する力も養ってほしい。提出されたものは、授業中に取り上げることがあるので、これを了解した上で受講されたい。</p>		
使用教材	テキスト	授業時にプリントを配布する。	
	参考文献		
評価方法	<p>ほぼ毎回、書くことを要求する。特別に試験・レポート等は課さず、提出された文章によって判定する。但し、上手・下手とか、内容が高邁であるか否かによるのではなく、自分と言語との関係に対して、どの程度真剣に取り組んでいるかという観点から評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>B5、またはA4の原稿用紙を用意すること。その他の注意事項は、第1時間目に口頭で伝える。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンス。授業の進め方についての説明
2	中世のなぞなぞを解いてみよう。字謎を作ってみよう。
3	折句を作ってみよう。／自分の中の言葉の掘り起こし
4	昨日の出来事を簡単に書きとめてみよう。／普段使っている言葉を認識する
5	興味のある事柄を示して、自己紹介文を書いてみよう。／「考えていること」と文章の落差
6	新聞を読んで、文章を批判してみよう。／言葉を縛る規範
7	an・anを読んでみよう。／通念は誰が作るのか
8	新聞の論説を読んで、批判してみよう。／硬直することのつまらなさ
9	佐藤信一『言述のすがた』を読む
10	上野千鶴子『〈私〉探しゲーム』
11	大塚英志『子供流離譚』
12	田中貴子『〈悪女〉論』
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	松浦理英子『優しい去勢のために』
2	大平健『拒食の喜び、媚態の憂鬱』
3	鷺田清一『ちぐはぐな身体』
4	小倉千加子『風を野に追うなかれ』
5	四方田犬彦『ストレンジャー・ザン・ニューヨーク』
6	種村弘『シンジケート』
7	小森陽一『物語としての文体』
8	中村雄二郎『共振する世界』
9	多木浩二『欲望の修辞学』
10	田中克彦『言語学とは何か』
11	山下洋輔『ピアノ弾き翔んだ』
12	中島梓『コミュニケーション不全症候群』
備考	

科目名	国語表現（94年度以降） 国語（93年度以前）	担当者名	肥田野 昌之
-----	----------------------------	------	--------

講義の目標	日本語への関心を深め、日本語による表現を豊かにしようとするものである。また常用漢字の練習や日本語・日本文学の基本的な知識などの学習を通して、大学生としての教養も深めたいと思う。	
講義概要	論理的な文章表現の習得を目的とし、文章の構成・段落の問題、表記法、原稿用紙の使い方などの基礎的事項についての講義と実習を行い、文章による効果的な伝達の技能を養うようにしたい。 また、文字の問題・仮名づかいなど日本語に関する知識や教養としての日本文学に関連する基本的知識についても言及したい。	
使用教材	テキスト	特に使用せず、その都度プリント配布。
	参考文献	
評価方法	授業への出席と実作および年度末試験によって決定する。	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	国語・国語表現についての意義と一年間の講義概要を説明する。
2	現代社会における文章の機能についての考察とともに文章上達法についても考える。
3	「文は人なり」について考えるとともに文章と文体についても言及する。
4	文章表現のプロセスとして、文章の目的・主題の選定・主題の限定などについて説明する。
5	文章表現のプロセスとして、材料の意義・材料の源泉などについて説明する。
6	文章表現のプロセスとして、材料の順序と構成・アウトラインについて説明する。
7	豊かな内容とは——物の見方や読書などについて考える。
8	国語表記の問題——段落の分け方や送りがななどについても言及する。
9	原稿用紙の使い方や校正などについて説明する。学生が黒板に出て、漢字かなつけ・漢字書き取りを行う。
10	作文を書く（添削と採点）
11	作品を返還して、感想や注意事項を述べる。特に誤字の問題、常体・敬体の混在など。学生が黒板に出て、四字句の完成などを行う。
12	教養としての文学史——熊野・附子など——
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	教養としての文学史——勸進帳・与話情浮名横櫛など——
2	文字について——特に「漢字御廃止之儀」から常用漢字までを概説する。
3	仮名づかいについて——仮名づかいの歴史、特に歴史かなづかいと現代かなづかいに力点をおいて説明する。
4	標準語と方言について説明し、女房詞や忌詞などについてもふれる。
5	文章のさまざま——実用性の濃い文章と芸術性の濃い文章など——
6	手紙を書く——添削——
7	手紙の書き方——手紙の形式を中心にして説明する。
8	課題作文を書く（添削と採点）。
9	作品を返還し、感想や注意事項を述べる。学生が黒板に出て、漢字かなつけ・漢字書き取りを行う。
10	まとめとしてプリント二枚を配り、年度末試験についての傾向と対策を説明する。
11	教養としての文学史——俳句について——
12	ことばと社会について——ことばの乱れや敬語法について考える。
備考	

科目名	日本文学	担当者名	飯島一彦
-----	------	------	------

講義の目標	<p>中世から近世にかけて爆発的に産み出された『お伽草子』群は、日本文学史上においては初の庶民文芸と言ってよいが、庶民文芸であるからこそ、実は長きにわたる日本の文化伝統をそのままに体現している重要である。今年はその中でも特に親しまれ、昔話としても流布し、学生諸君も小さい頃から知っているはずである「浦島太郎」と「一寸法師」を取りあげて、単なるお伽話としか思っていないものが、どれほど深くて長い文化伝統にのっとって作られているものか、それを受け取る読者、つまり我々の感覚がどれだけ伝統的なものか、明らかにしていく。</p>	
講義概要	<p>前期は「浦島太郎」、後期は「一寸法師」を取りあげる。どちらの話も記紀万葉から明治時代の国定教科書を経て、現代に至るまでの長い伝承の歴史を持っている。それらを逐一つまびらかにして、歴史的な変容を明らかにすると共に、変わらない点はどこなのかを明らかにしていく。そのために、古文の講読・解釈を毎時間することになる。</p>	
使用教材	テキスト	その都度教室で配付する。
	参考文献	その都度教室で指示する。
評価方法	年二回のレポート、学年末試験の成績による。	
受講者に対する要望など	長大なレポートを課するので、様々な文献を読み、考える覚悟が必要である。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「お伽草子」とは何か？
2	「浦島太郎」を読む①
3	「浦島太郎」を読む②
4	「浦島太郎」を読む③
5	奈良時代の「浦島太郎」① 日本書紀
6	奈良時代の「浦島太郎」② 万葉集
7	平安時代の「浦島太郎」①
8	平安時代の「浦島太郎」②
9	昔話・伝説の中の「浦島太郎」
10	国定教科書の「浦島太郎」
11	まとめ：日本人の異郷意識：異人、幸福、時間
12	予備日「絵本の中の浦島太郎」
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「一寸法師」を読む ①
2	「一寸法師」を読む ②
3	「一寸法師」を読む ③
4	奈良時代の「一寸法師」①
5	奈良時代の「一寸法師」②
6	平安時代の「一寸法師」①
7	平安時代の「一寸法師」②
8	芸能に見る「一寸法師」
9	国定教科書の「一寸法師」
10	昔話の「一寸法師」
11	まとめ：日本人の侏儒観、異人と差別意識、畏れと憧れ。
12	予備日「絵本の中の一寸法師」
備考	

科目名	日本文学	担当者名	北村 進
-----	------	------	------

講義の目標	<p>近代の代表的な短編小説を読み味わいながら、小説のおもしろさ、奥深さを学ぶとともに、人間・社会・愛・自己などについて考える。いろんな作品を取り上げることによって、それぞれの作者の考え方・ものの見方の違いを知り、小説に対する興味を持たせたい。今が一番本を読める時期なので、本を選ぶ手助けとしたい。</p>	
講義概要	<p>近代を代表する作家の短編小説をなるべく多く読み、内容を把握しながらその作品世界について考える。作品の読み、解説が中心となるが、作品を読んだ後に、簡単な読后感想を書いてもらう。これも評価の対象とする。</p>	
使用教材	テキスト	『近代の短篇小説』（榎おうふう）。その他必要があればその都度指示する。
	参考文献	その都度指示する。
評価方法	<p>前期はレポート、後期は未定。 出席を重視する。その他講義時に課すさまざまな課題。</p>	
受講者に対する要望など	<p>休まず出席すること。講義中無駄話をしないこと。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義の概要を説明する。近代文学についてどの程度の知識があるか、簡単な試験を試みる。
2	初めに坂口安吾を取り上げる。坂口安吾について解説し、安吾の文学史における位置付け、及び「無頼派」について解説する。
3	坂口安吾の代表作である「桜の森の満開の下」を読む。
4	「桜の森の満開の下」の作品世界について考察し、他の作品についても解説する。
5	太宰治を取り上げる。太宰の生涯をたどりながら、文学活動を三期に分け、それぞれの特徴について解説する。
6	「桜桃」を読み、晩年の太宰について「家庭」という面から考察する。
7	太宰の作品の中で最もよく読まれている「走れメロス」を取り上げ、この話の元となったシラーの「人質」との比較を通して、作品化の方法について考察する。
8	同 上
9	横光利一「頭ならびに腹」「蠅」を読み、その作品の意図を探り、「新感覚派」について解説する。
10	横光利一「春は馬車に乗って」を読み、解説する。
11	中島敦を取り上げる。中島敦について解説し、「名人伝」を読む。
12	「名人伝」について解説し、中島敦の文学方法について考察する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	樋口一葉の生涯を解説し、「十三夜」を読む。
2	「十三夜」について解説し、他の作品にも触れる。
3	森鷗外を取り上げる。鷗外について解説し、「普請中」を読む。
4	「普請中」について解説する。
5	鷗外の歴史小説を紹介し、「阿部一族」を読む。
6	「阿部一族」について解説する。
7	大江健三郎について解説し、「他人の足」を読む。
8	「他人の足」について考察し、作品の意図をさぐる。
9	武田麟太郎について解説し、「雪の話」を読む。
10	「雪の話」について解説する。
11	有島武郎「小さき者へ」を読む。
12	葛西善蔵「哀しき父」を読む。
備考	

科目名	日本文学	担当者名	肥田野 昌之
-----	------	------	--------

講義の目標	日本の代表的な古典である『万葉集』を講読する。主として作品の背景をなす万葉の時代・万葉人の生活・歴史的な事件などについて解説し、教養として必要な「万葉集入門」となるような講義をしたいと思う。		
講義概要	<p>前期は主として、初期万葉の歴史的な事件を背景として、有間皇子や大津皇子の悲劇・額田王や但馬皇女などについて、その歌とのかかわりで物語風に概説する。それとともに代表的な歌人たる柿本人麻呂や山部赤人などについて考察する。</p> <p>後期は主として、伝説・説話の歌や東歌・防人歌の問題、また山上憶良・大伴家持などの有力歌人について広く検討してみたい。</p>		
使用教材	テキスト	小野寛校註『万葉集抄』笠間書院	
	参考文献	斎藤茂吉『万葉秀歌』上下（岩波新書）	
評価方法	授業への出席と前・後期の試験によって決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要の説明。『万葉集』についての名義・成立・注釈書などを概説する。
2	巻一 1番・雄略天皇の歌について考える。
3	中大兄の三山歌について、いろいろの角度から考察する。
4	額田王とその歌についての説明と鑑賞。
5	柿本人麻呂とその長歌を中心に読む。
6	大津皇子・大伯皇女について、謀反事件との関連で、それらの歌を読む。
7	穂積皇子と但馬皇女の悲恋と歌物語について。
8	有間皇子の謀反と歌について、『日本書紀』を参考にして考える。
9	柿本人麻呂の短歌とその終焉について考える。
10	前期のまとめとして、プリント二枚を配って前期試験の傾向と対策について説明する。
11	山部赤人「不尽山を望くる歌」を中心に読む。
12	大宰帥大伴旅人「酒を讀むる歌」を中心にして読む。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	真間娘子の歌——赤人と虫麻呂——
2	山上憶良とその歌——貧窮問答歌を中心にして——
3	万葉集の歌体について、特に旋頭歌を中心にしてその歌と説明。
4	高橋虫麻呂の伝説歌について——浦島子・菟原処女など——
5	寄物陳思・正述心緒——巻十一の歌を読む。
6	万葉集の用字法——特に義訓・戯訓など——
7	東歌についての説明と歌。
8	中臣宅守と狭野弟上娘子の悲恋とその贈答歌について。
9	巻十六有由縁并雑歌を中心に読む。
10	後期のまとめとして、プリント二枚を配り後期試験の傾向と対策について説明する。
11	大伴家持とその歌について読む。
12	防人歌についての説明と歌。上代特殊仮名遣についても説明する。
備考	

科目名	外国文学	担当者名	北澤 滋 久
-----	------	------	--------

講義の目標	文学を味わうことの愉しさを伝え、併せて教養豊かな国際人をめざす者の人間形成の一助とすることを主たる目標とします。		
講義概要	<p>—英米の文学に観る人間像—</p> <p>英米の文学のなかの古典・傑作をいくつかのトピックスに大別して、1講義、1作家、1作品を原則に、定説を踏まえながらも担当者独自の観点から解説してゆきます。毎回聴いていけば「学」はつくでしょうが、文学史的な体系を覚えてもらうつもりではありません。何より受講者の感性に訴えたく思います。文学は本来楽しいものはずです。この際ちょっと読書好きになってさえもらえれば、美しく感動的に描かれた未知の人生や思想と出会えて、心地よい興奮とともに、ずっしりと重く自分の人生への指標が仄かに視えてもくることでしょう。こうした文学へのいざないに、肩のこらない楽しい授業にしたいと思います。興味ある向きは、最初のガイダンス授業を覗いてみてください。</p>		
使用教材	テキスト	テキストは特に定めません。	
	参考文献	参考文献は、2回目の授業時間に一覧表にして配布します。	
評価方法	前期の講義で扱った作品の中から一編を読んで（翻訳可）、その感想文を夏休み後に提出してもらいます。これと後期の試験により評価します。		
受講者に対する要望など	毎年多数の受講者の集まるのは結構なのですが、熱心な学生から私語が多くて困るとの苦情が出ています。単に単位獲得のみを目的とする方は悪しからずご遠慮ください。因みに毎年20-30%の不合格者が出ています。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	登録のよすがに：本講義の内容と目標、そして受講者に願うこと
2	開講の辞：言語・文学・芸術、そして言語芸術としての文学
3	I 現代文明下のアメリカの少年たち 『ハックルベリーの冒険』：インノセントな魂 THE ADVENTURES OF HUCKLEBERRY FINN by Mark Twain
4	『ブラック・ボーイ』：人種差別に抗って BLACK BOY by Richard Wright
5	『ライ麦畑でつかまえて』：現代社会に生きることの苦悩 THE CATCHER IN THE RYE by J. D. Salinger
6	II 19世紀、イギリスの娘たち 『テス』：汚された？純潔 TESS OF THE D'URBERVILLES by Thomas Hardy
7	『フロス河畔の水車場』：新しい女性の生きざまを求めて THE MILL ON THE FLOSS by George Eliot
8	『ジェーン・エア』：自立する女性 JANE EYRE by Charlotte Brontë
9	III 19世紀、英米文学の驚異 『嵐が丘』：天国と地獄のパラドックス WUTHERING HEIGHTS By Emily Brontë
10	『白鯨』：近代的英雄の悲劇 MOBY-DICK by Herman Melville
11	IV 英雄不在の20世紀の英雄たち 『ロード・ジム』：英雄ならざる英雄の悲劇 LORD JIM by Joseph Conrad
12	『老人と海』：一老漁師にみる英雄的雄姿 THE OLD MAN AND THE SEA by Ernest Hemingway
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	V 海洋（冒険）小説の諸相 『ロビンソン・クルーソー』：孤島に生きる近代人 THE ADVENTURES OF ROBINSON CRUSOE by Daniel Defoe
2	『ガリヴァ旅行記』：人間嫌悪の結晶 GULIVER'S TRAVELLS by Jonathan Swift
3	VI 近代芸術観の極致 『月と六ペンス』：芸術家の狂気 THE MOON AND SIXPENCE by William Somerset Maugham
4	『アッシュナー館の崩壊』他：至上の美を求めて THE FALL OF THE HOUSE OF USHER by Edgar Allan Poe
5	『ドリアン・グレイの肖像』：耽美の世界に踏み入って THE PICTURE OF DORIAN GRAY by Oscar Wilde
6	VII 父なるもの、母なるものの原像 『ハムレット』：青年の母への愛憎 HAMLET by Wiliam Shakespeare
7	『息子たち、恋人たち』：母と息子の絆 SONS AND LOVERS by D. H. Lawrence
8	『若い芸術家の肖像』：父なるものを求めて A PORTRAIT OF THE ARTIST AS A YOUNG MAN by James Joyce
9	VIII 倫理と欲望の狭間 『ねじの回転』：女性家庭教師のみた幻想 THE TURN OF THE SCREW by Henry James
10	『事件の核心』：信仰と不倫に揺れて THE HEART OF THE MATTAER by Graham Greene
11	『緋文字』：姦通と復讐の贖い THE SCARLET LETTER by Nathaniel Hawthorne
12	閉講の辞：芸術と人生、そして質疑・応答
備考	

科目名	外国文学	担当者名	松山恒見
-----	------	------	------

講義の目標	読書の愉しみと、それによってもたらされる教養の基盤がどれほど大きいかを悟ってもらうこと。特に、自国文学ではなく、他国のそれは、地球規模でものを考える時代には、よその国の人びとの思想感情を少しでも理解すると共に、他山の石として、自分の生活や研究にも役立てられるはずで、これも当然、射程に入る。	
講義概要	本年度については、広く読まれている作品を可能なかぎり中軸にしたい。同時に、文学作品を架空の出来事と見るのではなく、自分の人生にひき較べるような読みかたを会得させたい。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	多岐にわたるので、その都度指示。
評価方法	前・後期とも、課題図書を定め、その読後感を書いてもらうことで評価の50%とする。残る50%は、通常の試験と同様で、講義内容の理解度を見る出題による。	
受講者に対する要望など		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	読書について——文学とは何か。自国文学を知るためにも、外国文学を知ろう。
2	ヨーロッパ文学の源泉(1) 古代ギリシャ・ローマ文明、とくにその文学。
3	ヨーロッパ文学の源泉(2) 聖書、キリスト教。
4	中世文学——ロランの歌、トリスタンとイゾー、狐物語、ヴィヨン。
5	十六世紀(ルネッサンス)——モンテーニュとラブレー。
6	十七世紀——古典主義、コルネリュ、ラシーヌ、モリエール。
7	十七世紀(2) ラ・フォンテーヌ、デカルト、パスカル、モラリスト、ラファイエット夫人(クレヴの奥方)。
8	十八世紀——啓蒙主義、ヴォルテール、ディドロ。(課題図書発表)
9	十八世紀(2)——ルソオ、「危険な関係」、「ポールとヴィルジニー」、「マノン・レスコー」。
10	フランス革命をめぐる。アナトール・フランスの「神々は渴く」。
11	十九世紀——ロマンチズム。シャトーブリアン、スタール夫人、(輔)コンスタンの「アドルフ」。
12	十九～二十世紀文学の展望。(進度調節)
備考	

後期

週	主要テーマ
1	ロマンチズムの四大詩人。ユーゴー。
2	スタンダールの「ラシーヌとシェイクスピア」をめぐる。
3	ジュールジュ・サンド、バルザック。
4	スタンダール、メリメ。
5	フロベール、モーパッサン。
6	ボードレール、ヴェルレーヌ、ランボー、マラルメ。(象徴主義)
7	十九世紀のその他の作品。
8	ゾラ、自然主義。(課題図書発表)
9	アンドレ・ジイド、ヴァレリー、ブルースト。
10	コクトー、ロマン・ロラン、マルタン・デュガール、その他。
11	サルトル、ボーヴァール、カミュ、モーリャック。
12	現代文学。ルイ・アラゴンからミシェル・トゥルニェまで。
備考	

科目名	外国文学	担当者名	宮澤康造
-----	------	------	------

講義の目標	<p>訓読漢詩文を通じて、中国の古典を学習し、その読解力を身につける。特にわが国の古典に大きな影響を及ぼした唐代の詩文について学ぶ。あわせて現代に生きる漢文故事成語の原典に当り、また広く故事成語を理解する。</p>		
講義概要	<p>古くから日本の文物制度は、中国に負うところが大きい。特に中国文学がわが国の文学に与えた影響は大きい。日本古典の学習には、漢文の読解力や理解を無視することはできない。</p> <p>本講座では、漢文読解の力を養い、漢詩文を理解し、また日本で現在も生きている故事成語を広く学ぶ。基礎編で漢文の訓読、演習編で漢詩文の読解・演習に当る。</p> <p>さらに参考のプリント教材を多く用意して、広く中国文学の概要を学び、日本所在の漢詩文の碑（いしづみ）の読解なども加えて、興味ある講座を用意している。</p>		
使用教材	テキスト	詩文選・故事成語考（御牧貞風編）	
	参考文献	<p>①漢文学習のための辞典 ②教材学習のための参考書</p> <p>いずれも授業時プリント等で示し、解説する。</p>	
評価方法	<p>①出席状況を重視する。日頃の訓読演習への参加は学習向上への鍵。</p> <p>②前・後期末実施のテストの成績。</p> <p>③学生の自己評価表も参考にする。</p> <p>④自主レポート</p> <p style="text-align: right;">以上の四点から総合評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>継続は力、日常の学習の積み重ねが肝要。平気で休んだり遅刻するような学生は始めから申し込みをしないこと。学問を通じて人間形成を望む者は来れ。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	漢文学の学習について——日本文学と中国古典との関連にふれ、漢文学習の重要性を知る。まず身近かな故事成語から学ぶ。年間講座要項の説明。
2	漢文の基礎——漢文訓読の方法について学ぶ。現代に生きる漢文故事成語にどんなものがあるか。その原典は。初め三回はプリントによる考究。
3	漢文の基礎——漢文の字源（成り立ち）、中国の歴史概略、中国文学の日本文学への影響、日本所在の漢文・漢詩碑について。森鷗外撰文の漢文碑の通読。
4	訓読基礎編——「他山之石」「五十歩百歩」（テキスト1頁） 読解（指名読・範読・斉読・語釈・通解・・・以下共通）日本のことわざと比較
5	「矛盾」「朝三暮四」「借虎威」（テキスト2～3頁）読解。
6	「蛇足」「四面楚歌」「寒翁馬」（テキスト4～6頁）読解。
7	漢文故事成語考（テキスト27～54頁）の学習。故事成語をどのように理解するか。その出典との関係を考える。
8	年令の異称・名数についての理解。（テキスト55～60頁）
9	演習編 陶潜「飲酒」の読解。陶潜の生涯とその文学について。
10	「帰園田居」の読解。古詩の押韻について。
11	「帰去来辞」「五柳先生伝」の読解。中国の文章の種類について。
12	全国漢詩碑についての考察。夏休みの自主レポートのこと。
備考	夏休みの余暇に、漢文や漢詩の碑を探訪して、その読解を試みる。（参照——全国漢詩碑）読めないところは、後期の質問として解明していく。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期の答案返却と概評。王維の詩「送元二使安西」の読解。「唱渭城」とは。唐代の詩の概説——主なる詩人とその作品について——
2	劉希夷「代悲白頭翁」（白頭吟）の読解。対句的表現の妙について。
3	李白と杜甫について——プリントにより対比考察。李白と「子夜呉歌」、「子夜呉歌」読解。楽府について解説。
4	李白の詩を学ぶ——テキスト六編の中より好きな一詩をとくに考究して、暗誦できるまで学習する。六詩の通解。
5	杜甫の詩を学ぶ——テキスト六編の中から好きな一詩を選び、暗誦できるまで学習する。「貧交行」～「月夜」の五詩通解。
6	杜甫の詩「兵車行」の考究。設問（プリント）の解答。杜甫の詩の特色についてまとめる。
7	白居易について——その生涯と作品について——「慈烏夜啼」読解。
8	「長恨歌」を学ぶ。——長編の詩の通読、表現上の特色について知る。段落と押韻について考究。第一段の読解。
9	「長恨歌」を学ぶ。——第二・三段の読解。設問（プリント）の解答。
10	「長恨歌」を学ぶ。——長恨歌伝、長恨歌の背景について解説。
11	「長恨歌」と日本古典——源氏物語をはじめ、わが国古典に及ぼした影響を考究、さらに中国古典と日本文学との関係を学ぶ。
12	故事成語学習のまとめ——故事成語の原典の通読（テキスト27～54頁）現代の新聞にあらわれた故事成語について。
備考	

科目名	外国文学	担当者名	山路朝彦
-----	------	------	------

講義の目標	ドイツの作家カフカの作品について論じながら、小説を読むという日常的な行為を問い直したいと思います。それを通して、自明に思われることを問題として考えていくという、大学での勉強に必要な技術を身につけましょう。	
講義概要	カフカの作品をあらかじめ紹介するとともに（映画化や演劇化されたものも使います）、その作品を読み直しながら、様々な解釈の可能性を考えていきます。	
使用教材	テキスト	カフカの作品について教室で指示します。
	参考文献	
評価方法	前・後期のレポート	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	文学の理論へ ①感想・印象と批評、文学の理論と西欧の特質
2	カフカの作品紹介
3	カフカの作品紹介
4	カフカの作品紹介
5	カフカの作品紹介
6	文学の理論へ ②伝記・評伝と影響史、文学史と文学社会誌
7	文学の理論へ ③「小説」の誕生とその歴史
8	同上
9	文学の理論へ ④文学史と国民意識・「ドイツ学」の成立、「精神科学」の成立と文学研究
10	同上
11	文学の理論へ ⑤芸術の自律性、アヴァンギャルド
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文学研究の立場と方法 ①精神史的方法
2	②作品内在解釈（インタープリテーション）の方法
3	カフカの解説
4	③マルクス主義の立場から
5	カフカの解説
6	④構造主義的方法
7	カフカの解説
8	⑤文学社会学的方法
9	カフカの解説
10	⑥「エッセイ」という方法
11	カフカの解説
12	⑦新たな立場と方法
備考	

科目名	歴史学（日本史）（94年度以降） 日本史（93年度以前）	担当者名	新井孝重
-----	---------------------------------	------	------

講義の目標	13世紀の中頃から畿内を中心にあらわれる盗賊武士団＝悪党を、鎌倉時代の体制がもつ矛盾と関連づけて観察し、彼らの活動が客観的にはたした歴史的意味をさぐる。		
講義概要	鎌倉体制の崩壊とそれにつづく建武政権・南北朝の内乱の過程を民衆の視点から詳論する。北条得宗専制の体制は、地方農村にいかなる重圧を加えていたのか、その体制に反抗する悪党と呼ばれる集団は、いかなる人びとであったのか、建武政権はどのような政策をとったのか、そしてこの政権の政策に対する武士の対応はどのようなものであったか、さらに南北朝内乱期の民衆の武力がいかなる特質をもっていたのか、などのことがらをみる。		
使用教材	テキスト	・新井孝重『中世悪党の研究』吉川弘文館	
	参考文献	・網野善彦『蒙古襲来』小学館、日本の歴史 ・佐藤進一『南北朝の動乱』中央公論、日本の歴史（中公文庫にあり）	
評価方法	評価は、後期の試験成績をもってする。		
受講者に対する要望など	紳士的な態度でリラックスして聴いていただければよい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	寺社に現われる悪党。これまで荘園を支配し、悪党に対峙する存在として考えられてきた寺院や神社内部から、実は悪党が発生している事実注目する。
2	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(1)寺院内部の構造としくみを観る。とくに僧房という私的空間に僧の武装慣行のはじまった事実を注目。
3	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(2)寺院の全体意志の形成原理、実現の様式を注目し、それとの対抗的存在と行動を「悪僧」にみる。
4	なぜ寺社の内部が悪党武士を培養したか。(3)寺院「悪僧」と農村武士悪党とのつながりを観察する。
5	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(1)中世成立期荘園制の概容をながめる。
6	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに名主と名田に対する権力の統制装置を「没官」を通じて考える。
7	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに下司・公文など荘官層のかかえもつ矛盾を剔出する。
8	荘園制下の在地構造はいかなるものか。(2)鎌倉時代荘園制の概容をながめる。とくに〈荘園〉を構成する寺院権力の在地とのかかわり方をみる。
9	幕府権力の動態(1)鎌倉幕府の成立と將軍専制のありようを概観する。また、地方の行政権力としての守護、地頭を発生経路と役割の面からみる。
10	幕府権力の動態(2)鎌倉幕府の内部における執権と評定制にみられる権力の安定性と、武家政治の充実をみる。
11	幕府権力の動態(3)鎌倉幕府の得宗家の専制化と権力の不安定化を、モンゴル襲来、御家人窮乏、霜月騒動を通じてながめる。
12	悪党の跳梁は、鎌倉時代政治史に何をもたらしたか。前期授業の総括を兼ねて北条得宗専制と公家、寺社の伝統的・門閥的支配に反抗する悪党を観る。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	南北朝内乱期悪党の群像(1)伊賀国黒田荘悪党金王兵衛盛俊の動きを追う。
2	南北朝内乱期悪党の群像(2)伯耆の土豪・武装商人であった名和長年の動きを追う。
3	南北朝内乱期悪党の群像(3)河内の土豪武装芸能民であった楠木正成の動きを追う。
4	建武政権の崩壊(1)後醍醐天皇はいかなる権力の樹立をめざしたか、理念と現実をみる。
5	建武政権の崩壊(2)政権を崩壊にみちびいた足利尊氏・直義の動きを観察する東国足利荘を基盤として成長した豪族領主足利氏を観る。
6	建武政権の崩壊(3)南北両朝の大分裂、足利族内抗争(観応の擾乱)の政治過程を通観する。
7	内乱を通じて何が変わったか。(1)変わる戦争の形態、騎馬から徒歩立の戦闘、悪党の傭兵化、足軽の発生。
8	内乱を通じて何が変わったか。(2)変わる村の生活、旧名体制がくずれて、新たな小百姓らをふくむ惣村が形成された。
9	内乱を通じて何が変わったか。(3)民衆の発言力の増大。荘園にくらす農民たちは、みずからの結合組織をバックに、さまざまな戦いを開始する
10	バサラと芸能(1) 内乱期の文化表現にバサラというのがある。バサラ大名の佐々木道誉、土岐頼遠の行動様式を通じてバサラについて考える。
11	バサラと芸能(2) 中世を貫徹する「狂」の表現(バサラをも通底する)を、“悪”なるものを基礎にして考える。寺院大衆の延年、猿楽などを観察。
12	中世の終焉。中世的な世界を、地侍の一揆体制という形で実現していたかつての悪党の巢窟伊賀国は、近世の先駆的権力織田信長に滅ぼされた。
備考	

科目名	歴史学（日本史）（94年度以降） 日本史（93年度以前）	担当者名	齊藤 博
-----	---------------------------------	------	------

講義の目標	<p>地域民衆史や全体史としての社会史の立場から、日本および日本人のトータルな課題に迫る。思想・人物・地域の三つの視点から日本人像に照射を加えたい。</p> <p>1. 共同体、2. 村落、3. 天皇制、4. 幕末維新时期、5. 英雄論、6. 民衆信仰、7. 民衆史、8. 独協史、9. 昭和十五年戦争、などが講義中のキーワードである。</p>		
講義概要	<p>読書を通じての思索によってしか、歴史的なものの見方は身につかない。「若者の感性」やマスメディアの多数派思考やCM調流行ムード、あるいは大河ドラマの趣向によって、歴史学を水に薄めるわけにはいかないのである。きちんとした専門書、あるいはしっかりした啓蒙書を読むことが、歴史学の学習には求められている。</p> <p>日本人であるからといって日本史学習が容易であり気安く分かってしまうことはない。やはり丁寧に、きちんと出席しないとわからない。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・齊藤 博『歴史の精神』学文社 ・齊藤 博『民衆史の構造』新評論 	
	参考文献	<p>講義の間に、12冊以上を紹介する。そのうち2～3冊は是非とも通読してもらいたい。最低限、テキストをよく読んでもらいたいと思う。割合と日本史百話的な「講談調」ではあるが、講義にでていないと無論、わからない</p>	
評価方法	<p>前期と後期にペーパーテスト（論文形式）がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>出席が良好でないと理解しにくい内容・傾向・水準にある。日本史だから日本人にはよくわかる、ということはない。とにかく、できる限り出席すること。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本および日本人について。日本史の特徴Ⅰ、日本人が日本史を学ぶ困難性
2	日本史の特徴Ⅱ、風土と歴史、日本史研究者像Ⅰ、新井白石、本居宣長、伴信友
3	日本史研究者像Ⅱ、津田左右吉、和辻哲郎、柳田国男、喜田貞吉、服部之總、羽仁五郎
4	日本史研究者像Ⅲ、瀧川政次郎
5	日本史研究者像Ⅳ、芳賀登、色川大吉、井上幸治
6	地域民衆史の視座と方法
7	「日本的なもの」を考える
8	「天への想い」Ⅰ、日中歴史学の比較と対照、東洋的歴史像の構築
9	「天への想い」Ⅱ
10	アジア的共同体論についてⅠ
11	アジア的共同体論についてⅡ
12	「我が家の歴史」をどう記録するか
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	近世史と近代史の問題点Ⅰ
2	近世史と近代史の問題点Ⅱ
3	明治維新論Ⅰ
4	明治維新論Ⅱ
5	高杉晋作の漢詩集を読む、教育精神の系譜から（獨協精神）、吉田松陰論、品川弥二郎論
6	同上Ⅱ、幕末維新論Ⅰ（日本資本主義発展史の視座から）
7	同上Ⅲ、幕末維新論Ⅱ
8	同上Ⅳ、幕末維新論Ⅲ
9	同上Ⅴ、幕末維新論Ⅳ
10	同上Ⅵ、幕末維新論Ⅴ
11	同上Ⅶ、近代化論をどう考えるか。
12	まとめ（総括）—日本および日本人論をめぐって
備考	

科目名	歴史学（東洋史）（94年度以降） 東洋史（93年度以前）	担当者名	熊谷哲也
-----	---------------------------------	------	------

講義の目標	<p>西アジアの歴史について講述する。イスラーム教徒たちが共有する過去を知ることにより、彼らが何を常識とし、何に価値をおき、何を理想として求めてきたかを考えてみたい。</p> <p>イスラームは今日の国際情勢を読むための主要なキーワードだが、その鍵を解くためにも、彼らの歴史を理解することはとても大切である。皆さんの視野が広がることを目標とする。</p>		
講義概要	<p>前半は7世紀における預言者ムハンマドの出現から16世紀にいたるまでの歴史を概観し、イスラーム世界の拡大によって広大な文明圏が形成される様相を理解する。宗教、社会、文化についての基本的な知識も学ぶ。</p> <p>後半はイスラーム世界における近代化の歴史を地域・テーマ別に考察する。今日イスラームがかかわるさまざまな問題について、関心と理解が深められるよう留意する。</p>		
使用教材	テキスト	とくに定めない。	
	参考文献	夏休みあけに読書レポートを提出していただくが、そのためにイスラームに関する新書程度の本を用意してもらおう。詳しくは授業で指示する。	
評価方法	夏休みあけのレポート提出と、学年末の試験。ともに発想のオリジナリティーを重視する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イスラームにかんする基本事項について説明する。オリエンテーションをかねる。
2	イスラーム教が誕生する以前の世界について考える。ユダヤ教やキリスト教に関する知識が必要である。
3	預言者ムハンマド（マホメット）の出現と、その時代背景について考える。彼の教えと、それがアラビア半島に広まる経過を理解する。
4	最初の4人のカリフ（正統カリフ）時代について考える。第一次内乱、シーア派の出現を理解する。
5	ウマイヤ朝の歴史について考える。ヴェルハウゼンの古典理論において「アラブ帝国」と定義される意味を検討する。
6	アッバース朝の歴史について考える。その成立が、古典理論において「アラブ帝国」から「イスラーム帝国」への移行と定義される意味を検討する。
7	イスラーム教の聖典であるコーラン（クルアーン）、預言者の言行録であるハディース、それらの解釈をめぐって成立・発達した初期思想と学問の展開について学ぶ。
8	アッバース朝時代から発達したイスラームの科学とその内容について、また、中世イスラーム社会における民衆教化の役割をはたしたイスラーム神秘主義（スーフィーズム）について考察する。
9	アッバース朝の弱体化に伴い、各地に出現し軍事政権とその展開について概観する。
10	エジプトのマムルーク朝について学ぶ。とくにイクター制と呼ばれる制度は西ヨーロッパの封建制と比較される点を検討する。
11	ヨーロッパ世界とイスラーム世界との関係について考察する。レコンキスタ、十字軍、大航海時代、これらが作りあげたヨーロッパ人の歴史観を検討する。
12	まとめを行なう。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	オスマン朝の成立と発展について考察する。この王朝が「完成されたイスラーム国家」と呼ばれる点について検討する。
2	欧米列強による帝国主義とイスラーム世界とのさまざまな関係について概説し、アジアにおける近代化について学ぶ。
3	近代イスラーム世界の内部にあらわれた改革運動の起こりとその内容を考察する。欧化主義や原理主義（復興主義）が成立する基本的なメカニズムを理解する。
4	さまざまなイスラーム改革運動、ネオ・スーフィーズムなどの問題について考える。
5	エジプトの近代化とその過程について考える。
6	トルコの近代化とその過程について考える。トルコ・ナショナリズム、パン・イスラミズムを理解する。
7	近代化がイスラームの世界の人々の生活と信仰におよぼした影響とそのゆくえについて、いくつかの問題をとりあげて考察する。
8	知識人階層であるウラマー、宗教的寄進であるワクフなど、イスラーム社会に固有な事柄をとりあげ、近代化との関係について検討する。
9	同上。
10	今世紀のイスラーム世界について考える。イスラーム諸国における民族主義とそのゆくえ、マイノリティーの問題をとりあげる。
11	現代のアラブ諸国がかかえる問題を検討する。
12	まとめを行なう。
備考	

科目名	歴史学（西洋史）（94年度以降） 西洋史（93年度以前）	担当者名	高橋正男
-----	---------------------------------	------	------

講義の目標	<p>近年我々はユーラシア大陸の大半を占める西欧、東欧・ロシア、中東で起こった政治情勢の変転に際会し、人間生活の過去を構築する歴史学への興味をかきたてられている。本年度は、文明の発生から現代に至るまでの政治・社会史に重点をおいた西洋史の大勢をエルサレムを基点に世界史的な連関のもとに多面的・立体的に理解させることを主眼とし、受講生とともに複眼的視点から西洋史を現代国際関係から見直し21世紀を展望してみたい。</p>		
講義概要	<p>講義は平明・概説的であるが、重要事項は詳述し、あわせて学界の研究状況も織り込んで紹介する。講義内容は別紙年間講義予定表を参照されたい。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋正男著『エルサレム』（世界の都市の物語14）文藝春秋、1996年 ・高橋正男著『年表 古代オリエント史』（第3刷）時事通信社、1996年 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋正男著『旧約聖書の世界』（第4刷）時事通信社、1994年 ・D=バハト著（高橋正男訳）『図説 エルサレムの歴史』（第2刷）東京書籍、1994年 ・藤岡信勝他著『教科書が教えない歴史』1,2 扶桑社、1996年（各1,400円） <p>その都度紹介する。</p>	
評価方法	<p>前期・後期の筆記試験による。 講義資料等は出席者のみに配布する。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	歴史とは何か
2	先史時代・歴史時代
3	文明の発生
4	古代オリエント史の推移(1)
5	古代オリエント史の推移(2)
6	族長時代から王国成立まで(1)
7	族長時代から王国成立まで(2)
8	第一神殿時代 —前586年まで— (1)
9	第一神殿時代(2)
10	バビロニア捕囚時代
11	第二神殿時代 —前538～後70年—
12	第二神殿時代(2) まとめ・VIDEO
備 考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ローマ時代 —70～330年—
2	ビザンツ時代 —330～638年—
3	初期ムスリム時代 —638～1099年—
4	十字軍時代 —1099～1187年—
5	アイユーブ朝およびマムルーク朝時代 —1187～1517年—
6	オスマン・トルコ時代 —1517～1917年—
7	イギリス委任統治時代 —1917～1948年—
8	エルサレムの東西分断 —1948～1967年—
9	エルサレム再統合 —1967年以降
10	第二次世界大戦後の中東情勢
11	現代歴史学の諸問題
12	後期のまとめ・VIDEO
備 考	

科目名	歴史学（西洋史）（94年度以降） 西洋史（93年度以前）	担当者名	古川 堅治
-----	---------------------------------	------	-------

講義の目標	<p>本講義は「ヨーロッパの歴史」と題して、前期をその統合と分裂の側面から通観し、今日のヨーロッパ連合（EU）がどのような発展の可能性をもっているかを考えること、後期をバルカン状勢の現在という視点から取り扱い、ヨーロッパの不安定要因としてのバルカン状勢がもつ意味を考えることを目標とするものである。</p>	
講義概要	<p>講義は概説的に進めていくが、関連するテーマのビデオや映画などもできるだけ使って理解を深めるのに役立てたい。授業では細かな年代や事項を暗記してもらおうというのではなく、各テーマごとに問題を提示し、これについて考えてもらうことに主眼をおいているので、積極的かつ活発な質問・意見が出ることが期待されている。その意味でも自由に意見が出るようにアット・ホームな雰囲気、小じんまりとしながら進めていく。</p>	
使用教材	テキスト	特別に使用することはない。
	参考文献	その都度指摘する。
評価方法	<p>前・後期2回のレポートと何回かの小レポートで評価する。テーマ・メソッド・枚数については授業中に提示する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>受身の姿勢ではなく、積極的に問題点を考え、議論する姿勢を期待する。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「はじめに」 年間授業計画の概要について：ヨーロッパとは何か。
2	「(1)地中海世界の意義」 1. ギリシア文化の歴史的意義 ・地中海世界におけるギリシアの発展 ・古典文明の最盛期
3	2. ローマ帝国の歴史的意義 ・ローマの世界帝国 ・ローマ帝国下のヨーロッパ
4	3. ビザンティン帝国と西欧世界 ・東方世界と西欧世界 ・東西の宗教生活
5	「(2)中世キリスト教世界」 ・ヨーロッパ封建制 ・キリスト教の普通化
6	「(3)ルネサンスと新世界」 ・文化の原容 ・ヨーロッパの拡大
7	「(4)宗教的改革と絶対主義」 ・宗教戦争とヨーロッパの分裂 ・絶対主義のヨーロッパ
8	「(5)啓蒙の時代と自由の思想」 ・グランド・ツアー ・自由主義と民族主義
9	「(6)ヨーロッパの近代化」 ・都市化と工業化 ・社会改革
10	「(7)分裂から相互理解へ」 ・2度の大戦 ・東西対立
11	「(8)EUの可能性」 ・危機への対応 ・EUの可能性
12	「(9)小括 前期のまとめと前期レポートの課題提出
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「(10)ユーゴスラビアの問題」 ①ユーゴスラビア小史 ：複雑な民族国家形成を考える。
2	②ユーゴスラビアの現状 ：現在の状況と今後の課題を考える。
3	「(11)ギリシアの問題」 ①ギリシア近・現代史 ：古代文明の遺産と近・現代社会の問題を考える。
4	③ギリシアをめぐる諸状況 ：EU諸国の中での位置づけとバルカン諸国との関係を考える。
5	「(12)アルバニアの問題」 ：社会主義からの移行Ⅰ
6	「(13)ルーマニアの問題」 ：社会主義からの移行Ⅱ
7	「(14)ブルガリアの問題」 ：社会主義からの移行Ⅲ
8	「(15)ユーゴスラビア・アケドニア共和国の問題」 ：「マケドニア」の呼称をめぐる諸問題を考える。
9	「(16)キプロスの問題」 ：分断国家の歴史的背景と今後の課題を考える。
10	「(17)トルコ共和国の問題」 ：バルカン諸国におけるトルコの位置を考える。
11	「(18)新たなバルカン同盟へ」 ：バルカン諸国の安定化に向けての可能性を込める。
12	「(19)総括」 一年間のまとめと後期レポートの課題提出
備考	

科目名	人文科学特殊講義A(現代社会と学問)1(94年度以降)	担当者名	川村 肇
-----	-----------------------------	------	------

講義の目標	<p>本年度は現代社会の抱える様々な問題を取りあげ、その解決への道を探ってゆきたい。これを通じて社会や政治などへの関心を喚起するとともに、「問題」を科学的にとらえるにはどうすればよいのか、その解決に当っては具体的に何をどうすることが必要になるのか、大学で学ぶ学問を総動員して実社会に役立つよう、あらためてきたえなおすことを目標とした。</p>	
講義概要	<p>参加人数にもよるが、似通った問題関心をもつもの同士グループを作り、グループ単位で、その問題関心にみあったテーマを決めて取り組んでゆく。夏休み等を利用した調査活動や文献学習を取り入れ、グループ発表を行なう。参加少数の場合には、各自テーマを決めていく。いずれの場合も参加者自身による学習—発表を軸に進める予定である。ちなみに前々年度のテーマは、「PKOについて」、「従軍慰安婦問題について」、「ODAについて」、「日本の戦争責任について」、「陪審員制度について」であった。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	適宜指示する
評価方法	レポートによる。出席も考慮する。	
受講者に対する要望など	各自の問題関心によるので、何らかのテーマをもって参加し、かつそれを深める意欲を求める。同時にあまり関心のないテーマの発表の時も参加し、自分のテーマとの関連付けを行なってほしい。	

年間講義予定

前期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の進め方についての説明
2	テーマ別にグループ分けを行なう
3	グループによる話し合い——テーマを絞りこむ——
4	各グループの問題関心、テーマなどについて報告をする
5	グループによる話し合い——探究していく上で何が必要か——
6	各グループの活動計画の報告
7	”
8	”
9	”
10	”
11	”
12	夏休みの計画発表とこれまでのまとめ
備考	

後期

週	主 要 テ ー マ
1	各グループの夏休みの活動報告と、今後の計画発表
2	”
3	”
4	各グループによる発表
5	”
6	”
7	”
8	”
9	”
10	レポート執筆準備
11	”
12	”
備考	

科目名	人文科学特殊講義A(西洋哲学史)2(94年度以降) 西洋哲学史(93年度以前)	担当者名	谷口郁夫
-----	--	------	------

講義の目標	<p>初学者にも読みやすく、なおかつ西洋哲学を代表する哲学書を読みながら、西洋哲学において「何が」「どのように」論じられて来たかについて、ともに考えたい。あまり専門的になることなく、身近な問題について考える一助となるようにしたい。</p>		
講義概要	<p>哲学は本来、一部の専門家の学問ではなく、すべての人々が考えるべきこと(恋愛・死・善と悪・生、等々)を考えようとする学問でもある。具体的にどのような問題を取り上げるかは、受講者の要望も容れたいと考えている。したがって、講義予定は変更がありうる。また、哲学書を読むことによって、その思想を受け入れるのではなく、批判的に受容しながら現代社会の中で生きていくために自分自身の考え方を確立する助けとなるように、批判的に読んでいくことにする。</p>		
使用教材	テキスト	<p>プラトン『饗宴』デカルト『方法序説』パスカル『パンセ』など。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>前期、後期とも2回ずつ600字前後の小論文を書いてもらう予定。</p>		
受講者に対する要望など	<p>受講者の要望を可能な限り容れていくので、積極的に発言してもらいたい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	プラトンの『饗宴』を読みながら、古代ギリシャにおける「エロス」的なものについて、キリスト教以前の古代社会における恋愛観について理解を深める。
2	前回に引き続き、『饗宴』を読む。
3	前回の続き。また、ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の恋愛観についても触れたい。
4	デカルトの『方法序説』を読み、中世の人間観から近世の人間観への転回が、どのような意味内容を持つのかについて、イタリア・ルネッサンスとの関連なども考察する。
5	前回に引き続き、デカルト『方法序説』を読む。さらに、デカルト以後の哲学者との関係について論じる。
6	パスカルの『パンセ』を読む。「考える葷」「気晴らし」などの言葉を手掛かりに、生と死、人間存在についてパスカルがどのように考えたかを学ぶ。
7	前回の続き。
8	フランシス・ベーコン『ノザム・オルガヌム』を読み、いわゆる経験論的思考方法がなぜイギリスに始まったのかについて、時代背景などもあわせて考える。
9	前回の続き。
10	カント『啓蒙とは何か』を読む。ドイツがヨーロッパの後進地となったことの歴史的原因にも留意する。
11	前回の続き。カントにおける近代的人間観について。
12	予備。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ヘーゲル『歴史哲学』。ヘーゲルの弁証法の特徴について。
2	キルケゴールの日誌からいわゆる「主体的真理」に関する箇所を読む。
3	前回の続き。特に、キルケゴールの婚約破棄についての日誌記述、『おそれとおののき』から、キルケゴールにおける「宗教的なもの」、「伝達の問題」などについて考える。
4	フォイエルバッハの『キリスト教の本質』を読み、ヘーゲル学派の左右分裂、時代状況などについて考える。あわせて、左右分裂のきっかけとなったシュトラウス『イエス伝』も論じたい。
5	ショーペンハウアーの『余録と補遺』に含まれるいくつかの作品を通して、彼の悲観論哲学とその問題点について考える。
6	ニーチェの『力への意志』を読み、彼のキリスト教批判とニヒリズムの到来について考える。
7	前回の続き。特に、現代における、あるいは我々のうちなるニヒリズムとその克服について。
8	前回の続き。さらに、ニーチェの『ツァラトゥストラはこう言った』から、彼の考えた新たな人間像について。
9	前回の続き。『この人を見よ』を併読予定。
10	サルトル『実存主義とは何か』を手掛かりに、二十世紀に流行することになった実存主義の哲学の特色について。
11	予備。
12	予備。
備考	

科目名	人文科学特殊講義A(哲学思想史)3(94年度以降)	担当者名	谷口郁夫
-----	---------------------------	------	------

講義の目標	19世紀のヨーロッパにおいて、特にニーチェによって「ニヒリズムの到来」ということがいわれるようになった。このことに関連して、特にヨーロッパにおけるニヒリズムの起源について理解することを目指す。また、ニヒリズムの克服の試みについて書かれた書物を読みながら、現代日本の問題としてニヒリズムとその克服について考える。		
講義概要	実際の講義ではできるだけ多くの資料を読むことが中心となる。資料を読みながら、時代背景や、思想史的関連について顧慮していくことになるが、その際、キリスト教についての理解は欠かすことができないし、また時代の社会的状況についての知識も要求されることになるので、こういった要素についてもつねに考慮しなければならない。また、現代日本の状況についても顧慮する予定である。		
使用教材	テキスト	そのつど指示するが、基本的にこちらで準備する。	
	参考文献	ニヒリズム全体に関しては、川原栄峰『ニヒリズム』（講談社現代新書）が便利。	
評価方法	思想史的な知識が要求されるが、それ以上に重要なのは、問題を見いだす能力である。したがって、定期試験の形では行なわず、講義のなかで数回、各自の考えなどを書いてもらうことにする。		
受講者に対する要望など	講義のなかで実際に読む資料を以下に挙げているが、受講者の希望があれば、変更もあろうるので、希望があれば積極的に申し出ること。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	キリスト教について〔1〕 ユダヤ教との関係・歴史的イエス・原始キリスト教会などについて。
2	キリスト教について〔2〕 イエスの教え・パウロの教えについて。キリスト教における罪の概念・三位一体論・終末思想など。
3	キリスト教について〔3〕 ローマ帝国へのキリスト教の広まり・カトリック教会の成立・中世ヨーロッパについて。アウグスティヌスの思想。
4	ルター・カルヴィンの宗教改革・プロテスタンティズムの誕生。17・18世紀のキリスト教会について。近代的意識の成立。デカルトの思想。
5	キルケゴール『現代の批判』（岩波文庫）を読む。
6	前回到引き続き、キルケゴール『現代の批判』を読む。キルケゴールの見た「現代」とはどのような時代なのか。いかなる点をキルケゴールは批判したのか。
7	ツルゲーネフ『父と子』（新潮文庫）を読む。この小説は、「ニヒリスト」という言葉を大衆化した作品である。
8	ドストエフスキー『罪と罰』『悪霊』（新潮文庫）を読む。特に、ドストエフスキーにおける超人思想について。
9	ニーチェ『悦ばしき知識』を読む。ニーチェにおける「神の死」の宣告。特に、時代状況との関連に顧慮する。
10	ニーチェ『ツァラトゥストラはこう言った』（岩波文庫）を読む。「神の死」「超人」がキーワードとなる。
11	前回到引き続き、ニーチェ『ツァラトゥストラはこう言った』を読む。さまざまなエピソードからニーチェのいう「超人」のイメージについて。
12	予備。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	19・20世紀のキリスト教会・社会思想について。フェイエルバッハ、マルクスなど。
2	ニーチェ『善悪の彼岸』『この人を見よ』など、ニーチェの著作のなかでニヒリズムに関する箇所を抜粋を読みませす。
3	前回の続き。
4	ニーチェ『力への意志』を読み、このニーチェの遺稿を手がかりに、特にニーチェのキリスト教批判について考える。
5	前回到引き続き、ニーチェ『力への意志』を読む。特に、価値の問題について考える。
6	前回到引き続き、ニーチェ『力への意志』を読む。特に、超人思想、永遠回帰について考える。
7	ハイデッガー『存在と時間』（理想社）を読む。現代における人間存在について考える。
8	前回到引き続き、ハイデッガーの『存在と時間』を読む。
9	ハイデッガーの『ニーチェ』を読みながら、ハイデッガーにおけるニヒリズムの克服の試みについて考える。
10	前回到引き続きハイデッガーの『ニーチェ』を読みながら、さらに広く現代社会におけるニヒリズムの問題とその克服の試みについて考える。
11	予備。
12	予備。
備考	

科目名	人文科学特殊講義A (キリスト教史I) 4 (94年度以降) キリスト教思潮 (93年度以前)	担当者名	中島 文夫
-----	--	------	-------

講義の目標	<p>キリスト教史の考察にはいくつかの異なる視点が可能である。教義・教理の展開を主眼とすることもあれば、教勢の伸長・衰退に焦点を合わせることもできる。また、教団・教派の生成・変化に着目するという事もある。信仰生活の慣習や典礼の変遷を中心とする歴史も考えられるであろう。しかし、この講義では、キリスト教がヨーロッパ大陸の歴史の中で展開した歴史的宗教であるという基本的認識を基盤として、キリスト教を一般史との関わりにおいて見、キリスト教の展開を軸として一般史を見ようとする。</p>		
講義概要	<p>——キリスト教史I：古代・中世前期—— キリスト教は歴史的宗教である。初めから完成されたものとして存在したのではなく、ヨーロッパ大陸の歴史との関わり合いの中で形成されて来たばかりでなく、その歴史的展開の中の摂理を読み取ろうとする姿勢を常に持ち続けている。二重の意味で歴史的本性をもつ宗教なのである。そのような宗教としてキリスト教が形成されて行った過程を丹念に跡づけて行くことにする。その範囲を古代から中世前期までに限定し、普遍的教会という理念のもとに教皇を頂点とするゲルマン的キリスト教世界ができてくるまでの経緯を明らかにする。</p>		
使用教材	テキスト	使用しない。レジュメのプリントを配布する。	
	参考文献	必要に応じて、授業中に適宜指示する。	
評価方法	<p>前期・後期とも、期末に筆記試験を課す。また、毎回出欠を点検し、評価の一要素とする。甚しく欠席の多い者には単位を与えない。</p>		
受講者に対する要望など	<p>特に予備知識は要求しないが、未知の分野に対する旺盛な知的好奇心を持って欲しい。また、講義者および同僚履修者に対する節度あるマナーを期待する。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序説1. キリスト教大観。 序説2. キリスト教史の意義。 序説3. ヘブライズムとヘレニズム。
2	§ 1. イエスとその弟子たち。 § 2. 原始教会の成立と発展。
3	§ 3. 「異邦人の使徒」パウロ。 § 4. 新約諸文書の成立。
4	§ 5. 「キリスト論」の展開。 § 6. 2世紀のキリスト教。
5	§ 7. 初期異端と「カトリック」教会の成立。 § 8. ローマ教会の優位。
6	§ 9. ロゴス・キリスト論の確立。 § 10. アレクサンドリア学派
7	§ 11. 教会制度の発展。
8	§ 12. 「帝国の教会」への歩み。 § 13. ニカイア抗争——アレリオス主義の問題。
9	§ 14. ゲルマン民族大移動とキリスト教。
10	§ 15. 修道院制度の発展。 § 16. 正統キリスト論の確定。
11	§ 17. 西方教会の独自の発展。
12	§ 18. 西方教会の権威の確立。 § 19. 東方の分裂と破局。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	§ 20. フランク教会の形成。
2	§ 21. カルル大帝とカロリング帝国。
3	§ 22. 帝国の崩壊と再建——神聖ローマ帝国。
4	§ 23. 修道生活の革新。
5	§ 24. 聖者・聖遺物崇敬と巡礼。
6	§ 25. 西欧キリスト教世界の拡大。
7	§ 26. グレゴリウス改革と「使徒的生活」。 § 27. グレゴリウス改革のもたらしたもの。
8	§ 28. 正統と異端。
9	§ 29. ロマネスクとゴシック。
10	§ 30. 聖母崇敬。
11	予備。
12	予備。
備考	

科目名	人文科学特殊講義A(日本近代史)5(94年度以降) 日本文化特殊講義A-3(93年度以前)	担当者名	中村 稔
-----	--	------	------

講義の目標	<p>どこの国の歴史にも光と影があるやうに、我国の近代史や、その中で起つた大東亜戦争にも光と影があつた。NHK や朝日新聞などの偏向反日メディアから日本と日本人の醜悪な面のみを頭に叩き込まれてきた学生諸君に、この講義はそれとは大分異なった面を取り上げて講ずることになる。南京30万人虐殺(100万人虐殺説を唱へる阿呆な東京(頭狂?)大学教授も居られる!)、1人も目撃者のゐない慰安婦強制連行など、異常な話は大抵嘘である。諸君の健全な常識で歴史の真否を見分けて欲しい。この講義は日本人学生を対象とする。</p>		
講義概要	<p>日清・日露戦争から大東亜戦争に至る日本近代史を講じつつ、よく話題になる諸事件、諸問題についても検討する。大東亜戦争とは何だったのか?その背景、原因そして世界的意義は?この主題に沿ひつつ、蘆溝橋事件、南京戦、真珠湾奇襲の実否、慰安婦問題等々にも触れてゆく。歴史の真実像は光と影の複雑に交錯する中にこそ求められねばならない。マスコミの戦争報道や教科書の日本悪玉論に疑問をもつ諸君の受講を期待する。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・中村稔著『大東亜戦争への道』(展転社) ・同 『「韓国併合」とは何だったのか』(日本政策研究センター) 	
	参考文献	<p>随時紹介。</p>	
評価方法	<p>平素の勤怠・意欲と定期試験・レポート等。</p>		
受講者に対する要望など	<p>早目にテキストを講入して読んでおくこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の目的・内容・進め方について概要を説明する。
2	日清戦争と朝鮮
3	日露戦争とその世界史的意義
4	韓国併合とその後
5	朝鮮統治は「史上類例のない悪政」だったのか
6	第1次大戦と日本 ①所謂「21ヶ条」問題の背景 ②シベリア出兵 ③尼港事件（日本人大虐殺）
7	同上 ①ワシントン会議 ②9ヶ国条約
8	国際協調主義の幻想 ①排日移民法 ②不戦条約
9	国際共産主義の問題 ①支那の赤化 ②革命外交
10	満洲事変 ①背景と原因 ②独立志向の満洲人 ③張学良の悪政
11	満洲事変 ①満鉄包囲政策 ②在満朝鮮人への迫害
12	満洲国をめぐる諸問題 ①外国人の観察 ②事変の意義
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	塘沽停戦協定とそれ以後の北支
2	蘆溝橋事件 ①真犯人は誰か ②我軍の隠忍自重
3	支那事変 ①我が和平努力 ②通州事件
4	南京戦 ①「30万～100万虐殺」の真否 ②平和甦る南京
5	南京戦 ①朝日新聞のインチキ写真 ②中国人の嗜虐性
6	VTR 鑑賞
7	VTR 鑑賞
8	支那事変と日米関係 ①汪精衛 ②三国同盟
9	大東亜戦争 ①真珠湾攻撃 ②ルーズベルトは知らなかったのか
10	大東亜戦争とその世界史的意義 ①東南アジアの独立 ②日本との運命共同体意識
11	日本とアジア ①朝鮮統治の成果
12	日本とアジア
備考	

科目名	人文科学特殊講義A(古典古代の遺産)6(94年度以降) 西洋文化特殊講義A-4(93年度以前)	担当者名	古川 堅 治
-----	--	------	--------

講義の目標	本年度は「ギリシア神話——ギリシア悲劇を中心に——」と題し、ギリシア神話のもつ豊富な内容とその現代にまで通じる普遍性を考える。講座の内容は、タイトルの性格上、ギリシアの歴史、演劇とりわけ悲劇論、そして悲劇作品の鑑賞などに及ぶことになる。		
講義概要	プリントを中心に概説的に進めるが、ギリシアの歴史、文化にも幅広く触れていく。また、ビデオや写真なども豊富に使い、イメージを豊かにしていくことにも意を用いたい。授業はアト・ホームな雰囲気で行なうつもりであるが、積極的な議論がわきおこることを期待する。		
使用教材	テキスト	毎回プリントを配布。	
	参考文献	その都度提示する。	
評価方法	前・後期二回のレポートと数回の小レポートで評価する。テーマ・メソッド・枚数等は授業中に提示する。		
受講者に対する要望など	主体的・積極的に授業に参加することを希望する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「はじめに」：ギリシア神話と現代のわれわれの関わり方について考える。
2	「第一部 演劇文化論」 1. ギリシア演劇とその社会：「ポリス社会」と演劇の関係について考える。
3	2. ギリシア悲劇の構造：ギリシア悲劇の形成、構造について考える。
4	3. コレギア（合唱隊奉仕義務）：ギリシア演劇を支える財政負担について考える。
5	4. 演劇と政治的弁論：演劇の扱うテーマ・台詞と政治的弁論の演説方法の類似性に着目し、その意義について考える。
6	5. コロス（合唱隊）の社会的役割：ギリシア演劇の中でコロスの果たす役割の大きさを、単に演劇構造そのものからだけでなく、コロスが体現している社会的役割からも考える。
7	6. 「第一部 まとめ」に代えて：ギリシア悲劇と現代ギリシア悲劇の現代的意味を考える。
8	7. ビデオ(I) 古代アテナイ社会とギリシア演劇
9	8. ビデオ(II) ギリシア悲劇と現代（その1）：ギリシア悲劇の今日的意義について考える。
10	9. ビデオ(III) ギリシア悲劇と現代（その2）：ギリシア悲劇の可能性について考える。
11	「第二部 テーベ伝説圏の諸神話 1. テーベの建国神話：中部ギリシアの強国テーベの建国について考える。
12	2. ディオニュソス信仰の悲劇：エウリピデス『バッコス <small>バックス</small> の信女たち』を通してディオニュソス信仰について考える。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	3. ラブタコス家の悲劇 (1)ソポクレス『オイディプス王』：オイディプスの悲劇について考える。
2	(2)ビデオ「映画 アポロンの地獄」(その1) 映画化されたオイディプスの悲劇を鑑賞。
3	(3)ビデオ「映画 アポロンの地獄」(その2) 同 上
4	(4)アイスキュロス『テーバイ攻めの七将』：オイディプスの二人の息子たちの争いについて考える。
5	(5)ソポクレス『アンティゴネ』：国法と人倫の対立について考える。
6	(6)ソポクレス『コロノスのオイディプス』：アテナイ民主制と王制について考える。
7	(7)エウリピデス『救いを求める女たち』：ギリシア世界でのアテナイの位置について考える。
8	(8)エウリピデス『フェニキアの女たち』：神話伝承の異伝と悲劇作家の創作性について考える。
9	(9)第二次テーベ遠征：オイディプス家のその後について考える。
10	4. ヘラクレスの誕生と狂気：ヘラクレス伝説とテーベとの関わりを考える。
11	5. 「第二部のまとめ」に代えて：アッティカ演劇における「テーベ」とその実像：演劇で扱われるテーベ像と歴史的事実としてのテーベを比較考察。
12	「おわりに」：一年間の総まとめ
備考	

科目名	人文科学特殊講義A(東洋思想史)7(94年度以降) 東洋思想史(93年度以前)	担当者名	松丸壽雄
-----	--	------	------

講義の目標	「東洋」の文化の思想的基礎の究明とその比較。		
講義概要	われわれは、いわゆる「東洋」的世界の一角に生きている。つまり「東洋」はわれわれにとって生活圏であり、文化圏である。それにもかかわらず、われわれ日本人はとかく、「西洋」に目を向けがちであり、自分たちの存在基盤である「東洋」に注意を払うことはおざなりにされがちであったように思う。この講義では、東洋における文化現象を比較検討することによって、その思想的基盤を明らかにしたい。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義中に指示	
評価方法	受講者が多い場合には、筆記試験も考えられる。受講者数が相応であれば、最低年二回のレポートと授業への貢献度(例えばディスカッションへの参加)により評価。		
受講者に対する要望など	講義の進行具合、受講者数、および受講者の理解度などにも依るが、もし可能であれば、ディスカッションの時間を設けることを考えている。そこで、積極的にそれに参加する用意のある人(自分勝手にではなく、確かな根拠を持って発言すること)が望ましい。		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	講義の概要説明と補足説明。
2	「東洋」文化圏とは何か。
3	中国文化とその思想。
4	中国の古代思想（『易経』など）
5	同上
6	儒教思想など
7	同上
8	老荘思想など
9	中国における仏教思想など
10	日本文化とその思想
11	古代日本文化と思想（古事記、日本書紀など）
12	ディスカッション（可能であれば）
備考	

後期

週	主要テーマ
1	古代日本文化とその思想（続き）
2	日本における仏教思想など
3	江戸時代の文化と思想（伊藤仁斎、荻生徂徠、本居宣長など）
4	同上
5	同上
6	日本における仏教思想など
7	同上
8	インドの文化と思想
9	インドの古代思想
10	同上
11	仏教思想など
12	ディスカッション（可能であれば）
備考	

科目名	政治学	担当者名	志摩 園子
-----	-----	------	-------

講義の目標	<p>政治学の基本的な概念や政治の構造や仕組みを考え、現代社会での政治を理解する手助けを目指す。政治においては人間が主体であるから、人間が政治とどのように関わっていくか、また、国家と個人の関わりも考えてみることで、現代の政治学がもつ課題はなにかを検討してみる。</p>		
講義概要	<p>現代社会で大衆の政治に対する無関心が広がっているが、具体的な政治をとりあげることによって、関心や理解を高める助けとする。身近な問題や日本の政治の実情・諸外国の政治の実情を通じて、自分達の生活する日本の政治に対する理解を深める。</p>		
使用教材	テキスト	特になし。	
	参考文献	必要に応じて示す。	
評価方法	<p>主として、前期・後期レポートによるが、小レポートも時折り実施する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>自分に関わりのある問題としての意識をもって授業への積極的な参加を求める。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	政治学とは
2	政治学と政治
3	イデオロギー
4	イデオロギー
5	政治のリーダーシップ
6	政治のリーダーシップ
7	政策決定過程
8	政策決定過程
9	政策の執行
10	政治制度
11	政治制度
12	予 備
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	政治的集団
2	政治的集団
3	政治的決定の伝達
4	政治的決定の伝達
5	大衆の政治意識
6	大衆の政治行動
7	諸国政治の比較
8	諸国政治の比較
9	国家間の政治
10	政治の変動
11	政治の変動
12	予 備
備考	

科目名	経済学	担当者名	岡田 博
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>経済学の入門書をテキストに使用して、経済学の基礎理論を講義する。講義では経済学の基礎知識の修得とともに、現実の経済にも関心を深めその動きを洞察する力が少しでも涵養されるように意を用いたい。</p>		
講義概要	<p>経済学の基礎理論をできるだけ理解し易いように講ずる。講義の主内容は、経済学の方法、経済体制、経済循環、国民所得、貨幣と金融、財政と財政政策、消費の理論、生産の理論、市場理論、等々。</p>		
使用教材	テキスト	<p>未定、最初の講義のときに指示する。</p>	
	参考文献	<p>・川口他：『経済学入門』有斐閣、他。</p>	
評価方法	<p>学年末の定期試験の成績で評価する。場合によっては前期末の定期試験も行う。また出席も時々とり、これも評価の参考に加える。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業に欠席しないこと。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	経済学とはどんな学問か：経済問題の根源、経済学の定義、ミクロ経済学、マクロ経済学
2	経済体制についてⅠ：経済体制とは、経済体制の共通課題
3	経済体制についてⅡ：体制分類の視点、資産の所有制度、経営管理のあり方、経済活動の調整機構、経済的成果の比較
4	資本主義市場経済の特徴：経済主体とその行動、市場の役割
5	混合経済体制における政府の役割：所有権と契約の保護、経済政策
6	経済循環：生産から消費への財・サービスの流れの概観
7	国民所得の概念：GNP, NNP 等々、わが国の国民所得
8	国民所得の決定：有効需要の原理、消費関数と乗数理論
9	国民所得の変動：景気循環、インフレーション、デフレーション
10	貨幣と金融Ⅰ：貨幣の形態・機能、資金と金融市場
11	貨幣と金融Ⅱ：貨幣創出の機構、信用創造
12	貨幣と金融Ⅲ：金融政策
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	財政Ⅰ：政府の経済的機能の拡大、予算制度、わが国の予算
2	財政Ⅱ：租税、わが国の税制
3	財政政策Ⅰ：財政政策の目標
4	財政政策Ⅱ：資源配分と財政政策、所得再分配と財政政策、経済安定と財政政策
5	消費の理論Ⅰ：消費者と効用、消費者の合理的選択
6	消費者の理論Ⅱ：序数的効用理論と消費者均衡
7	生産の理論Ⅰ：供給と費用
8	生産の理論Ⅱ：利潤極大の条件、生産関数
9	市場価格の決定Ⅰ：需要と供給
10	市場価格の決定Ⅱ：市場構造
11	国際経済：国際収支、為替相場、貿易と開発
12	おわりに
備考	

科目名	日本国憲法（94年度以降） 法学（「日本国憲法」2単位を含む）（93年度以前）	担当者名	元山 健
-----	--	------	------

講義の目標	<p>日本国憲法の基本原理（基本的人権の尊重、国民主権、平和主義）を理解すること。それを通じて、一人一人の人間がかけがいのない存在であること、そうした自律した個人が連帯しあって良き人生を過ごしていくために、お互いに合意した「人間性の実現のための規範」が憲法であることを理解すること。そして核時代の現代では、民主主義も人権も平和なればこそ生かされることを理解すること。外国語学部生のために、諸外国との比較を交えて講義します。また教職・公務員志望の人のことも考えて講義します。</p>	
講義概要	<p>憲法をまとまった形で学習するのははじめてだという人が多いでしょうから、憲法とはどういう法かという話から始めます。次に憲法の歴史をお話しします。近代憲法の歴史と日本の憲法の歴史が中心です。</p> <p>それ以降は平和主義、基本的人権、統治の制度と作用について、順に憲法の全体像をお話しします。一応憲法の全体をお話しすることを最重点にしています。</p> <p>理論ばかりでなく、具体的事例をなるべくたくさん取り入れて、法律の勉強は苦手という人にもわかりやすくするように努めます。</p>	
使用教材	テキスト	宮本栄三著『現代日本の憲法——人権と平和——』（法律文化社）
	参考文献	三省堂・有斐閣・岩波書店などから刊行の各種『小六法』『ポケット六法』など。
評価方法	<p>前期と後期のテストが中心ですが、積極的に質問をするなど学習態度の良い人は評価します。</p>	
受講者に対する要望など	<p>前年度は私語も少なく、遅刻・欠席も少なくとてもやりやすい授業でした。今年も先輩に負けずに頑張りましょう。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	憲法とは何か。ここでは近代的意味の憲法とは何かを理解します。概論になります。
2	憲法とは何か（その2）。ここでは近代的意味の憲法についての通説的理解の仕方（権力分立と人権保障、そして違憲審査）を批判的に吟味します。
3	近代憲法の歴史。イギリス、フランス、アメリカ、ドイツを中心に。
4	日本憲法史（その1）。明治憲法史。
5	日本憲法史（その2）。日本国憲法50年。
6	平和主義（その1）。平和主義の歴史と論理。
7	平和主義（その2）。平和主義の現状と課題。
8	基本的人権総論。
9	個人の尊厳・幸福追求権・自己決定権。
10	法の下の平等。
11	精神的自由（その1）。総論と思想・良心の自由。
12	精神的自由（その2）。信教の自由。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	精神的自由（その3）。表現の自由の原理。
2	精神的自由（その4）。表現の自由の諸問題。
3	精神的自由（その5）。学問の自由、教育の自由。
4	社会・経済的権利（その1）。経済的自由と人間に値する生存と。
5	社会・経済的権利（その2）。生存・労働・教育。
6	人身の自由と刑事手続き。
7	民主的統治の基礎理論。
8	政治参加の権利と制度。
9	国民主権と象徴天皇制。
10	議会制民主主義と議院内閣制。
11	裁判の制度と作用。
12	地方自治。
備考	

科目名	社会学	担当者名	有吉広介
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>現代社会の諸問題は、18世紀の産業革命に端を発し、現在も進行している産業化、そしてこれに引き続いて起こる脱産業化、そしてこれらが引き起こした社会構造の変化とおおいに関係がある。本講義では、この視点から、現代のわれわれの日常生活にみられる諸変化と、そこにあるさまざまな社会問題とを考えてみたい。</p>	
講義概要	<p>豊かで、ゆとりある生活の実現とか、余暇の確保とかがテーマになる時代に、現実には、企業では能率主義的管理体制のもとにサービス残業が求められたり、過労死までもがみられる。その背景には、日本社会の特殊性もあるが、市場原理に結びついた産業化の論理が社会や文化に浸透し、これらを変化させてきた事情がある。核家族化、組織の官僚制化、都市化、流動社会化、学歴主義化、高齢化と少子化、福祉化などもそうした流れのなかに起こる。講義では、産業化が職業生活を含めてわれわれの日常生活のなかで多くの社会問題をどのように生みだしているのかを説明していく。講義の進行は、講義メモを配布して理解を深めることによる。</p>	
使用教材	テキスト	
	参考文献	随時紹介。
評価方法	<p>評価は、前・後期の定期試験期間中に各一回おこなう試験の成績による。</p>	
受講者に対する要望など	<p>講義に出席し、そこで要点を把握すること</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会学の先駆者サン・シモンやオーギュスト・コントなどにおける社会学のテーマ
2	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
3	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
4	古典的社会学者F・テンニース、G・ジンメル、E・デュルケム、M・ウエーバーなどにおける近代社会の理解
5	社会学における産業社会および脱産業社会のとりえ方
6	社会学における産業社会および脱産業社会のとりえ方
7	現代の職業構造の分析
8	雇用社会と職業的キャリア
9	産業社会における知識の性格と教育
10	日本の近代化、教育システム、および学歴社会
11	社会的不平等の諸次元
12	不平等の構造化
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	社会移動の現実
2	日本の階層社会と社会移動
3	管理社会の中核としての近代官僚制
4	近代的経営の社会構造
5	日本的組織構造
6	都市化と地域社会
7	家族の定義・類型、そして核家族化・少子化
8	家族のライフサイクルの変化
9	高齢化社会の人口学的および社会学的分析
10	高齢化社会における社会問題
11	生活の質を考える。
12	まとめ
備考	

科目名	国際関係論（94年度以降） 時事問題研究（93年度以前）	担当者名	阿部純一
-----	---------------------------------	------	------

講義の目標	現代国際関係、とりわけわが国周辺の国際環境の分析を通じて、国際社会の動態を理解するための基礎知識を習得する。	
講義概要	日本の国際化が叫ばれ、国際関係論への関心が高まっていることは、改めて指摘するまでもない。しかし、わが国にとって最も重要であるはずの東アジアの国際環境の現状について関心をもつ人はそれほど多くないのが現実である。東アジアには、わが国をはじめ、アメリカ、中国さらにはロシア、インドといった大国の利害が交錯しており、この地域の帰趨が世界全体の安定、平和と繁栄に直結している。講義では、東アジア全体の歴史的展開を第2次大戦後からポスト冷戦の現在まで整理し、さらに地域各国の状況を個別に検討していく。	
使用教材	テキスト	なし
	参考文献	小島朋之・小此木政夫編『東アジア危機の構図（仮題）』（東洋経済、1997） 井尻秀憲編『中台危機の構造』（勁草書房、1997） 小島朋之、高井潔司、高原明生、阿部純一著『中国の時代』（三田出版会、1995） その他、必要に応じて適宜紹介する。
評価方法	論述筆記試験	
受講者に対する要望など		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期講義の進め方についての説明
2	国際関係論の成立契機と問題意識
3	東アジアを中心とした現代国際関係史(1)——新中国成立と朝鮮戦争
4	東アジアを中心とした現代国際関係史(2)——ベトナム戦争と米中接近
5	東アジアを中心とした現代国際関係史(3)——中ソ和解とポスト冷戦
6	朝鮮半島の過去と現在——北朝鮮(1) 金日成の権力掌握過程
7	朝鮮半島の過去と現在——北朝鮮(2) 「主体」の国の政治文化
8	朝鮮半島の過去と現在——韓国(1) 開発独裁の成果と限界
9	朝鮮半島の過去と現在——韓国(2) 「儒教文化」と政権交代の現実
10	中国周辺の国際主体——香港(1) 植民地・香港の成立と発展
11	中国周辺の国際主体——香港(2) 香港「返還」をめぐる政治過程
12	(予備日)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期講義の進め方についての説明
2	中国周辺の国際主体——台湾(1) 日本の「台湾」から国民党の「台湾」へ
3	中国周辺の国際主体——台湾(2) 民主化の進展と「独立」めぐる展望
4	21世紀の超大国・中国(1)——建国～「大躍進」政策
5	21世紀の超大国・中国(2)——文化大革命
6	21世紀の超大国・中国(3)——毛沢東の死と鄧小平の台頭
7	21世紀の超大国・中国(4)——「改革・開放」路線の展開
8	21世紀の超大国・中国(5)——江沢民の時代へ
9	結集する東南アジア——ASEANの成立と発展
10	アジア太平洋の時代——APECの成立と発展
11	講義全体のまとめ
12	(予備日)
備考	

科 目 名	文化人類学 (94年度以降) 人類学 (93年度以前)	担当者名	井 上 兼 行
-------	--------------------------------	------	---------

講 義 の 目 標	文化人類学は、文明社会から最も遠い位置にある未開社会の文化を、異文化として理解し、同時にそれを通してわれわれの文化についても理解を深めようとする学問である。学問の歴史、事例を通じてそのおこよそを知る。		
講 義 概 要	文化人類学形成の歴史を通して、未開社会の文化に対するこの学問の態度を明らかにし、次いでその独特な研究方法を述べる。そのあとは、いくつかの事例を通して異文化理解の仕方を示し、またそこからわれわれの文化をどのように考えることができるかを説明してゆく。		
使 用 教 材	テキスト	なし	
	参 考 文 献	随時紹介する。	
評 価 方 法	試験を考えているが、登録者が極端に少ない場合はレポートもありうる。		
受 講 者 に 対 す る 要 望 な ど	以下に示す日程はあくまでも暫定的なものである（順序はこの通りである）ことを念頭に置いてほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序——どんな学問か。
2	学問形成の歴史——（1）スペイン人のインディオ観①
3	" —（2） " ②
4	" —（3）16C後半～18C後半の西欧人の未開人観
5	" —（4）18C後半～19C後半の西欧人の未開人観
6	19C後半 文化人類学の誕生——（1）“文化”の概念①
7	" —（2）“文化”の概念②
8	" —（3）“進化”の概念
9	19C末～20C初 現代の文化人類学へ
10	研究方法としての“実地調査”——（1）
11	" —（2）
12	これ以降は事例研究になる。テーマは今のところ未定。ここまでの話の脈絡から決めてゆく。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	社会科学特殊講義A(教育法)1(94年度以降) 教育法(93年度以前)	担当者名	市川 須美子
-----	--	------	--------

講義の目標	<p>教育法学の基礎理論の理解の上に、現代的問題である1980年代以降の「子どもの人権裁判」を素材に、教育法の体系的理解を目標とする。</p>		
講義概要	<p>前期は、教育法の基本概念である教育人権の概念と、教育における国家の役割を学ぶ。教育法形成に重要な影響を及ぼした基本判例を素材とする。</p> <p>後期は、現在の教育法の焦点となっている「子どもの人権裁判」を体罰、いじめ裁判、校則裁判、学校教育措置訴訟、教育情報裁判に分類して、論点と課題を検討する。</p>		
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『教育小六法』学陽書房 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・神田修編『教育法と教育行政の理論』三省堂、1993年 ・兼子・神田編『ホーンブック教育法』北樹出版、1995年 	
評価方法	<p>前期 レポート</p> <p>後期 試験</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	教育法とは何か？ 教育法の機能的三種別、教育条理
2	戦後教育法制の基本的特徴 戦前法制と比較して
3	教育法における教育人権と一般人権、教育権力
4	教師の教育権(1)
5	教師の教育権(2)
6	親の教育権(1)
7	親の教育権(2)
8	子どもの学習権(1)
9	子どもの学習権(2)
10	教育の地方自治 教育委員会準公選制
11	国家の教育権と国民の教育の自由
12	学校事故と教育行政の条件整備義務
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	子どもの人権裁判総説
2	体罰裁判(1) 特徴と論点
3	体罰裁判(2) 体罰判例の展開と動向
4	いじめ裁判(1) いわきいじめ自殺事件、中野富士見中事件
5	いじめ裁判(2) その後のいじめ判例
6	校則裁判(1) 二つの丸刈り訴訟
7	校則裁判(2) バイク退学事件・パーマ退学事件
8	学校教育措置訴訟(1) 原級留置き訴訟
9	学校教育措置訴訟(2) エホバの証人生徒退学事件
10	学校教育措置訴訟(3) 障害生徒入学不許可事件
11	教育情報裁判 内申書開示請求訴訟
12	まとめ 子どもの権利条約と教育法
備考	

科目名	社会科学特殊講義A(近代市民社会像の形成と批判)2(94年度以降) 社会思想史(93年度以前)	担当者名	市川 達人
-----	--	------	-------

講義の目標	私たちの政治や経済に対する見方・考え方のなかに生きている近代的社会像の生成を、その誕生の時と所にさかのぼって理解することが目的。		
講義概要	ルネッサンスを起点として19世紀あたりまでの社会思想の歴史を概観する。近代市民社会の成立・成熟を支えた政治思想、経済思想、哲学思想などの流れをたどることとなるが、それぞれの時代を代表する人物の思想に焦点を当てた講義となる。現在、リベラリズムが時代の関心となっているが、その歴史的意味の検討が隠れたテーマである。		
使用教材	テキスト	渋谷一郎編『社会思想の歴史』八千代出版	
	参考文献	講義で適宜指示	
評価方法	後期の一括試験で評価する。 前期末にレポートを求めることもありうる。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間予定。講義の目的と課題。講師の問題意識
2	思想史の方法。社会とは？。社会像の歴史的類型などについて。
3	近代市民社会とは（西欧的社会観の原型と展開）
4	ルネッサンスと都市
5	マキャベリと『君主論』
6	ユートピア思想とは
7	トマス・モアと『ユートピア』
8	中世の教会改革運動、千年王国説、後期スコラ学派
9	ルターの改革運動と神学
10	ルターの経済思想
11	カルヴィニズムと近代化
12	前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	自然法思想の歴史
2	ホッブスの人間観と自然権思想
3	ホッブスの国家論
4	ロックの市民社会論
5	ロックの所有権理論とリベラリズム
6	フランス啓蒙思想（ヴォルテール、ディドロ、モンテスキュー）
7	ルソーの啓蒙批判と社会批判
8	アダム・スミスと経済的自由主義
9	社会主義思想の諸潮流
10	マルクスの思想(1)
11	マルクスの思想(2)
12	後期のまとめ
備考	

科 目 名	社会科学特殊講義A(文化人類学特殊講義)3(94年度以降) 文化人類学(93年度以前)	担当者名	井 上 兼 行
-------	--	------	---------

講義の目標	<p>“異なった文化”をもつ人々とは、事物についてわれわれとは“異なった認識”をする人々、ということである。異文化の完全な理解などありえないが、われわれの認識の仕方ははぎとりながら、異文化に迫ることは可能である。文化人類学の立場からのその成果の一端を知る。</p>		
講義概要	<p>文化人類学における未開社会研究の成果と基礎、いくつかのテーマを取り上げ、いずれも数回ずつ使って、“異なった文化”をもつ人々の認識の仕方について述べてゆく。</p>		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	<p>試験か、レポート、あるいはその両方、と考えているが、登録者の数によって決める。</p>		
受講者に対する要望など	<p>自由選択科目だから条件にすることはできないが、2年生以上、また文化人類学の単位を取っているか、興味をもって何かを読んだことがある人に登録してほしい。</p>		

科目名	社会科学特殊講義A(広告論)4(94年度以降) マスコミュニケーション論特殊講義A(93年度以前)	担当者名	梶山 皓
-----	--	------	------

講義の目標	現代における広告の役割を、マーケティングとコミュニケーションの視点から解説します。	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 企業や団体が広告をなぜ行うか、どのように広告を計画し実施するかを学びます。また社会風俗や価値観、倫理・法的な面から、現代の広告を考えます。 2. マスコミやマルチメディア、広告業界の仕組みや動向を取り上げます。 3. 消費者のコミュニケーション過程や購買行動を分析します。 4. アメリカと日本のCMをVTR等で紹介し、日米のビジネス観やコミュニケーションの違いを探ります。 	
使用教材	テキスト	・梶山皓著『広告入門』日経文庫。
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・八巻俊雄・梶山皓『広告読本』東洋経済新報社。 ・干場英男『アメリカの広告・風と土』電通。 ・『広告に携わる人の総合講座』日経広告研究所。 ・W. Wells: Advertising, Principles and Practice, Prentice-Hall, 1995 ・S. W. Dunn: Advertising, Its Role in Modern Marketing, Dryden Press. 1994.
評価方法	<p>試験は講義と教科書から出題します。</p> <p>評価は厳しいと考えて下さい。</p>	
受講者に対する要望など	できるだけ3年生で履修して下さい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	広告をなぜ学ぶか (Introduction) : 広告を学ぶと、社会の近未来が見えてくる。また物事をポジティブにとらえる視点が身に付く。
2	広告の定義 (Ad. Definition) ① : 日本語の「広告」という言葉には、広告活動と広告物という2つの違った意味が含まれている。
3	広告の定義 (Ad. Definition) ② : 広告という言葉は、しばしば世間で誤って使われている。宣伝、PR、広報、SPと広告は別の事柄である。
4	広告の機能 (Role of Ad.) : 広告には情報を伝える機能がある。このほかに人を説得する機能、広告主と受け手の関係を強化する機能がある。
5	広告の種類 (Ad. Classification) ① : 広告を代表するものは、消費財広告、ビジネス広告のように商業目的に使われる広告である。
6	広告の種類 (Ad. Classification) ② : 広告には、公共広告、意見広告、政治広告のように、市民の啓蒙や世論の喚起に使うものがある。
7	広告主 (Advertisers) ① : アメリカの広告費は邦貨で年間約15兆円で、世界の半分を一國で占める。日本は世界2位で約5兆円である。
8	広告主 (Advertisers) ② : 広告主は、広告活動を効果的に行うために、広告計画を策定して実施する。また様々な組織を編成する。
9	広告会社 (Ad. Agency) ① : 広告会社は、広告コミュニケーションを企画実施する専門家集団である。日米ではビジネスの進め方が異なる。
10	広告会社 (Ad. Agency) ② : 広告会社には色々な形態や組織がある。広告会社の収入源は、媒体手数料という古い習慣に基づいている。
11	広告メディア (Ad. Media) ① : 広告メディアには、マスメディアから看板やチラシまで色々な種類があり、広く活用されている。
12	広告メディア (Ad. Media) ② : マルチメディア時代を迎えて、衛星放送、双方向CATVなどの新しいメディアが広告界を揺さぶっている。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	広告とマーケティング (Marketing Principles) : マーケティングの基本理念は、消費者志向である。受け手のニーズから出発する。
2	戦略企業計画 (Strategic Planning) : 戦略計画はアメリカで発達した経営理論で、マーケティングをサブシステムとする企業の全体計画である。
3	マーケティング・ミクス (Marketing Mix) ① : 製品とは、効能の側面だけではなく、パッケージ、色、デザイン、保証を含む広い概念である。
4	マーケティング・ミクス (Marketing Mix) ② : 価格の心理的側面、流通チャネルと物流、プロモーション・ミクスについて説明する。
5	広告コミュニケーション (Communication) ① : 広告は社会的なコミュニケーションであり、受け手に様々な心理的影響を与える。
6	広告コミュニケーション (Communication) ② : 消費者には、マスコミによる新しい情報を受け入れる人と、従来の習慣に固執する人がいる。
7	DAGMARの理論 (DAGMAR) : 広告効果は、売上高にではなくコミュニケーション効果に置くべきだという理論で、論争を引き起こした。
8	広告階層モデル (Ad. Hierarchy Model) : 人々は製品を調べてから買うのか、買った後に調べるのか。衝動買いはなぜ起きるのかを考える。
9	広告計画 (Ad. Planning) ① : 広告活動は、広告目標の設定、予算策定、広告表現の決定、媒体選択、効果測定という一連の過程を経て進める。
10	広告計画 (Ad. Planning) ② : 広告計画の中でも、広告表現の方針を決めることと、メディアを選ぶことがとくに重要である。
11	広告規制 (Ad. Regulation) : 広告規制には、広告を倫理や公序良俗からチェックする自主規制と、法律で取り締まる法規制がある。
12	広告の将来 (Ad. Future) : 広告はどのような方向に進むのか、これからの広告ビジネスや広告人に何が求められるかを考える。
備考	

科目名	社会科学特殊講義A(マスコミュニケーション論)5(94年度以降) マスコミュニケーション論1(93年度以前)	担当者名	佐々木 輝 美
-----	---	------	---------

講義の目標	マス・コミュニケーションに関する基本用語、概念などを説明することができ、且つ、それらの用語を使って具体的なマス・コミュニケーション現象を分析できるようになる事を目標とする。		
講義概要	本講義への導入として、先ずコミュニケーションの基礎について説明する。次の数週間で、マス・コミュニケーションのモデルおよび効果について解説し、マス・コミュニケーションの全体像を捉えてもらう。その後、前期の後半はマスコミと教育の問題を、そして後期は、マス・コミュニケーションの「影響研究」を中心に講義を行う予定。影響研究については、とくに「メディア暴力の視聴者への影響」を中心テーマとして扱う。		
使用教材	テキスト	(前期) プリント (後期) 佐々木輝美『メディアと暴力』勁草書房 1996	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・岡崎篤郎他編著『マス・コミュニケーション効果研究の展開』北樹出版 1992 ・H. J. アイゼンク他著 岩脇三良訳『性 暴力 メディア』新曜社 1982 	
評価方法	定期試験、レポート、平常点の総合評価を行う。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	マス・コミュニケーションとは
2	コミュニケーションについての基礎知識① —プロセスの概念について—
3	コミュニケーションについての基礎知識② —意味はどこに存在するか?—
4	コミュニケーションについての基礎知識③ —メディア接触について—
5	マス・コミュニケーションのモデルについて① —モデルの長所と短所—
6	マス・コミュニケーションのモデルについて② —マス・コミュニケーションの要因—
7	ビデオ視聴&解説 (レポート課題発表) (レポートは1000字程度にまとめる。)
8	マスコミ効果の概念について① —効果とは—
9	マスコミ効果の概念について② —順機能と逆機能— (レポート提出締切り)
10	マス・コミュニケーションと教育①
11	マス・コミュニケーションと教育②
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	マスコミの影響研究について① —弾丸理論—
2	マスコミの影響研究について② —限定効果モデル—
3	マスコミの影響研究について③ —適用効果モデルから強力効果モデルへ—
4	メディア暴力研究について① —研究の背景—
5	メディア暴力研究について② —カタルシス理論—
6	メディア暴力研究について③ —観察学習理論—
7	メディア暴力研究について④ —脱感作理論—
8	メディア暴力研究について⑤ —カルティベーション理論—
9	ビデオ視聴&解説 (レポート課題発表) (レポートは1000字程度にまとめる。)
10	メディア暴力研究について⑥ —4理論のまとめ(暴力番組の類型化)—
11	メディア暴力研究について⑦ (レポート提出締切り) —メディア暴力への対応—
12	まとめ
備考	

科目名	社会科学特殊講義A(メディアにみる国際関係)6(94年度以降) 国際関係論特殊講義A(93年度以前)	担当者名	佐藤真千子
-----	---	------	-------

講義の目標	<p>本講義の目標は、メディアで取り上げられた時事問題についての理解を深めることです。冷戦が終焉した世界は、今、新しい秩序を模索しているので不透明であるといえますが、本講義では、転換期にある現在を考えるための材料を提供していくことを目指します。時事的な問題は、歴史研究のように出そろった資料を用いながら問題を分析し、確定的な評価を下すことを許さないという性格を持っています。したがって、国際社会でおきている変化を捉え、慎重に判断し、限界をわきまえつつ、認識するという姿勢が必要となります。</p>				
講義概要	<p>本講義では、現代国際社会の現象を捉える媒体となっている日本と海外の新聞や雑誌の記事、CNN Internationalなどのテレビニュースを通して現代の問題を把握し、考察していきます。日本語・英語を問わず、多くのメディアを材料として扱い、問題を多角的に理解することを試みます。</p> <p>問題の捉え方(方法)を学ぶために情報検索、資料・文献研究を取り入れ、その作業過程で、現代の問題に対する興味・視点を養っていくことになります。</p> <p>受講者数に応じて授業形態が変わることもありますが、グループまたは個人の発表を取り入れていきます。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>日本のテレビニュースやCNN InternationalのWorld Newsの映像、日本の主要な新聞・雑誌、International Herald Tribune, The Economist, Far Eastern Economic Review, The New Republic, The Atlantic Monthly, The World Todayなどの記事を随時使用していきます。</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td>適宜、紹介します。</td> </tr> </table>	テキスト	日本のテレビニュースやCNN InternationalのWorld Newsの映像、日本の主要な新聞・雑誌、International Herald Tribune, The Economist, Far Eastern Economic Review, The New Republic, The Atlantic Monthly, The World Todayなどの記事を随時使用していきます。	参考文献	適宜、紹介します。
テキスト	日本のテレビニュースやCNN InternationalのWorld Newsの映像、日本の主要な新聞・雑誌、International Herald Tribune, The Economist, Far Eastern Economic Review, The New Republic, The Atlantic Monthly, The World Todayなどの記事を随時使用していきます。				
参考文献	適宜、紹介します。				
評価方法	平常点、試験またはレポートにより、総合的に評価します。詳細は初回授業で説明します。				
受講者に対する要望など					

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	初回授業にて説明します。
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	社会科学特殊講義A(日本経済論)7(94年度以降) 日本経済論(93年度以前)	担当者名	波形昭一
-----	--	------	------

講義の目標	<p>「日本経済論」と銘打った書物は巷に氾濫しているが、学生諸君に推奨できるものは意外と少ない。もちろん、良書がないというのではない。だが、それらの多くは概して現状分析の専門書であり、難解にすぎるからである。「日本経済論」としては当然それでよいのだが、どうも学生諸君には不向きのような。若い諸君は未来志向が強い反面、歴史知識に乏しいためか、現状分析の意味そのものがよく理解できないように見受けられる。こうした観点から、本講義では、日本経済の歴史と現状の両者をバランスよく「総合」することを目標としたい。</p>		
講義概要	<p>〔前期〕では、戦前における日本経済のシステムとその崩壊過程、および戦後復興から高度経済成長への発展過程を論ずる。</p> <p>〔後期〕では、ドル・ショック、オイル・ショックを契機に高度経済成長のシステムが崩れ、新たなシステム再構築を迫られる現代日本経済の諸問題を論ずる。</p> <p>詳細については、次頁の年間講義予定を参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	竹内宏著『昭和経済史』筑摩書房、1988年	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・佐々木隆爾編『昭和史の事典』東京堂出版、1995年 ・中村隆英著『昭和経済史』岩波書店、1986年 ・柴垣和夫著『知識人の資格としての経済学』大蔵省印刷局、1995年 ・降旗節雄著『日本経済の構造と分析』社会評論社、1993年 	
評価方法	<p>前期・後期とも試験をおこない、総合点で評価する。追試験はおこなわない。したがって、いずれかの試験を受け損じた場合、単位の取得はほとんど不可能に近いことを心得ておいてほしい。</p>		
受講者に対する要望など	<ul style="list-style-type: none"> ① 講義中の私語は慎むべし。「私語」は「死後」と同音。同義にならないよう注意されたい。 ② 講義中の飲食は固く禁ずる。大学は歌舞伎座や新橋演舞場ではない。 		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本経済の近代化とその構造 (1) 産業・貿易構造
2	日本経済の近代化とその構造 (2) 金本位制の成立
3	恐慌時代の到来、そして金本位制崩壊へ
4	井上財政から高橋財政への転換
5	戦時経済システムとその実態
6	戦後経済復興 (1) 4大経済改革
7	戦後経済復興 (2) 復興対策とインフレ
8	戦後経済復興 (3) ドッジ・ラインとシャープ勧告
9	戦後経済からの脱皮、高度経済成長へ
10	高度経済成長の構造
11	高度経済成長の精神的土台
12	高度経済成長の時代背景——大衆消費社会との関連で——
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	高度経済成長の終焉 ——ドル・ショック、オイル・ショック、そしてインフレ——
2	日本経済の構造転換
3	プラザ合意とバブル景気
4	平成不況への転落、その長期化
5	平成不況＝「複合不況」の意味
6	日本経済の諸問題 (1) 産業空洞化
7	日本経済の諸問題 (2) 対外経済摩擦
8	日本経済の諸問題 (3) 金融再建
9	日本経済の諸問題 (4) 農業と食料
10	日本経済の諸問題 (5) 高齢化社会対策
11	日本経済の諸問題 (6) 「法人資本主義」
12	日本経済の諸問題 (7) 「大競争時代」の到来
備考	

科目名	社会科学特殊講義A(歴史的に見たパレスチナ問題)8(94年度以降) 時事問題研究特殊講義A-2(93年度以前)	担当者名	奈良本 英 佑
-----	--	------	---------

講義の目標	代表的な長期国際紛争であるパレスチナ問題を取りあげる。この問題の歴史的背景、当面する諸問題を分析し、中東世界の独特の文化と欧米のユダヤ人問題などについて理解を深めることを目標とする。オスロ合意と暫定自治の実施によって、問題解決は間近かになったという楽観論が通用しないこともわかればよい。				
講義概要	前期は、パレスチナ問題にかかわる基本的な諸問題、およびイギリスの委任統治終了までの歴史を扱おう。後期は、イスラエル建国、イスラエル・アラブ紛争、国際政治とのかかわりなどについて講義する。				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>Walter Laqueur et al (ed). <i>The Israel-Arab Reader</i> 5th ed. Penguin Books, 1995</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・木村修三「中東和平とイスラエル」(有斐閣、1992年) ・浦野起央「パレスチナをめぐる国際政治」(南窓社、1985年) ・D. ギルモア「パレスチナ人の歴史」(北村訳、新評論、1985年) ・池田明史編「中東和平と西岸・ガザ」(アジア経済研、1990年) ・A. レオン「ユダヤ人と資本主義」(波田訳、法政大出版、1973年) ・立山良司「イスラエルとパレスチナ」(中公新書、1989年) ・Y. ハルカビー「イスラエル——運命の刻」(奈良本訳、第三書館) </td> </tr> </table>	テキスト	Walter Laqueur et al (ed). <i>The Israel-Arab Reader</i> 5th ed. Penguin Books, 1995	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・木村修三「中東和平とイスラエル」(有斐閣、1992年) ・浦野起央「パレスチナをめぐる国際政治」(南窓社、1985年) ・D. ギルモア「パレスチナ人の歴史」(北村訳、新評論、1985年) ・池田明史編「中東和平と西岸・ガザ」(アジア経済研、1990年) ・A. レオン「ユダヤ人と資本主義」(波田訳、法政大出版、1973年) ・立山良司「イスラエルとパレスチナ」(中公新書、1989年) ・Y. ハルカビー「イスラエル——運命の刻」(奈良本訳、第三書館)
テキスト	Walter Laqueur et al (ed). <i>The Israel-Arab Reader</i> 5th ed. Penguin Books, 1995				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・木村修三「中東和平とイスラエル」(有斐閣、1992年) ・浦野起央「パレスチナをめぐる国際政治」(南窓社、1985年) ・D. ギルモア「パレスチナ人の歴史」(北村訳、新評論、1985年) ・池田明史編「中東和平と西岸・ガザ」(アジア経済研、1990年) ・A. レオン「ユダヤ人と資本主義」(波田訳、法政大出版、1973年) ・立山良司「イスラエルとパレスチナ」(中公新書、1989年) ・Y. ハルカビー「イスラエル——運命の刻」(奈良本訳、第三書館) 				
評価方法	前期と後期の定期試験による。				
受講者に対する要望など	現代史、国際問題に興味を持つ諸君の受講を歓迎する。高校の世界史程度の常識と英字新聞が抵抗なく読める程度の英語力を前提に講義する。関係の深い新聞、雑誌、記事などには絶えず注意を払ってほしい。				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	[イントロダクション] パレスチナ問題の見取図を描き、参考文献を紹介する。
2	[パレスチナ] 古代から近代に至るパレスチナの歴史を概観し、「文明の十字路」としてのパレスチナの特異性について論じる。
3	[エルサレム] 「文明の十字路」で生まれた、ユダヤ教、キリスト教、イスラームとは何か。これら3つの共通の聖都エルサレムの歴史を概観する。
4	[ユダヤ人] 信徒集団、人種、民族——コンテストによって「ユダヤ人」の意味するものは異なる。今なお論争がつかない「ユダヤ人の定義」について考える。
5	[シオニズム運動] 「ユダヤ人」と呼ばれた人々は、なぜ自分たちが一個の民族(nation)を構成し、自分たちの国を持たねばならないと考えたのか。近代の反ユダヤ主義との関連で論じる。
6	[アラブナショナリズム] 「アラブ意識」は古いが、彼らのナショナリズムは新しい。「アラブ」はなぜ政治的統一と独立を求めるに至ったかを考える。
7	[第一次大戦とイギリスの三重取引] 大戦中にイギリスが3つの当事者(フランス、シオニスト、アラブ)に対して行なった。互いに矛盾する約束は有名。イギリスの動機などについて考える。
8	[委任統治とシオニストの入植] 委任統治と呼ばれるイギリスのパレスチナ支配の下で、シオニストのパレスチナ移民はいかに行なわれたか。入植による人口動態、土地問題について講義する。
9	[イシューヴの形成] 入植を通じてパレスチナに形成されたユダヤ人社会=イシューヴは、どのように組織されたか。その社会組織、政治機構、軍事組織などについて。
10	[パレスチナ・アラブ社会] 同時期のパレスチナ・アラブ社会はどのような構造を持っていたのか。彼らの宗教コミュニティ、政党などについて。
11	[パレスチナ・アラブの反乱] イギリスの支配とシオニストの入植に反対するアラブの反乱(1936-39)は、いかに開始され、なぜ失敗したのか。
12	[シオニストの反乱] 親シオニスト政策を修正し入植制限に踏み切ったイギリスに対するシオニストの反乱は、なぜ成功したか。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	[冷戦とパレスチナ分割] 第二次大戦後の冷戦開始期において激しく対立した米ソは、競ってシオニストを支援し、イスラエル建国を助けた。米ソのパレスチナ政策の奇妙な一致について考える。
2	[第一次中東戦争——パレスチナ難民の発生] シオニスト=イスラエルはいかに勝利したか。未だ解決の見通しのないパレスチナ難民問題はなぜ発生したのか。
3	[第二次中東戦争] エジプトによるスエズ運河国有化を直接のきっかけとする1956年の戦争は、結果的にアラブ・ナショナリズムの昂揚をもたらした。このパン・アラビズムとパレスチナの関係などについて講義。
4	[第三次中東戦争] アラブ諸国はイスラエルに大敗し、広大な領土を占領され、アラブ・ナショナリズムは求心力を失なう。1967年のこの戦争がなぜ起こり、中東の政治地図をどのように塗り変えたか。
5	[パレスチナ解放運動の自立] パン・アラビズムの衰退のなかから、いかにしてパレスチナ・ナショナリズムが興り、自立した解放運動がはじまったか。
6	[第四次中東戦争] エジプト主導の限定戦争として始まった1973年の10月戦争は何をもたらしたか。いわゆる「第一次石油ショック」とも関連させて論じる。
7	[政治的解決] 石油の政治的武器としての活用に成功したアラブ諸国とパレスチナ解放運動は、これを背景にどのような政策転換を計ったか。エジプトの対イスラエル講和、ミニ・パレスチナ構想などにも触れる。
8	[レバノン戦争] 建国後はじめて政権をとったイスラエルの右翼政党リクードの主導ではじめられた、1982年のこの戦争は、PLOの壊滅と大イスラエル建設を目指した。リクード政権のもくろみは成功したか。
9	[イスラエルの反戦運動] イスラエル政治の右傾化が進む一方で、これに危機感をいだく平和勢力(Peace Camp)の運動も盛んになる。レバノン戦争反対やPLOとの対話を求めるイスラエル人の運動について。
10	[占領地とインティファダ] レバノン戦争後、パレスチナ解放運動の主体は難民から占領地の住民に移る。インティファダと呼ばれる、低/非暴力の大衆闘争はいかに始まったか。
11	[オスロ合意] オスロで行なわれたイスラエル政府とPLOの秘密交渉で、1993年9月、約1世紀におよぶ闘争の「停戦協定」が成立。両者の妥協は何を意味するか。
12	[展望——残された問題] オスロ合意で棚あげにされた多くの問題(パレスチナ難民の帰還権、補償、エルサレムの地位、占領地の将来、入植者の扱いなど)の解決は可能か。解決のために何が必要か。
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（経済理論の基礎—マクロ理論を中心として）9（94年度以降） 経済原論（93年度以前）	担当者名	西村 允克
-----	---	------	-------

講義の目標	<p>市場経済を理解するための理論的枠組みを学習することによって、現実の経済問題を正しく理解する力を養うことが、この講義の目的である。経済現象は孤立してあるものではなく、他の経済現象と複雑な複合関係にあることをまず理解してもらいたい。講義では、経済現象を1つ1つ取り上げていくが、それは経済現象間の複雑な複合関係を解くための1つの方法であって、必ずそれは結合させて次の段階へ進むから、絶えず講義で学習した内容を復修しながら学習しなければならない。</p>				
講義概要	<p>現実経済は極めて複雑な組織である。複雑なシステムを理解するためには、システムをそれを構成する基本的要素（供給者と需要者、家計、企業、政府）と基本的要素間の経済関係によって、理論的分析が可能となるモデルに再構築しなければならない。前期では、経済学の最も基礎的なミクロモデルとマクロモデルを学習し、経済理論の基礎的な考え方を理解し、後期の学習の基礎をかためる。前期の前半は経済分析ために必要な基礎知識を学び、後半のモデル分析理解の土台となる学習であるから、常に先に進んでももどって再学習しなければならない。後期は前期のモデル分析をヨリ現実に近いものに拡張し、さまざまな現実経済問題の理解に進む。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>・中谷 巖 著 『入門マクロ経済学』 日本評論社</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・幸村千佳良著 『マクロ経済学事始』 多資出版 ・R. T. ギル著 久保、長谷川訳 『マクロ経済学入門』 上下 東洋経済新報社 ・藤野正三郎 著 『価格理論』 東洋経済新報社 ・スティグララー著 『価格の理論』 有斐閣 ・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社 </td> </tr> </table>	テキスト	・中谷 巖 著 『入門マクロ経済学』 日本評論社	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・幸村千佳良著 『マクロ経済学事始』 多資出版 ・R. T. ギル著 久保、長谷川訳 『マクロ経済学入門』 上下 東洋経済新報社 ・藤野正三郎 著 『価格理論』 東洋経済新報社 ・スティグララー著 『価格の理論』 有斐閣 ・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社
テキスト	・中谷 巖 著 『入門マクロ経済学』 日本評論社				
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・幸村千佳良著 『マクロ経済学事始』 多資出版 ・R. T. ギル著 久保、長谷川訳 『マクロ経済学入門』 上下 東洋経済新報社 ・藤野正三郎 著 『価格理論』 東洋経済新報社 ・スティグララー著 『価格の理論』 有斐閣 ・倉沢資成 『入門価格理論』 日本評論社 				
評価方法	<p>前期と後期の定期試験の結果による。試験問題についての採点基準は講義において注意した点をよく理解して記述されているかである。</p>				
受講者に対する要望など	<p>日々の新聞の経済面の見出しに注意し、経済の動きについての常識的理解を深める努力をしてほしい。講義は常に現実の経済の動きに対応している。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	1 経済学を学ぶための基礎 (I) 基礎用語 経済主体、経済資源 経済活動 財とサービス 実物資産と金融資産 価格
2	2 経済学を学ぶための基礎 (II) 分析ツール 関数と曲線 図の読み方 限界と平均 関数の変化と曲線のシフト 変数 (独立変数と従属変数)
3	3 経済学を学ぶための基礎 (III) 市場モデルの作り方、市場均衡と市場不均衡 短期と長期 (経済与件)
4	4 国民経済計算 (I) 付加価値額 国内総生産 国内総支出 グロスとネット 国民1人当り国内総生産
5	5 国民経済計算 (II) 物価指数 (デフレーター) 名目値と実質値 経済成長率
6	6 生産関数と総費用関数 産出量と投入量 限界生産力 完全雇用と不完全雇用 等生産量曲線 総費用関数 固定費用と可変費用 限界費用と可変費用
7	7 消費関数 限界消費性向と限界貯蓄性向 平均消費性向と平均貯蓄性向
8	8 価格決定理論 (I) 需要関数と供給関数 市場均衡の安定分析
9	9 価格決定理論 (II) なぜ価格は変化するのか
10	10 国民所得決定理論 (I) 簡単なモデル 貿易のない場合の国民所得決定理論 財政政策の国民所得に及ぼす効果
11	11 国民所得決定理論 (II) 貿易を含む場合の国民所得決定理論
12	12 前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	13 貨幣市場の問題 マネーサプライとハイパワードマネー 金融政策 (公定割引歩合 公開市場操作、予金準備率) 貨幣数量説
2	14 貨幣需要について 取引動機による貨幣需要と投機的動機による貨幣需要
3	15 IS = LM 分析 (I) ——国民所得と利率の同時決定理論 IS 曲線と LM 曲線の導出とその意味
4	16 IS = LM 分析 (II) 財政政策は国民所得と利率をどのように変化させるか 金融政策は国民所得と利率をどのように変化させるか
5	17 IS = LM 分析 (III) 安定分析、現実経済への応用
6	18 景気変動 (I) キッチン波動 ジュグラー波動 コンドラチェフ波動 技術革新 独立投資と従属投資
7	19 景気変動 (II) 資本稼働率 バブルと平成不況
8	20 経済成長論 (I) (基本概念) 投資の生産力効果 潜在的成長率と現実成長率
9	21 経済成長論 (II) なぜ日本は戦後このような高度成長を実現したのか、基本概念を用いながら説明する。
10	22 国際収支 経常収支 (貿易収支 貿易外収支 移転収支) と資本収支、変動相場制 交易条件
11	23 インフレーション フィリップス曲線
12	24 まとめと平成8年の日本経済の諸問題
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（国際法）10（94年度以降） 国際法（93年度以前）	担当者名	廣部 和也
-----	---	------	-------

講義の目標	国際社会の法である国際法について学ぶ。国際社会においても、国内社会（国家）と同様に、法が存在し一定の役割を果たしていることを知ってもらいたい。		
講義概要	国際法の全般について取り上げる。国際問題で国際法に関連する問題があれば、適宜取り上げて解説する。		
使用教材	テキスト	解説条約集（石本泰雄・小田滋編・三省堂、第7版） 標準国際法（寺沢一他編、青林書院）	
	参考文献		
評価方法	試験による。適宜出席をとり評価の際に参考とする。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	この講義の全般的概要の説明
2	国際社会における国際法の役割と法としての特徴
3	国際社会における国際法の誕生と発展
4	国際法の存在形式。条約と慣習法
5	国家の成立と国家の権能
6	国家管轄権の態度
7	国家領域の性格
8	日本の領土問題
9	海洋法制の成立と発展
10	領海と公海
11	経済水域と大陸棚
12	深海底
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	航空機と人工衛星（空の制度）
2	人の国際的移動と国際法（国籍・外国人の地位・経済活動）
3	難民
4	人権の国際的保護
5	外交使節（外交官・領事）
6	国際責任法（国際違法行為と国家の責任）
7	国際請求
8	地球環境保護と国際法の規制
9	国際紛争の解決（裁判以外の紛争解決手続）
10	国際裁判
11	戦争の違法化と国際安全保障
12	軍縮
備考	

科目名	社会科学特殊講義A(国際貿易と国際収支調整)11(94年度以降) 国際経済論(93年度以前)	担当者名	益山光央
-----	---	------	------

講義の目標	国際経済を分析する際に必要な最低限必要と思われる諸概念の修得を目標とする。		
講義概要	国際経済学の基礎的な理論を中心に講義する。前期は貿易理論、後期は開放経済下の所得決定メカニズムを中心テーマとする。今日、世界で問題となっている具体的事項については直接は取り扱わない。		
使用教材	テキスト	教科書 仙頭佳樹ほか、『あなたにもわかる国際経済学』多願出版、1991	
	参考文献	渡辺太郎『国際経済(第四版)』春秋社、1990 Peter B. Kenen; <i>The International Economy (Third Edition)</i> , Cambridge University Press, 1994	
評価方法			
受講者に対する要望など	まじめに勉強してほしい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義のアウトライン
2	リカード的奉易理論Ⅰ
3	リカード的貿易理論Ⅱ
4	ヘクシャーオリーン定理Ⅰ
5	ヘクシャーオリーン定理Ⅱ
6	リプチンスキー定理
7	ストルパーサミュエルソン定理
8	関税Ⅰ
9	関税Ⅱ
10	国際生産要素移動Ⅰ
11	国際生産要素移動Ⅱ
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	GNP と GDP
2	固定収支表
3	固定相場制下の所得決定Ⅰ
4	固定相場制下の所得決定Ⅱ
5	変動相場制下の所得決定Ⅰ
6	固変動相場制下の所得決定Ⅱ
7	開放経済上の金融政策Ⅰ
8	開放経済上の金融政策Ⅱ
9	開放経済上の財政政策Ⅰ
10	開放経済上の財政政策Ⅱ
11	ポリシーミックス
12	まとめ
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（民法概論）12（94年度以降） 民法概論（93年度以前）	担当者名	松嶋 由紀子
-----	---	------	--------

講義の目標	<p>日常的な生活をめぐる社会現象に対し、客観的な評価と対応ができるように、民法学入門の研究を通し、リーガルマインドを養成することを目標とする。</p>		
講義概要	<p>我々の日常生活を規律する法としての民法（財産法と家族法）の仕組みとその実際を、裁判例や実例をあげながら説明する。今後の社会生活の中で、なるべく実際に役立つと思われる事項を、平易に講義し、一緒に考えたい。</p>		
使用教材	テキスト	追って指定。	
	参考文献		
評価方法	試験または研究レポート。		
受講者に対する要望など	意欲のある学生を希望する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	市民法としての民法の基本原理と体系
2	民法の歴史
3	民法の解釈と適用をめぐって
4	民法総則
5	物をめぐる権利
6	"
7	"
8	契約をめぐる権利
9	消費者をめぐる権利
10	不法行為
11	現代社会と市民法の政策について（特別法関連）
12	"
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	親族法総論（総論・氏と戸籍）
2	婚姻
3	離婚
4	親子
5	扶養（高齢者の扶養）
6	相続法総論
7	相続人と相続分・相続財産
8	遺産分割の手続きと実際
9	遺言
10	遺留分
11	現代社会と家族法の改正
12	"
備考	講義進行上の都合により、多少の変更もありうる。

科目名	社会科学特殊講義A(社会思想史)13(94年度以降) 社会思想史(93年度以前)	担当者名	松丸壽雄
-----	---	------	------

講義の目標	歴史観、社会観を自らの判断のもとで形成することができるように、批判的なものの観方を得ること。		
講義概要	それぞれの社会には、それぞれの歴史的状況、習慣などにより、異なったものの考え方が生じうる。それは社会をどう考えるかという思想までに展開することもあるし、それぞれの時代の単なる傾向に終わる場合もある。しかし、それも社会思想の一つと考えられる。本講義では、「社会思想」を上のような広い意味に捉えて、特に日本人の社会に対する考え方と、主に西洋人の社会に対する考え方を比較しながら明らかにしたい。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	講義中に指示	
評価方法	受講者数が多い場合には、筆記試験も考えられる。受講者数が相応であれば、最低年二回のレポートと授業への貢献度(可能であれば、例えばディスカッションへの参加)により評価。		
受講者に対する要望など	例年他人のレポートを写すだけで、あるいはただ調べただけのものをレポートにする人が後を絶たない。自分でものを考えようと努力する人が受講することを望む。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の概要説明
2	受講者数の調整
3	明治時代の社会
4	明治時代と江戸時代
5	明治以降の家族制度から見た社会観
6	明治以降現代までの風俗から見た社会観
7	芸術作品から窺える自然観、世界観
8	同上
9	現代の自然観、社会観
10	現代の社会観
11	できれば、ディスカッション
12	前期の総括
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期のまとめと後期の講義の概要
2	ヨーロッパの芸術作品から見た自然観、世界観
3	同上
4	同上
5	ヨーロッパの中世以降近代に至る歴史現象から見た世界観、社会観
6	同上
7	同上
8	ヨーロッパの現代の生活様式から見た人間観、社会観
9	同上と日本の場合の比較
10	同上
11	できれば、ディスカッション
12	年間の総括
備考	

科目名	社会科学特殊講義A(集団と文化の社会心理学)14(94年度以降) 社会心理学 (93年度以前)	担当者名	三本 茂
-----	--	------	------

講義の目標	<p>一集団と文化の社会心理学—人間は、他の動物に比べて集団への依存性が極めて高い。集団のなかに生まれ、育ち、生活し、行動の結果を次の世代に伝えて去っていく「社会的動物」である。</p> <p>集団の構造とその機能、および集団成員の行動様式としての文化を取り上げ、文化によって形作られるパーソナリティーの特徴について考察する。</p>		
講義概要	<p>最初に、社会集団の特質とその形成過程を取り上げ、次いで社会集団内の行動の特徴としての文化について触れる。</p> <p>次に特定の文化圏で生活する人々に認められるパーソナリティーの共通性を「集団的パーソナリティー」として考察する。</p> <p>事例として、ネパールの高地民族であるシェルパ族の生活の様子や「シェルパ気質」を紹介したい。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	必要に応じて指示する。	
評価方法	前期のレポートと後期の筆記試験とによる。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	集団形成の手がかり
2	参加の動機
3	集団の機能
4	集団規範と同調行動
5	集団内のコミュニケーション
6	リーダーシップ
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	文化の特性
2	文化とパーソナリティ
3	社会化の過程
4	集団的パーソナリティ
5	事例研究
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	社会科学特殊講義A (ジャーナリズム) 15 (94年度以降) マスコミュニケーション論2 (93年度以前)	担当者名	森 永 京 一
-----	---	------	---------

講義の目標	マスコミの本質・機能などについて考えるとともに、内外マスコミの当面する諸問題などについての理解を深めるのが目的。		
講義概要	講義の時点での最新のニュースや問題を積極的に採り上げていきたいと考えています。従って講義予定表には必ずしも準拠しません。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法	レポート		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	ニュースとは何か。その本質
3	マスコミの成立と変遷
4	日本のマスコミの特質と歴史
5	海外のマスコミ
6	映像メディアと印刷メディア
7	記者クラブの持つ意味 その功罪
8	報道の自由 「知る権利」
9	マスコミの責任と倫理
10	報道の客観性 「やらせ」の問題
11	マイノリティとマスコミ
12	差別の問題
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	新聞の制作 取材と編集
2	検閲と圧力団体
3	自主規制はどこまで許されるか
4	プライバシーはどこまで守られるべきか
5	暴力・セックス報道の限界
6	ヒーロー、ヒロイン、アイドル
7	皇室報道
8	選挙報道
9	出版、広告、映画
10	マルチメディア
11	ビジネスとしてのマスコミ
12	マスコミの直面する諸問題
備考	

科目名	社会科学特殊講義A（世論調査）16（94年度以降） 世論調査（93年度以前）	担当者名	森 永 京 一
-----	---	------	---------

講義の目標	世論調査の理論や沿革、問題点についての理解を深めるとともに、実技の習熟を目指します。		
講義概要	受講学生数が多い場合は、どうしても講義中心になりがちですが、なるべく実際に自分の頭で考え、体験できるようにしたいと考えています。		
使用教材	テキスト		
	参考文献		
評価方法			
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	世論調査の基本的な考え方
3	沿革と問題点
4	選挙と世論調査
5	調査の進め方
6	調査の実施の方法 その種類
7	調査の実施の方法 その長所・短所
8	質問の作り方
9	質問の形式
10	調査票の作成(1)
11	調査票の作成(2)
12	調査票の作成(3)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	標本抽出の方法
2	乱数表
3	無作為抽出
4	等間隔サンプリング、2段サンプリング
5	層別サンプリング
6	多段サンプリング
7	調査の集計
8	調査の集計 (続)
9	調査の誤差と信頼度
10	調査の読み方
11	調査の処理
12	まとめ
備考	

科目名	社会科学特殊講義A(貿易実務) 17 (94年度以降) 貿易実務 (93年度以前)	担当者名	山崎 静光
-----	--	------	-------

講義の目標	貿易の実務を引合の段階からクレームの解決まで時間的な順序に従って説明し、将来貿易に従事しない学生には一般的な知識を与え、貿易に従事することを志す学生には本格的な企業内研修への準備とする。		
講義概要	取引の前段階として一般的な事項、例えば打切りと代理商商い、買越・売越、現物と先物等の知識を与え、以後引合、契約、受渡、支払、入金 of 段階を追ってそこに出てくる用語・取引技術を説明する。その際絶えず既知の事実に戻り全体を把握させ、同じ用語の理解が段階を進むにつれて深まってくるようにする。さらに簿記・会計、法律、経済学、歴史、言語等の隣接科学にも触れて興味を起させることを図る。		
使用教材	テキスト	『貿易実務基礎講座』(物産研修センター)	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・浜谷源蔵『貿易実務』(同文館) ・東京銀行『貿易と信用状』(実業之日本社) ・山崎静光『輸出入手続ハンドブック』(中央経済社) 	
評価方法	<p>学年試験の成績による。</p> <p>中間試験は行うが学年試験を受けなかった者には単位を与えない。</p>		
受講者に対する要望など	授業中に理解することを心掛け、質問・教師に対する批判を活発にし、双方向の通信のあるクラスにするのに寄与して下さい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

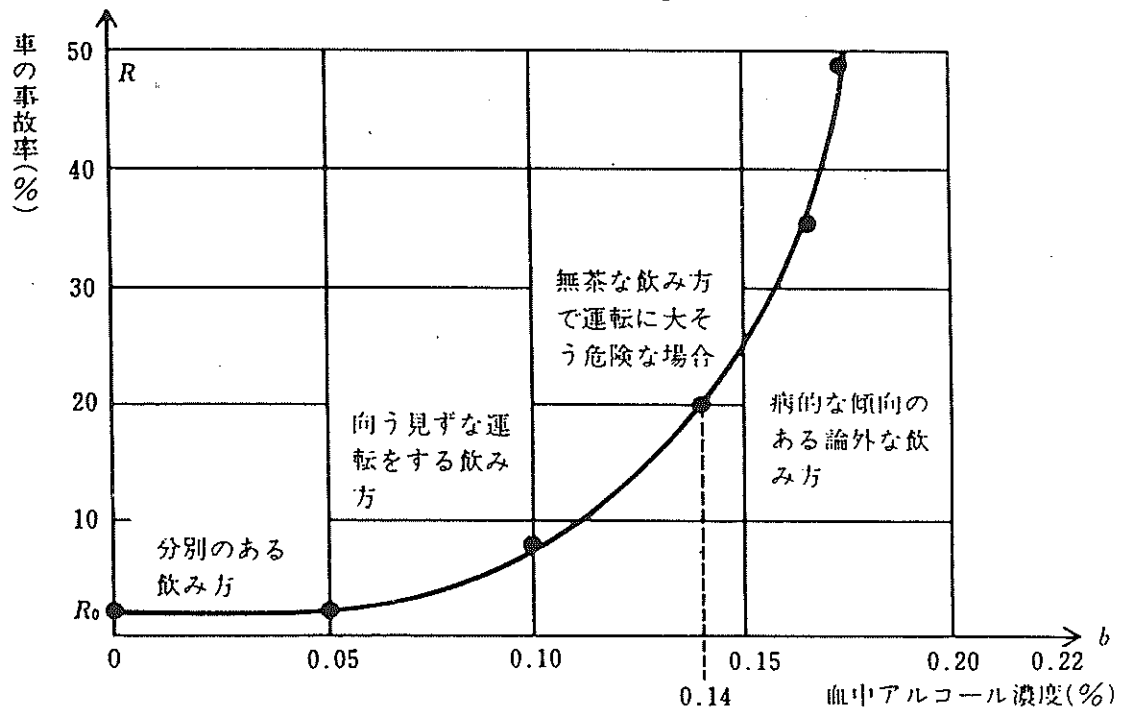
週	主 要 テ ー マ
1	貿易取引の前段階
2	——〃——
3	I. 引合段階——値段を出す——インコタームズ
4	運賃——海上輸送一般
5	——〃——
6	海上保険
7	採算の立て方
8	与信——荷為替
9	——〃——
10	信用状
11	——〃——
12	D/P, D/A取引
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	カントリーリスク——貿易制限の諸形態
2	オファー
3	オファー条件
4	II. 契約段階——契約書
5	契約履行の管理
6	為替
7	——〃——
8	III. 受渡段階——船積書類
9	——〃——
10	通関
11	輸入
12	IV. 支払段階——経済協力 V. クレーム
備考	

科目名	数学（94年度以降） 数学概論（93年度以前）	担当者名	福井尚生
-----	----------------------------	------	------

講義の目標	<p>数学は現象を客観的に解析する際の道具として使われます。一見複雑に見えるいくつかの現象の奥底に流れる本質的な法則を抽出し、その法則を客観的に処理し、普遍的なモデルを作る際に威力を発揮します。</p> <p>例えば、アルコールの吸収と事故危険率。自動車事故の危険率と血中アルコール濃度とに関する過去のデータに基づき仮説と思考とから作り上げられた数学モデルに依ると、血中アルコール濃度が0.22%のとき事故が起きる確率は100%になります。このモデルは人為的災害を未然に防ぐ為の警鐘を鳴らす役目を果たしています。</p> <p>現象を数学的に解析することを念頭に、「使える数学」を目標にします。</p>		
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 簡単な関数と逆関数：有理関数と無理関数 三角関数と逆三角関数 指数関数と対数関数 微分（関数の変化のようす）：1変数関数の微分 多変数関数の微分 積分（微分の逆演算、微分方程式への助走）：不定積分 微分方程式（数学モデル作り）：変数分離形 1階線形微分方程式 2階線形微分方程式 		
使用教材	テキスト	プリント	
	参考文献	微分積分概論（南部徳盛 著）近代科学社	
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 演習（授業の際に配布する用紙にその日の授業内容に関する演習をしてもらい、その用紙をその都度提出してもらいます。） レポート（前期・夏休み及び後期・冬休みに問題を数題解いてもらって、レポートとして提出してもらいます。） 		
受講者に対する要望など	<p>『大学は学問を通じての人間形成の場である』 ですから講義の多少のしんどさにへこたれず、授業に年間を通じて出席し、真面目に主体的に取り組んでくれる学生の受講を希望します。</p>		



- 1
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7
- 8
- 9
- 10
- 11
- 12

食後2時間以内に体重160ポンドの男性が飲む86ブルーフ(約43°)のウイスキーのオンス単位の数(1オンス=28.4cc)

血液中のアルコール濃度と事故危険率

『微分方程式で数学モデルを作ろう』D.Burghes & M.Borrie から

科目名	物理学	担当者名	東 孝 博
-----	-----	------	-------

講義の目標	現代物理学の基礎である相対性理論と量子力学を通して、人間の自然に対する認識の方法について考える。とくに、科学と非科学の違いに留意し、科学のはたす役割と限界についても考えていきたい。		
講義概要	今年度も相対論を中心に講義を行っていく。前期を特殊相対論（光の速度、同時概念の相対性、時間・空間概念の変更）、後期を一般相対論（等価原理、重力の幾何学化、ブラックホール、宇宙論）にあてる。量子論についても簡単に紹介するつもりである。		
使用教材	テキスト	テキストはとくになし。参考書は適宜紹介する。授業では視聴覚教材も使用する。	
	参考文献		
評価方法	前・後期各2、3回の課題と学年末試験で評価を付ける予定。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	プロローグー現代物理学を学ぶ意味
2	飛行機中でもワインが注げるわけー相対性原理
3	〃
4	光の速度で走りながら光を見たらー光速一定の原理
5	〃
6	時間は遅れ、空間は縮むー時間・空間の相対性
7	〃
8	〃
9	18歳の少女に恋した47歳の科学者の戦略ー「浦島効果」
10	〃
11	$E=mc^2$ ー原子爆弾！
12	〃
備考	

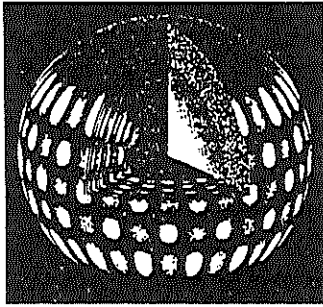
後 期

週	主 要 テ ー マ
1	エレベーターの綱が切れたらー等価原理
2	〃
3	空間も曲がるー重力の幾何学化
4	〃
5	光も出られない蟻地獄ーブラックホール
6	宇宙の将来はどうなるの？ー膨張宇宙
7	始めに光ありきービックバン宇宙
8	暗黒物質・銀河の種・インフレ宇宙ー現代宇宙論の諸問題
9	宇宙人さん、こんにちはー地球外文明探査
10	量子論の世界
11	〃
12	エピローグー再び、現代物理学を学ぶ意味
備考	

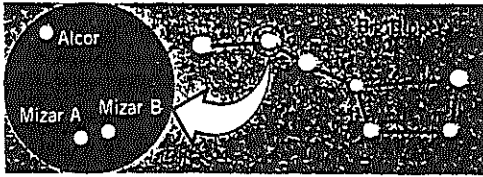
科目名	地 学	担当者名	福 井 尚 生
-----	-----	------	---------

講義の目標	<p>地学は「地球科学」自然科学の一分野、地球を研究する自然科学なら全部地学です。本講義では地球を広大な宇宙に浮かぶ天体の一つと見て、天文学を話題にします。天文とは「天」から届けられた「文」のこと、天文学とはその手紙を解読する学問で、対象は勿論天体です。</p> <p>天文学を通して、人間も他の生物と共に自然に生まれ、自然の法則に支配されていることの自覚を持ってもらうことが目標です。その為の第一歩としては、例えばヘール・ボップ彗星に胸をワクワクさせることです。でも天体についての自然科学的説明で脳細胞を刺激しておくことも大切です。自然界のルールに肉薄しようとする天文屋の試行錯誤のこれまでも知ってもらえればと思います。</p>		
講義概要	<p>宇宙の階層に従って話を広げて行きます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 恒星：太陽（系） 連星：ミザール 散開星団：プレアデス「すばる」 球状星団：M13 2. 銀河：銀河系「天の川」 銀河群：局部銀河群 銀河団：おとめ座銀河団 超銀河団：局所超銀河団 3. 見える限りの宇宙：ビッグバン宇宙 		
使用教材	テキスト	<p>プリント 視聴覚教材</p>	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『現代天文学要説』内海和彦、他著 朝倉書店 ・『宇宙科学入門』尾崎洋二 著 東京大学出版会 	
評価方法	<p>一面的評価を避ける為、又生き生きと講義に参加してもらえるように、色々な評価方法を採り度いと思います。受講者数にも依りますが、具体的には、出席・宿題・レポート・試験・面接等が考えられます。</p>		
受講者に対する要望など	<p>『大学は学問を通じての人間形成の場である』 ですから自らも興味を持つ工夫をし、授業に年間を通じて出席し、真面目に主体的に取り組んでくれる学生の受講を希望します。</p>		

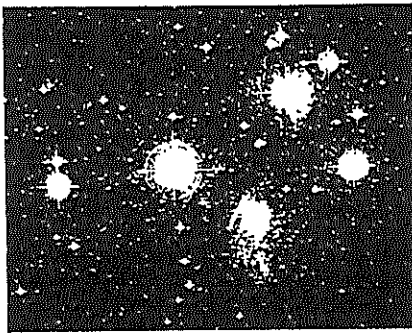
宇宙の階層



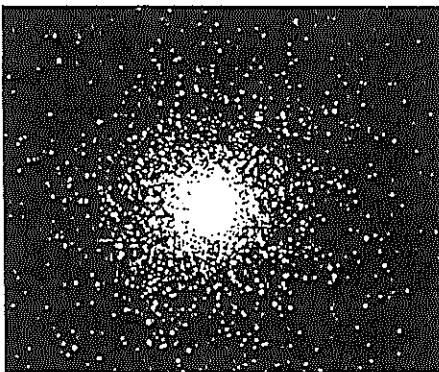
恒星(太陽)



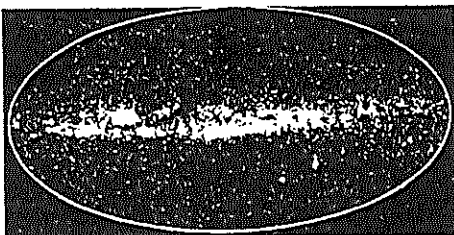
連星(ミザール)



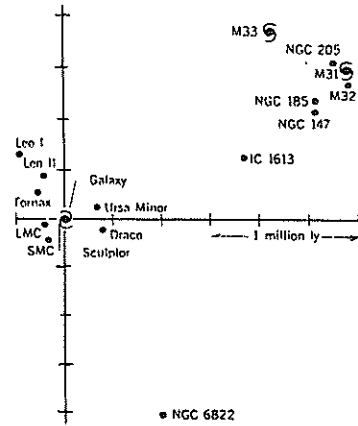
散開星団(プレアデス)



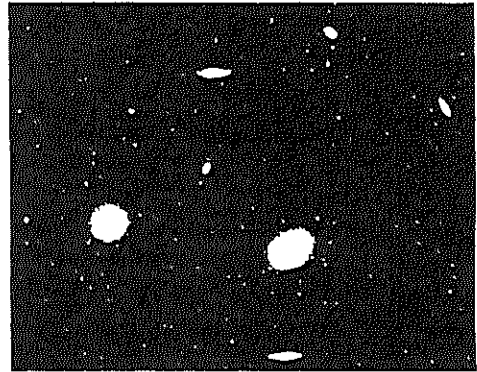
球状星団(M13)



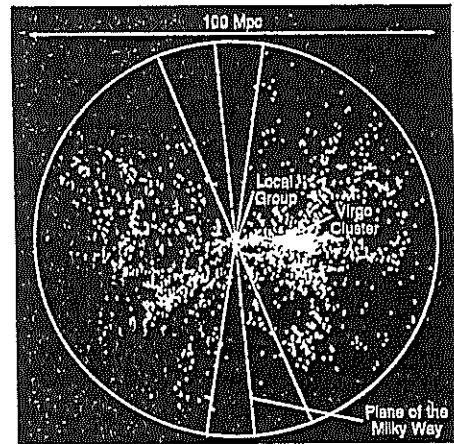
銀河(銀河系)



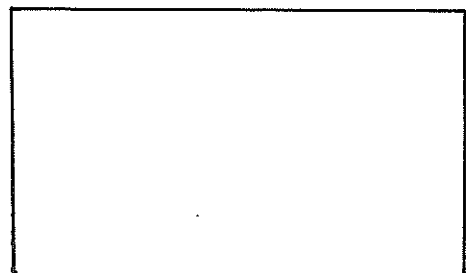
銀河群(局部銀河群)



銀河団(おとめ座銀河団)



超銀河団(局所超銀河団)



見える限りの宇宙(ビッグバン宇宙)

科目名	生物学 A	担当者名	加藤 億重
-----	-------	------	-------

講義の目標	近年、問題になっている様々な環境問題を生物学の立場から把握することを目指す。 第一回目の講義で説明するので必ず出席すること。		
講義概要	身近な生物を理解するためにも、種々の環境問題にスポットを当てて講義を進めたい。そのため新聞・雑誌等の記事を講義テーマとする。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	講義中に必要に応じてコピーを配布する。	
評価方法	出席回数、毎回のショートテスト・レポート、夏期休暇のレポート、定期試験等の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論 一年間の講義の進め方を説明。特に現在話題になっている問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌を読み、それについてのレポート提出が多いことを理解してもらおう。簡単なテストをする（英和辞典を持参すること）。
2	生態系の定義と具体例 1935年以來の生態学の学問の動向を読む。 簡単なテストをする（英和辞典を持参すること）。
3	同上
4	同上
5	生態系を乱す例 産業革命以來の環境破壊の具体例を読む。 簡単なテストをする（英和辞典を持参すること）。
6	同上
7	同上
8	同上
9	自然保護学の基礎① 各自の故郷の自然環境を知るための基本を読む。併せて夏休みのレポートのまとめ方を説明する。簡単なテストをする（英和辞典を持参すること）。
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の講義を紹介。
2	自然保護学の基礎② 日本を例に文化を育んだ森の生態の基本を読む。 簡単なテストをする（英和辞典を持参すること）。
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	自然保護学の基礎③ 日本の固有種を学ぶ。 簡単なテストをする（英和辞典を持参すること）。
8	同上
9	同上
10	自然保護学の基礎④ 良好な環境を維持するための工夫を考える。 簡単なテストをする（英和辞典を持参すること）。
11	同上
12	同上
備考	

科目名	生物学B	担当者名	加藤 僖重
-----	------	------	-------

講義の目標	身近な自然を注意深く観察出来るようになることを目指す。		
講義概要	普段、見過ごしている普通の種類を材料に、現代の生物学が抱える問題にスポットを当てて講義を進めたい。そのためにも新聞・雑誌等に目を通すことが肝要である。原則として毎回特定のテーマについてのレポートを提出してもらう。		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	講義中に必要に応じてコピーを配布する。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

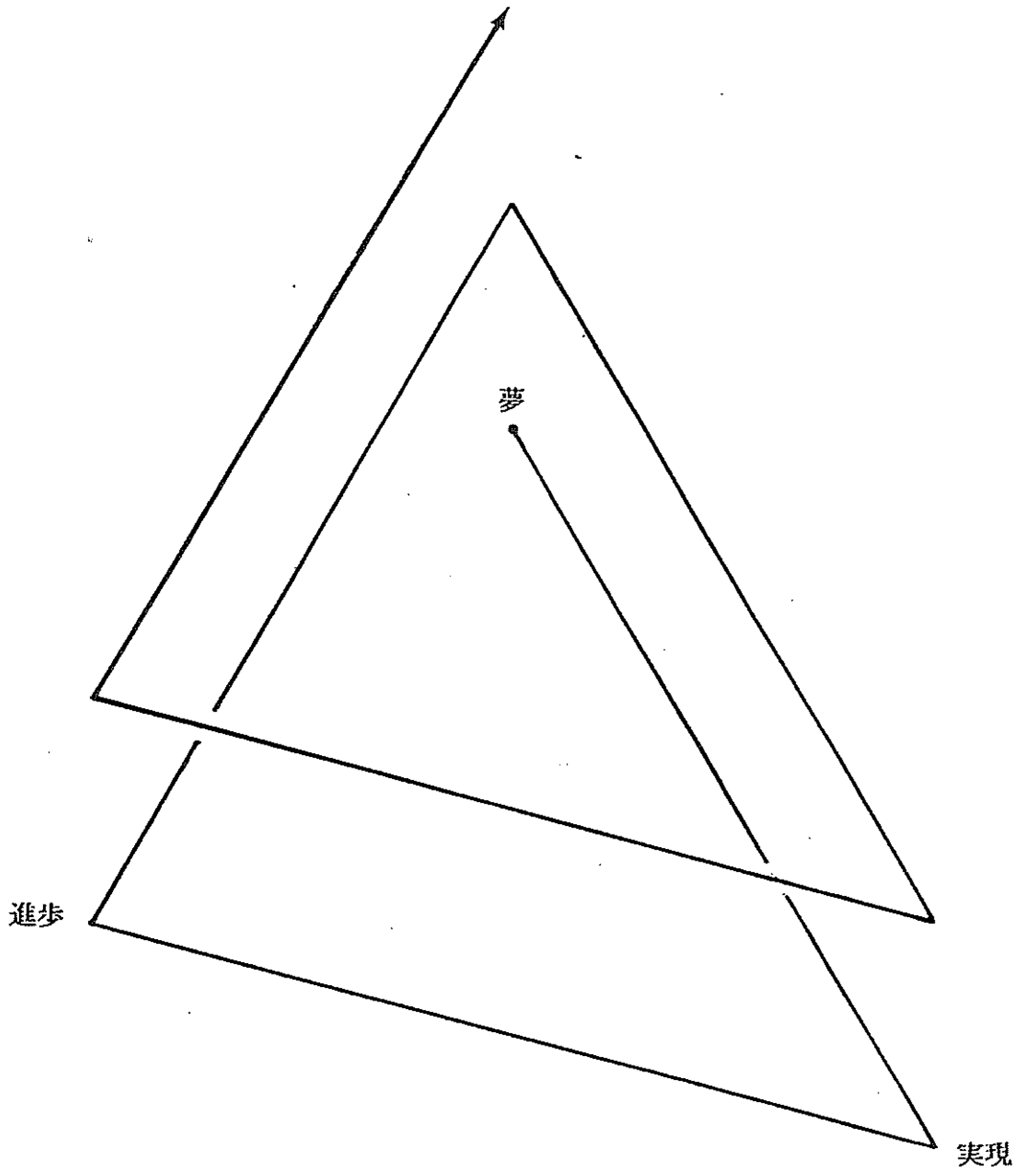
週	主 要 テ ー マ
1	序論 一年間の講義の進め方を説明し、レポート提出が多いことを理解してもらった後、抽選によって受講生の確定、実験室での座席の決定を行なう。簡単なテストをする（英和辞典を持参すること）。
2	実験室内における心得 実験室の器具等の扱い方を説明。
3	身近な植物の観察① 見慣れた植物の特徴を知る。 毎回レポートを提出する。
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	身近な植物の観察② 環境と生物の関係を知る。 毎回レポートを提出する。
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の序論 夏期休暇のレポート回収と後期の説明。
2	自然保護の基礎① 我々は環境保全をするために何が出来るか。 毎回レポートを提出する。
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	身近な植物の観察③ 見慣れた植物の特徴を知る。 毎回レポートを提出する。
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	まとめ 一年間のまとめと試験の説明。
備考	

科目名	自然科学概論	担当者名	福井尚生
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>自然科学とは自然事象（人間の存否に無関係に起こる事象）に見出される普遍的な法則性を探究する学問です。人為が及ばず、遠くまで思考が伸ばせる世界の方が自然が見えてきます。ですから「宇宙」は自然科学の格好の学問対象です。</p> <p>ところでこの宇宙には我々以外にも知的生物がいるのでしょうか。近年 太陽系以外にも惑星・火星に微生物？等、話題が賑やかです。自然科学者がこの問題にこれまでどのように取り組んできたかを辿りながら、より普遍的な法則への階層的（夢→実現→進歩）循環図について学びます。未知の問題に我々がどう対処すべきかをも考えます。</p>		
講義概要	<p>地球外文明の</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 存在：「多数世界論」対「唯一世界論」 2. 探査哲学：平凡性の原理、人間原理 3. 進化：Ⅰ型文明“地球”（ドレーク方程式） Ⅱ型文明“ダイソン球”（赤外線源） Ⅲ型文明“カルダシェフ球”（CTA-102 騒動） 4. 探査の現段階：オズマ計画、SETI 5. 探査効能：階層的（夢→実現→進歩）循環図 		
使用教材	テキスト	『地球外文明の思想史』横尾広光 著 恒星社厚生閣 プリント、視聴覚教材	
	参考文献		
評価方法	<p>一面的評価を避ける為、又生き生きと講義に参加してもらえるように、色々な評価方法を採り度いと思います。受講者数にも依りますが、具体的には、出席・宿題・レポート・試験・面接等が考えられます。</p>		
受講者に対する要望など	<p>『大学は学問を通じての人間形成の場である』</p> <p>ですから自らも興味を持つ工夫をし、授業に年間を通じて出席し、真面目に主体的に取り組んでくれる学生の受講を希望します。</p>		



階層的(夢→實現→進步)循環圖

科目名	自然科学特殊講義A(東洋の健康論)1(94年度以降)	担当者名	青柳多恵子
-----	----------------------------	------	-------

講義の目標	<p>日本・中国の古典的書物に見られる「健康観」や「養生訓」の中に、現代の我々が抱えている多くの問題の解決策を見出すことができると思われる。健康を害する環境問題・ストレス・栄養・休息・動き方等を古典的書物の中に見出す事ができる。また、人間を動物の一員として捕らえる時、自然に順応する事や、人間が本来保持している生命力、抵抗力、治癒力を顧みるとき、真の健康とは何かを考える事といえます。</p>		
講義概要	<p>日本の文化遺産、中国の古書を健康観の面から分析・検証していく。特に民族特有の生活状況から基本的な健康意識を検索し、現代の我々の生活との関わりを考える。また、生活習慣・行事・式典・祭り等々に現れている健康への祈りと希望、または生命への無限の表出と現代生活の対比と共に自然界の一部としての人間の在り方を今一度反省しつつ、理想的な生き方や、現代人が忘れてしまった自然との融合を、先人の残した言葉の中から民族・生活・文化を検証しながら、健康であることの意味や、大切さを考え21世紀に向けて、「真の健康とは」との問いに自分自身の回答を引き出していく考えをまとめる講座です。</p>		
使用教材	テキスト	適宜プリントを使用	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・支那人の古典とその生活 吉川幸次郎著 ・現代スポーツの社会学 佐伯 聡夫著 ・論語からみたビジネス生活の方法 青柳洋次郎著 ・生涯教育と学校教育 森 隆夫著 ・奥の細道 松尾 芭蕉著 	
評価方法	前期・後期にレポート提出と出席状況による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間の講義概要の説明と「気」概念について
2	中国古典文献に見られる健康の基本的な考え方
3	「論語」の中にある「気」の扱いについて
4	「孔子」の生き方にみられる人生哲学と宇宙観
5	浩然の気と「孟子」について
6	道家の基本典籍〔老子・荘子〕に於ける養生訓について
7	日本の儒学とその健康観について
8	「気」・「経絡」・「黄帝内経」について
9	中国の文献にある「気」の概念と日本の文献にある「気」の概念の違い
10	俳句や浮世絵に現れる日本人の自然観について
11	日本人の健康意識と現代文明の功罪について
12	まとめ レポート提出
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期のレポート講評 現代日本の「健康観」について
2	老いと心の様相について考え、健康を疎外する要因を検証する
3	歴史の中の健康意識の変化とその社会状況について
4	世界の健康意識について
5	現代日本の健康意識について (NHK 調査結果) 分析して
6	日本のラジオ体操・中国の対極拳・ドイツのトリム運動等の意味するもの
7	現代社会の健康を疎外する問題点
8	運動不足のもたらす個人的・社会的問題と健康について
9	現代社会の中で健康の価値とその経済的背景
10	健康への関心と健康への配慮と日常生活の在り方
11	原始生活への回帰の意味することとは
12	まとめ レポート提出
備考	

科目名	自然科学特殊講義A (トレーニング論) 2 (94年度以降)	担当者名	梶野克之
-----	--------------------------------	------	------

講義の目標	<p>競技スポーツから健康づくりにまで必須とされているトレーニングについて、定義からはじめて筋の組成についての理解を深め、筋の収縮によって発揮される筋力について考察する。筋の力強さやねばり強さについての理解とともに、そのエネルギー源についても理解を深める。さらにトレーニングで培われた体力について、その維持の重要性を理解するとともに、その具体的な方法について考えることにより、現代社会と体力について理解し、これからの生活に役立てることを目的としたい。</p>		
講義概要	<p>トレーニングの定義からはじめ、トレーニングを実施する時期について又発達段階に応じたトレーニングについて考察する。筋の収縮によって起る動作様式の習得について考える。続いて筋力について発揮される力や筋活動の様式について理解する。筋肉と神経について、筋活動と神経支配について、又筋肉の活動のためのエネルギーについて理解する。筋線維の組成について理解し、力強さやねばり強さと筋について理解する。体力測定の意義とその方法について理解する。力強さ、ねばり強さを鍛える条件について考える。エネルギー源となる栄養について理解するとともに、トレーニング効果を高めるための栄養について考察する。さらに体力の維持について重要性を理解する。</p>		
使用教材	テキスト	宮下充正著『トレーニングの科学的基礎』1993年、ブックハウス・エイチディ	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は、前後期各1回のレポートと授業への参加態度等によって決定する。 前期レポート提出日：7月23日 後期レポート提出日：1月14日</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では1年間の授業概要の説明を行い、トレーニングという言葉の意味、生物の適応能力などについて考え、トレーニングの定義について解説する。(教科書第1章)
2	第2回目の授業ではトレーニング実施の時期について考える。長い成長段階に応じたトレーニングについて考える。又身体発達にかかわる要因について理解する。(教科書第2章)
3	第3回目の授業ではトレーニングを考える前に、いろいろな動作様式がどのように習得されるかを考え、基本動作を身につける必要性について理解する。年齢に応じたトレーニングについても考える。(教科書第2章)
4	第4回目の授業では筋肉について、運動を引き起こす力としてその構造と活動のメカニズムを理解し、エンジンとしての筋肉の特性について考える。(教科書第3章)
5	第5回目の授業では前回に引き続いて筋肉について、関節角度と発揮される力の関係及び、筋活動の様式についての理解を深める。(教科書第3章)
6	第6回目の授業では筋肉と神経について、特に筋活動と神経支配について運動調整として理解する。筋肉の発揮する力を調節する仕組みについて理解する(教科書第4章)
7	第7回目の授業では前回に続いて筋肉と神経について、筋肉の活動のためのエネルギーについて、その補給という視点からATPやADPなどについて理解する。(教科書第4章)
8	第8回目の授業では力強さとは何かについて考え、筋の組成を理解し、筋線維組成と筋出力について考える。筋線維組成とスポーツ種目とのかかわりについても考える。(教科書第5章)
9	第9回目の授業では前回につづいて筋線維について、力強さのもととなる速筋線維について遺伝的要因と後天的なトレーニングの影響によるものなのかについて考える。(教科書第5章)
10	第10回の授業ではねばり強さとは何かについて考え、筋の組成と筋線維の代謝の特徴について理解し、運動強度と酸素摂取量について考察する。(教科書第6章)
11	第11回目の授業では前回に引き続いてねばり強さのもととなる遅筋線維と、呼吸機能や循環機能の影響について考える。酸素が筋力に運ばれる過程について理解する。(教科書第6章)
12	第12回目の授業では前期授業のまとめと、前期提出レポートのテーマの発表を行う。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第1回目の授業では前期レポートの講評を行う。筋肉の活動能力と競技成績の関係について考え、体力と技術にみられる相関について体力の測定の必要性を理解する。(教科書第7章)
2	第2回目の授業では体力測定について、その実際の方法を理解するとともに、意義についても考える。トレーニングの経過と体力測定の結果について理解する。(教科書第8章)
3	第3回目の授業では力強さを鍛える、すなわちハイ・パワーを増大させる条件について考える。さらにハイ・パワー・アップの方法について理解を深める。(教科書第8章)
4	第4回目の授業では前回に続いて、ハイ・パワーを増大させる条件について考える。具体的なトレーニングの方法を理解して、実践上の注意点をも理解する。(教科書第8章)
5	第5回目の授業では力強さを持続させることについて考える。ハイ・パワーの持続能力を向上させる条件について考える。ハイ・パワーの持続能力と成績について考える。(教科書第9章)
6	第6回目の授業では前回に続いてハイ・パワーを維持させる条件について考える。ハイ・パワーの持続力を高めるトレーニングについて考える。球技でのハイ・パワーの持続についても理解する。(教科書第9章)
7	第7回目の授業ではねばり強さについて考える。ロー・パワー向上のためのトレーニングとその発展について考察する。ロー・パワー向上の条件についても考える。(教科書第10章)
8	第8回目の授業では前回に続いて、ねばり強さを鍛える条件について考える。いろいろなトレーニングについて考察するとともに、その限界についても理解する。(教科書第10章)
9	第9回目の授業ではエネルギーの補給について考える。トレーニングと栄養についての視点から考え、運動強度と利用されるエネルギー源について理解する。(教科書第11章)
10	第10回目の授業では前回につづいてトレーニング効果を高めるための栄養について考える。スポーツ選手の実際の食事例をとりあげながら栄養についての理解を深める。(教科書第11章)
11	第11回目の授業ではトレーニングで培われた体力について、年齢にともなうその維持の重要性と方法について考える。運動習慣と寿命や成人病予防についても考える。(教科書第12章)
12	第12回目の授業では後期の授業のまとめと、提出レポートの課題を発表する。
備考	

科目名	自然科学特殊講義A(植物と人間)3(94年度以降)	担当者名	加藤 倍重
-----	---------------------------	------	-------

講義の目標	<p>普段、あまりに見慣れた種類のために注意深く観察することのない植物を材料として人類の交流を想像してみたい。</p>		
講義概要	<p>身近な生物を理解するためにも、幅広く種類を選び、様々な文献を参考に講義を進めたい。受講生は新聞・雑誌等をまめに目を通してほしい。</p> <p>必要に応じて一定のテーマについての本を読み、レポートを提出する。</p> <p>読書嫌いの学生の受講を拒否する。</p>		
使用教材	テキスト	使用しない。	
	参考文献	講義中に必要に応じてコピーを配布する。	
評価方法	出席回数、通常のレポート、夏期休暇のレポート、定期試験の結果を総合して決定する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序論 一年間の講義の進め方を説明。特に現在問題を授業に取り入れるために、各自が意識的に新聞・雑誌等を読み、それについてのレポート提出が多いことを理解してもらう。簡単なテストをする（英和辞典を持参すること）。
2	文化の基盤をなす植物① ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介する 1
3	ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介する 2
4	ヒトが利用した植物を地域ごとに紹介する 3 レポート提出
5	文化の基盤をなす植物② ヒトは何を植栽したか 1
6	ヒトは何を植栽したか 2
7	ヒトは何を植栽したか 3
8	ヒトは何を植栽したか 4 レポート提出
9	ヒトは植物のどの部分を利用したか 見慣れた植物の特徴を知る 1 レポート提出
10	見慣れた植物の特徴を知る 2 レポート提出
11	見慣れた植物の特徴を知る 3 レポート提出
12	見慣れた植物の特徴を知る 4 レポート提出
備考	前期のまとめ 授業内容をまとめ、併せて夏休みのレポートの説明をする。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の序論 後期の講義の進め方を説明。
2	文化の基盤をなす植物③ 地域の文化遺産と植物の関係を知る 1 レポート提出
3	地域の文化遺産と植物の関係を知る 2 レポート提出
4	地域の文化遺産と植物の関係を知る 3 レポート提出
5	地域の文化遺産と植物の関係を知る 4 レポート提出
6	地域の文化遺産と植物の関係を知る 5 レポート提出
7	地域の文化遺産と植物の関係を知る 6 レポート提出
8	地域の文化遺産と植物の関係を知る 7 レポート提出
9	文化の基盤をなす植物④ 植物を通じての国際交流 1 レポート提出
10	植物を通じての国際交流 2 レポート提出
11	植物を通じての国際交流 3 レポート提出
12	まとめ 一年間のまとめと試験の説明。
備考	

科目名	自然科学特殊講義A (化学) 4 (94年度以降) 化学 (93年度以前)	担当者名	杉浦 三千夫
-----	--	------	--------

講義の目標	<p>本講義は化学一般を年間を通じて基本的な事項について平易にのべることを目標としている。専門に偏することは少なく知識の習得によらず基礎的な原子論から分子論より公害に到る面まで教養課定の化学、実験がいかに学問になったかを述べる。</p>		
講義概要	<p>講義は前半 (前期) 後半 (后期) に大きく2つに区切り、前半は学問としての化学がいかに成立したか、自然現象が科学の一つとして存在する立場から単なる解説的な講義でなく学問的な共通性などに力点をおいて説明する。引続き化合物の活用、化合物としての結合論など経験がいかに理論化されたか、ついで物質の構造に移り、地球を構成する元素の利用を考える無機工業化学に移り、その副生成物がいかに環境に及したか、その対策と保全について述べる。後半は有機化合物の成立分類活用、例えば化石燃料としての資源がいかにエネルギー源として利用されたか、即ち有機工業化学の成立と生活に利用された、更に進んでファイン化学に移行したか、材料としての先端科学の発展に寄与したか、複合化学、安全工学の範囲まで論ずる予定としている。</p>		
使用教材	テキスト	『目でみる 化学』(前川、山本、吉田他共著) 培風館 改訂版	
	参考文献	プリント、および 北原三郎著『一般課程化学』培風館 改訂版	
評価方法	<p>授業についての熱意度 (出席)、前後期の筆記試験、レポートなどについて (提出課題) 評価を行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>先づ受講して頂きたい。学生の勉学は基礎をコツコツ学ぶ以外に向上はありえない。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	化学とはなにか、西洋と東洋圏とで、物質創造についての相違などを化学史の立場より比較しながら述べる。
2	原子と分子の考え方と化合物にいたる過程について述べる。
3	周期律表の成立とその活用、元素の類似性と性質の関係。
4	原子と原子核、電子配置、化学結合論 その(一)
5	化学結合論のつづき、電子対結合、錯塩について
6	その他の化学結合、金属結合、結晶、液晶、と巨大分子について
7	物質の3態とそれに関する基本法則
8	化学反応の形とエネルギー、熱化学と燃料
9	大気、水、地下資源、それからの無機工業化学その(一) 硅酸塩工業、セラミック、ガラス工業
10	無機工業化学のつづき、酸化環元の定義、主として電気化学に関する化学工業
11	生活環境と化学物質の関連性について
12	生活環境と環境基備
備考	3週、11、12週はプリントを配布して説明する。

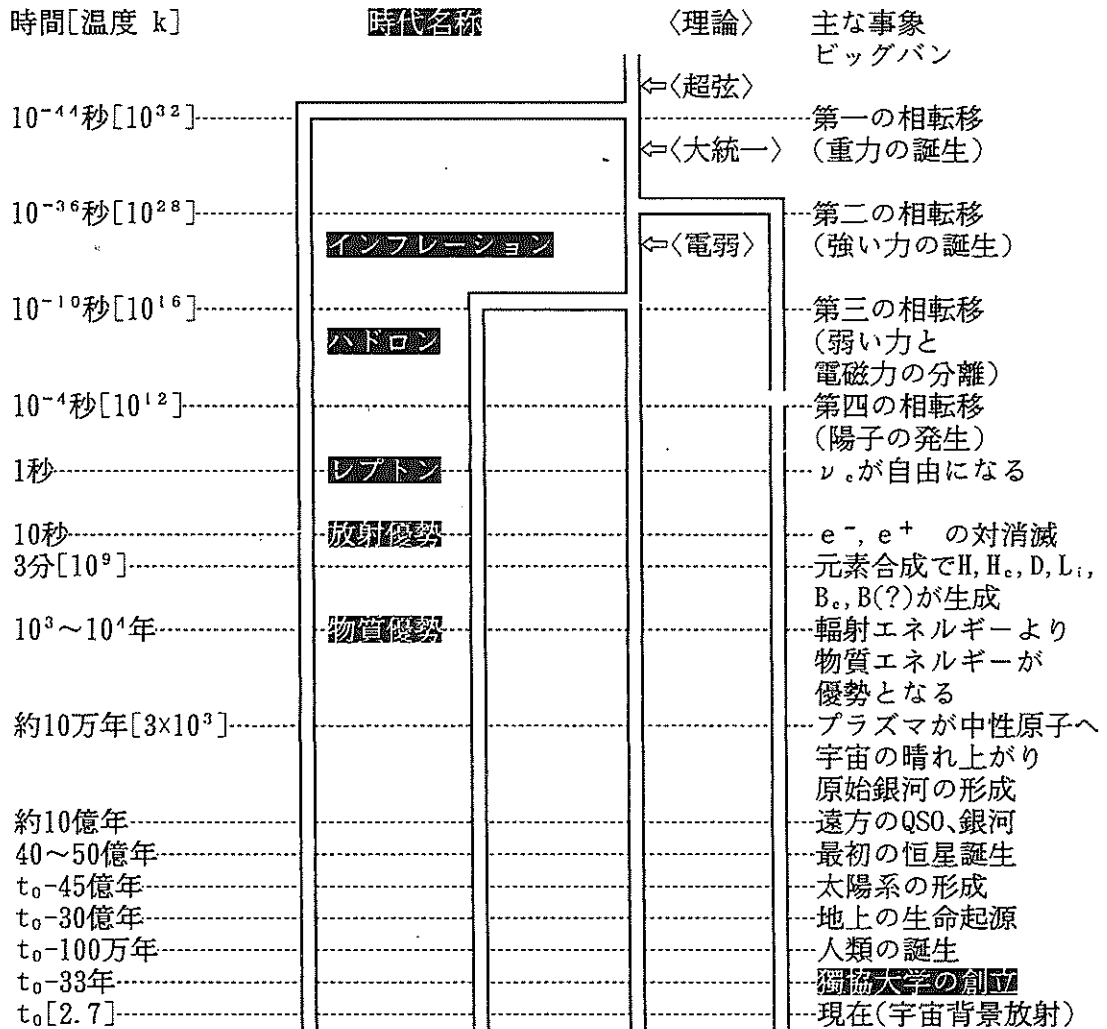
後 期

週	主 要 テ ー マ
1	有機化学とは、有機化合物の分類、官能基と有機化合物の性質による分け方、名称のつけ方を考える
2	炭化水素と石油工業 および石油化学工業
3	有機化合物の成応性、飽和炭化水素と不飽和炭化水素
4	有機化合物の反応性のつづき 置換反応、付加反応について
5	有機化合物の反応性(三) 高分子化合物生成反応と高分子化合物
6	コールタールの分溜、ベンゼンから出発した誘導の化学
7	ベンゼン誘導体の化学物質の活用 有機工業化学(一)
8	有機工業化学のつづき、合成樹脂と合成繊維
9	生活関連有機化合物 生物化学
10	化学材料から見た先端技術、品質管理の初歩
11	有機物質から発生した公害とその環境保全
12	環境問題と化学の面からみた安全工学の概念
備考	第10、11、12週は、プリントを配布して説明を加うる。

科目名	自然科学特殊講義A（宇宙論）5（94年度以降）	担当者名	福井尚生
-----	-------------------------	------	------

講義の目標	<p>「特殊講義」では“特殊な”話題について、教養としての制限付きではありますが、“専門”の道具で少し深く学ぶ事を目標とすべきだと思っています。ですからこの特殊講義では、私の専門である一般相対論的宇宙論から話題を選び絵解きをし度いと思います。</p> <p>宇とは「四方上下」で空間を、宙とは「往古来今」で時間を意味します。ですから宇宙論とは空間・時間に関する外挿的学問です。広大な宇宙の支配者は重力で、その重力に仕える物理が一般相対性理論です。</p> <p>こうした話題と道具を通して、自然科学的思考方に少しでも触れてもらえたらと思います。</p>	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 光（光の実速度の測定） 2. 空間・時間（「絶対」対「相対」） 3. 相対性理論：特殊相対性理論（特殊相対性原理、光速度不変の原理） ：一般相対性理論（一般相対性原理、等価原理） 4. 一般相対論的宇宙論：構造論（宇宙モデル） ：起源論（宇宙のはじまり） 5. 宇宙論、最新の話から（宇宙より星の方が古い??） 	
使用教材	テキスト	プリント 視聴覚教材
	参考文献	
評価方法	<p>一面的評価を避ける為、又生き生きと講義に参加してもらえるように、色々な評価方法を採り度いと思います。受講者数にも依りますが、具体的には、出席・宿題・レポート・試験・面接等が考えられます。</p>	
受講者に対する要望など	<p>『大学は学問を通じての人間形成の場である』 ですから講義の多少のしんどさにへこたれず、授業に年間を通じて出席し、真面目に主体的に取り組んでくれる学生の受講を希望します。</p>	

ビッグバン(膨張)宇宙進化の“年表”



相互作用	重力	弱い	電磁	強い
強さ	10 ⁻³⁹	10 ⁻⁵	10 ⁻²	1
到達距離(cm)	∞	<10 ⁻¹⁶	∞	10 ⁻¹³
力の働く粒子	総て	レプトン クォーク	荷電	クォーク
媒介粒子	重力子	弱いボゾン	光子	グルーオン

科目名	コンピュータ概論	担当者名	各担当教員
-----	----------	------	-------

講義の目標	<p>現在、膨大な情報の中から「自らに必要なもの」を探し出し、「効率的かつ効果的」に活用する場合の中心となるのはコンピュータである。</p> <p>この科目では、コンピュータの基本操作や各種のアプリケーションソフトの利用、および情報処理の考え方や人間とコンピュータの関係を学んでいく。</p> <p>とくに大学生活（広くは社会生活）で実際に必要で、かつ役に立つコンピュータ活用法を習得することを目的とする。</p>		
講義概要	<p>コンピュータ初心者を対象に、1人で1台のパーソナルコンピュータを使い、主として実習を中心として授業を進める。</p> <p>内容は、日本語および英文ワープロ、表計算、データベース操作、コンピュータネットワーク（通信）、情報倫理についてである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>本学情報センター発行のもの。タイプ練習用ソフト。</p>	
	参考文献	<p>授業中、随時紹介する。</p>	
評価方法	<p>授業中に指示する課題の作成と平常点で総合評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>実習を中心とした授業なので、欠席や遅刻は厳禁とする。止むを得ず欠席した場合には、必ず自習して遅れを取り戻すこと。</p> <p>第1回目の授業で、使用教材や授業に必要なものを指示する。欠席した場合にはその後の受講は認めない。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンスとコンピュータの基本操作
2	windows 入門—ウィンドウ操作とフロッピーディスクの取り扱い
3	タイピングと日本語入力
4	インターネットⅠ—ブラウザ・メール・図書検索（1）
5	インターネットⅠ—ブラウザ・メール・図書検索（2）
6	ワープロ入門—文書の編集と印刷（1）
7	ワープロ入門—文書の編集と印刷（2）
8	ワープロ入門—文書の編集と印刷（3）
9	ワープロ入門—文書の編集と印刷（4）
10	ワープロ入門—文書の編集と印刷（5）
11	ワープロ入門—英文ワープロ（1）
12	ワープロ入門—英文ワープロ（2）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	表計算入門—表の作成・編集と表計算、グラフの作成・装飾・印刷（1）
2	表計算入門—表の作成・編集と表計算、グラフの作成・装飾・印刷（2）
3	表計算入門—表の作成・編集と表計算、グラフの作成・装飾・印刷（3）
4	データベースの操作—データベースの作成・整備、データの検索・抽出（1）
5	データベースの操作—データベースの作成・整備、データの検索・抽出（2）
6	データベースの操作—データベースの作成・整備、データの検索・抽出（3）
7	インターネットⅡ—情報の収集と活用（1）
8	インターネットⅡ—情報の収集と活用（2）
9	インターネットⅡ—情報の収集と活用（3）
10	情報倫理
11	総合演習（1）
12	総合演習（2）
備考	

科目名	情報論	担当者名	前田功雄
-----	-----	------	------

講義の目標	<p>情報および情報量の概念を明らかにするとともに、パソコン通信やコンピュータ・ネットワーク上の情報伝達の仕組みと信頼性の高い情報システムの構築について解説する。</p>		
講義概要	<p>上記目標のためにコンピュータ・ネットワークの積極的な利用をしながら講義を進める。電子掲示板、電子メール、ファイル転送などが最初に説明されると同時に、それらの利活用をとうして情報伝達の効率や信頼性の問題が述べられる。特に、レポートの提出等に学内のコンピュータ・ネットワークを使うこと。そのために最初の2～3回ぐらいはコンピュータ・ネットワークのデモンストレーションを行なう。</p> <p>キー・ワード：パソコン通信、コンピュータ・ネットワーク、LAN、Internet、プロトコル、電子メール、電子掲示板、ファイル転送、エントロピー、誤り検出符号、誤り訂正符号、情報の圧縮、高信頼性情報システム、獨協大学学籍番号システム</p>		
使用教材	テキスト	必要な都度プリント配布。	
	参考文献	授業中に述べる。	
評価方法	評価は授業中に課する課題のコンピュータ通信によるレポート提出。		
受講者に対する要望など	コンピュータ概論あるいは情報処理概論あるいはC言語を含むプログラミング論を既修または平行履修のこと。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	パソコン通信とは パソコン通信とは？どんなことができるのか？どんな機械が必要か？ キー・ワード：パソコン、モデム、通信ソフト、通信速度
2	パソコン通信のデモンストレーション 具体的な幾つかの BBS 局に接続して実演。 キー・ワード：BBS 局、サインオン、ログオン、ログオフ、電子メール
3	コンピュータ・ネットワークとは コンピュータ・ネットワークの種類と仕組み。 キー・ワード：ホスト・端末、LAN、コンピュータ間通信、Internet
4	Internet の仕組みと実演 コンピュータ間通信の代表である Internet の仕組みと実演。 キー・ワード：ノード、ユーザ ID、パスワード、電子メールの送受信
5	Internet の実習 ログオン、ログオフ、電子メールの送受信等の実習。
6	Internet によるファイル転送 ユーザ間でのテキスト・ファイルやバイナリー・ファイルの転送法の解説。 キー・ワード：TEXT FILE、BINARY FILE
7	パソコン上のファイルの Internet 上での転送 FD のファイルを Internet 経由で転送する方法を解説。 キー・ワード：アップロード、ダウンロード
8	前期中間レポート パソコンによるファイルのアップロードを含むレポート提出。課題は授業中に説明。
9	情報管理とデータベース（ファイルとディレクトリ） 情報を管理する場合のファイルの扱い方法。 キー・ワード：ファイル、（ルート、サブ）ディレクトリ、ツリー
10	情報管理とデータベース（情報検索と抽出） データベースから必要な情報の検索・抽出の方法について解説。 キー・ワード：データベース、レコード、フィールド、検索・抽出条件
11	情報管理とデータベース（データベースの作り方） パソコン通信やネットワークによるデータベースの構築。 キー・ワード：ダウンロード、エディター
12	前期レポート パソコン通信やコンピュータ・ネットワークによるデータベースの構築に関するレポート課題の説明。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	自然言語と情報理論 自然言語（英語）の生成メカニズムと確率モデル。 キー・ワード：文字の出現頻度、単語長の分布、文章長の分布、文章発機
2	情報の種類 情報の種類とそれらを伝達する媒体について解説。 キー・ワード：アナログ情報、デジタル情報、標本化、量子化、マルチメディア
3	情報量の測りかた（確率入門1） 情報量の定義とその尺度について解説するために、確率論の初歩を学習。 キー・ワード：確率、基本公式、独立な確率変数
4	情報量の測り方（確率入門2） 情報理論によく出てくる確率概念の解説。 キー・ワード：条件付確率、ベイズの定理、事前確率、事後確率
5	情報量の測りかた（エントロピーの導入） 情報量の定義とその尺度の導入。 キーワード：不確かさ、自己情報量、相互情報量、条件付情報量、エントロピー
6	エントロピーの社会科学的解釈 エントロピー概念の経済学上の問題への応用。 キー・ワード：所得の均衡とエントロピー
7	情報伝達システム（誤りの無い場合） 効率のよい伝達システムと符号化について解説。 キー・ワード：情報源、通信経路、受信点、符号器、復号器、符号化
8	情報伝達システム（誤りのある場合） 情報伝達システムはどこまで信頼性を高められるか。 キー・ワード：雑音、誤り訂正符号、パリティチェック方式
9	Hamming 符号と Huffman 符号 代表的な誤り訂正符号の紹介と情報圧縮への応用について解説。 キー・ワード：誤り訂正符号、情報圧縮
10	10進系符号における誤り検出符号 10進系での誤り検出符号について解説。 キー・ワード：誤り検出符号、パリティチェック方程式
11	獨協大学学籍番号システム 本学の学籍番号システムは誤り検出符号を採用している。 キー・ワード：置換、パリティチェック方程式
12	後期最終レポートについて 後期最終レポートの課題と作成要領について述べる。
備考	

科目名	文献調査法	担当者名	宮部 頼子
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>質の高い論文を執筆するには、関連文献の調査を行うことが必要である。この授業ではそのために行う文献調査に関わる以下の知識や技術を身につけることを目標としている。</p> <p>①論文執筆における文献の意義についての理解 ②文献を活用した論文作成に対する理解 ③文献に関する情報の効果的な探索 ④文献収集の実践的な技術 ⑤文献リストの作成技能</p>		
講義概要	<p>本講は、「論文執筆と文献」、「雑誌論文の探索」、「図書の探索」、「文献とリストの作成」の四部から構成される。第一部では、論文執筆と文献との関係を理解する。第二部では、論文執筆の最重要課題である雑誌論文の探索技術を身につける。第三部では、一般的な知識を入手するために、図書の探索方法を学ぶ。第四部では、収集した文献をリストとして表記するための技能を習得する。第一部は講義と演習を組み合わせ、ビデオ教材を活用して文献調査の概要を理解する。第二部と第三部では、演習と実習を行い、文献探索の実際を体験する。第四部では、演習と個別指導によって、一定のテーマの文献リストを完成される。この作業のために、文献カードの作成を前提とした指導を行う。</p>		
使用教材	テキスト	長澤雅男『情報としてのレファレンス・ブックス 三訂版』日本図書館協会、1996年	
	参考文献	授業において適宜紹介。	
評価方法	<p>理由を問わず授業への8割以上の出席と個別指導を受けることを最低条件とする。その上で、提出課題、文献リストの成績に基き、総合的に評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>授業はきわめて実践的な知識と技術を扱うので、出席して作業に参加することが重要である。また、演習課題の整理や文献カードの準備などに関して、ひとつひとつの指示を守ること大切である。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション：年間予定、提出課題、評価基準、テキストの使用方法、参考文献について説明する。また、文献カードの購入についての指示を行う。[講義形式]
2	文献調査の基本知識：文献の種類について整理し、論文執筆に重要な文献とは何かを理解する。また、文献の役割と活用の仕方（参考文献、参照文献、引用文献など）を理解する。[講義形式]
3	文献探索と論文執筆過程：ビデオ「レポート・論文のまとめ方」に基づいて、基本的な論文執筆のプロセスとスケジュールについて認識する。[講義・演習形式]
4	文献探索の情報源(1)：ビデオ「図書館の機能」に基づいて、文献調査を実施する図書館の基本的な使い方に関して確認を行う。[講義・演習形式]
5	文献探索の情報(2)：情報源として用いるレファレンス・ブックスやCD-ROMについての概要を理解し、それぞれの特徴に応じた使い分けを学ぶ。[講義・演習形式→テキスト1章]
6	文献探索の情報源(3)：文献探索の前提となるさまざまな事実について確認するための道具と方法に関して理解する。[講義・演習形式→テキスト2～6章]
7	雑誌記事の探索(1)：雑誌と雑誌記事の関係について理解した上で、ビデオ「雑誌記事の探索」に基づいて、基本的な探索方法を学ぶ。[演習形式→テキスト8章]
8	雑誌記事の探索(2)：「雑誌記事索引」、「総目録」、「総索引」の具体例とそれぞれの利用方法について学ぶ。[演習形式→テキスト8章]
9	雑誌記事の探索(3)：CD-ROM形態の「雑誌記事索引」の具体例とその利用方法について学ぶ。また、雑誌記事の入手方法について理解する。[演習形式→テキスト8章]
10	雑誌記事の探索(4)：テーマから雑誌記事を探索する方法を整理し、効果的な収集方法について理解する。[演習形式→テキスト8章]
11	探索実習(1)(2)：雑誌記事を探索する実習課題を解決する。[実習形式]
12	雑誌記事リストの作成：雑誌記事情報を記述して排列する原則と方法について学ぶ。[演習形式]
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	図書の探索(1)：ビデオ「文献探索の基礎」に基づいて、基本的な探索方法を学ぶ。[演習形式→テキスト7章]
2	図書の探索(2)：書誌の種類とそれぞれの利用方法について理解する。[演習形式→テキスト7章]
3	図書の探索(3)：CD-ROM形態の「書誌」の具体例とその利用方法について学ぶ。また、図書の購入方法について理解する。[演習形式→テキスト7章]
4	図書の探索(4)：テーマから図書を探索する方法を整理し、効果的な収集方法について理解する。[演習形式→テキスト7章]
5	探索実習(3)(4)：図書を探索する実習課題を解決する。[実習形式]
6	図書リストの作成：図書情報を記述して排列する原則と方法について学ぶ。[演習形式]
7	参照、引用文献の表示：論文中で使用した参考文献や引用文献の表示の一般的な方法について理解する。[演習形式]
8	文献リストの作成(1)：各自の設定したテーマに基づいて文献調査を行い、文献リストを作成する。[個別指導形式]
9	文献リストの作成(2)：各自の設定したテーマに基づいて文献調査を行い、文献リストを作成する。[個別指導形式]
10	文献リストの作成(3)：各自の設定したテーマに基づいて文献調査を行い、文献リストを作成する。[個別指導形式]
11	文献リストの作成(4)：各自の作成したテーマに基づいて文献調査を行い、文献リストを作成する。[個別指導形式]
12	まとめ：提出された文献リストを評価し、講評する。
備考	

科目名	言語学（94年度以降） 一般言語学（93年度以前）	担当者名	新里博樹
-----	------------------------------	------	------

講義の目標	本講義では、言語の一般的特性を探る研究法を研究史の流れに沿って概観するとともに、その研究成果として得られた一般的特性の諸点、および言語観を概説していく。その中で、言語に対する多様なまなごしを涵養し、言語について考える姿勢を養うことを目標とする。		
講義概要	前期は主として講義が中心となる。古代から現代にいたる言語学の発展の軌跡をたどりつつ、言語学における問題意識の推移を跡付け、「言語学の父」と呼ばれるフェルディナン・ド・ソシュールの言語観を学ぶ。後期は、討論形式を導入して、ソシュールの言語理論を出発点に、二十世紀における言語学を概観しながら、言語の一般的性質や役割などを考察する。		
使用教材	テキスト	言語学入門／田中春美・五十嵐康男他著／大修館書店	
	参考文献	話題が多岐にわたるので、その都度、提示・紹介する。	
評価方法	前期・後期のレポートが中心となる。また、随時、授業時に出欠代わりの小レポートを課すこともある。出席すればよいということではなく、授業への参加（質問したり、意見を述べるなど）の度合いを加味する。		
受講者に対する要望など	特別な予習は必要としないが、真剣な思考と討議とを求める。また、参考文献は入手しやすいものを、その都度、提示紹介するので、できるだけ目を通して講義内容の理解に役立てて欲しい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ガイダンスとして、年間の講義概要の解説、および、評価の方法と基準の説明を行い、導入として、「言語学」とはどういう学問か、について論じる。
2	言語学にはどのような研究分野があるかということ、および、その研究方法を概観するとともに、隣接領域との関わりについて考える。
3	言語学の歴史と発展（第一回）／「言語学以前」 人間の言語に対する関心の在り方の始源の段階について考察する。
4	言語学の歴史と発展（第二回）／「古代の言語研究Ⅰ」 古代における言語研究を、ギリシア・ローマについて概観する。
5	言語学の歴史と発展（第三回）／「古代の言語研究Ⅱ」 古代における言語研究を、インド・中国について概観する。
6	言語学の歴史と発展（第四回）／「中世の言語研究Ⅰ」 中世前期（ルネッサンス以前）における言語研究を概観する。
7	言語学の歴史と発展（第五回）／「中世の言語研究Ⅱ」 中世後期（ルネッサンス以後）における言語研究を概観する。
8	言語学の歴史と発展（第六回）／「近世の言語研究Ⅰ」一言語起源論 近代前期（17～18世紀）における言語研究を概観する。
9	言語学の歴史と発展（第七回）／「近代の言語研究Ⅱ」一比較・歴史言語学 近代後期（19世紀）における言語研究を概観する。
10	ソシュールの言語理論Ⅰ／現代言語学の夜明け 通時論と共時論・ラングとパロール・記号観など基礎的な概念を解説する。
11	ソシュールの言語理論Ⅱ／恣意性・分節性・線状性 etc. 言語の記号としての特質についてソシュールの理論を整理し、理解を深める。
12	前期の総括と後期への展望
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期のレポートの返却、および講評 後期の予定の確認
2	ソシュールの言語理論Ⅲ／ソシュールの位置と影響 ソシュールの言語理論の背景と、その後への影響について整理し、理解を深める。
3	言語の一般的特性Ⅰ／記号性・体系性 etc. 前期のソシュールの言語理論Ⅱをもとに、言語の一般的特性を考察する。
4	言語の一般的特性Ⅱ／言語の単位とその構造 構造主義言語学の立場から見た、言語の一般的特性を考察する。
5	言語の一般的特性Ⅲ／言語の生産性と定型性 生成論の立場から見た、言語の一般的特性を整理考察する。
6	言語の機能Ⅰ／伝達機能 言語の機能のうち、伝達に関わる働きの種々相について論議する。
7	言語の機能Ⅱ／非伝達機能 言語の機能のうち、直接的に伝達に関わらない働きの種々相について論議する。
8	言語の機能Ⅲ／認識機能 言語の機能のうち、認識に関わる働きの種々相について論議する。
9	言語と生活 言語の一般的特性・機能を生活という観点から見直し、論議する。
10	言語と社会 言語と社会との関わりについて、その基本的な問題を整理し、論議する。
11	言語と文化 言語と文化との関わりについて、その基本的な問題を整理し、論議する。
12	総括／年間の講義・論議を振り返り、まとめる。
備考	

科目名	言語学（94年度以降） 一般言語学（93年度以前）	担当者名	城田 俊
-----	------------------------------	------	------

講義の目標	我々人間は言語使用者である。言語は我々の内にある。しかし、この内にある言語に関する知見を我々は通常意識しない。講義の過程でこの意識されざる知見を意識化するように努めたい。		
講義概要	人間は太古から言語を観察してきたが、科学的研究の対象としたのは比較的新しい。言語学は新しく成立した学問分野と言ってもよい。しかし、新しいとはいえ、今や人文科学を一部で主導する。本講義では、言語に関するいかなる知見がいかんして得られたか、その手段・思考方法等に関し具体的に話していく。テキストとしては下記のものを用いる。シラバスに記したものと実際の講義では一部で前後することがある。		
使用教材	テキスト	田中春美・樋口時弘等著『入門ことばの科学』 大修館書店	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ジョージ・ユール著 今井邦彦訳『現代言語学20章』大修館書店 ・R・ヤーコブソン著 田村すゞ子等訳『一般言語学』みすず書房 ・ヤーコブソン選集（米重等訳）Ⅰ・Ⅱ 大修館書店 ・中島平三等編集『言語学への招待』大修館書店 ・G・ムーナン著 福井芳男等訳『言語学とは何か』大修館書店 ・マルティネ編著 三宅徳嘉監訳『言語学事典』大修館書店 	
評価方法	前期・後期共定期試験期間中に試験を行う。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	言語の起源、人間の言語（テキスト、3—17頁）
2	失語症と言語学、隠喩 metaphor と換喩 metonymy—シュールレアリズムの絵画とキュービズムの絵画
3	ジェスチャーと言語学—首の振り方とハイ・イイエ
4	見る記号と聞く記号
5	言語の構造(I)
6	言語の構造(II)（テキスト、5・6併せて53—66頁）
7	言語の習得（テキスト 32—52頁）
8	発音記号の役割—音声学入門(I)
9	発音記号の役割—音声学入門(II)
10	文法カテゴリーの研究(I)
11	文法カテゴリーの研究(II)
12	文法カテゴリーの研究(III)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	発話の意味(I)
2	発話の意味(II)（テキスト、1・2併せて91—110頁）
3	言語の多様性(I)
4	言語の多様性(II)（テキスト、1・2併せて111—129頁）
5	言語と社会（テキスト、130—160頁）
6	言語と文化
7	言語接触、言語同盟（テキスト、161—182頁）
8	ピジンとクレオール（テキスト、183—202頁）
9	言語の系統(I)
10	言語の系統(II)（テキスト、9・10併せて203—222頁）
11	世界の言語(I)
12	世界の言語(II)（テキスト、11・12併せて223—236頁）
備考	

科目名	情報科学特殊講義A(コンピュータ・プログラミング論)1(94年度以降) コンピュータ・プログラミング論1(93年度以前)	担当者名	高柳敏子
-----	---	------	------

講義の目標	<p>本講義では、初めにコンピュータの歴史をハードウェアおよびソフトウェアの両面から概観し、続いてコンピュータに情報処理をさせるとはどのようなことかを理解するために、非常に単純なコンピュータをシミュレートするソフトを使って、コンピュータの構造、動作の仕組みおよびコンピュータ内部における情報の表現等、コンピュータの原理を学習する。</p> <p>コンピュータの原理が理解できたところで、高級言語によるプログラミングを通じて、コンピュータによる問題解決の手順や方法を学習する。</p>
講義概要	<p>前期は、初めにコンピュータの歴史をハードウェアおよびソフトウェアの両面から簡単に概観する。続いてCASLシミュレータを利用して、架空のコンピュータCOMETとそのアセンブラ言語CASLのプログラミングを通して、一般的なコンピュータの構造と動作の仕組み、またコンピュータ内部での情報の表現、そして基本的なプログラムの仕組み等コンピュータの原理を学ぶ。</p> <p>後期は、初めにCASLのより応用的なところをみたところで、現実の一般的なパソコン言語の一つとしてコンパイラ言語のC++を取り上げ、CASLプログラムと対応させながらC++によるプログラミングを、できるだけTurbo C++ for Windowsを使用して実習しながら勉学する。</p>
使用教材	<p>テキスト</p> <p>随時必要な資料をファイルで配布する。</p> <p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田中武二著『コンピュータと社会』サイエンス社、1993。 ・『CASL Programming』ITEC(情報処理技術者教育センター)、1994。 ・Jamsa 著、春木・佐藤共訳『C++ 超入門』第2版アスキー出版局、1996。 ・『岩波 情報科学辞典』岩波書店、1990。
評価方法	<p>前・後期各1度のテストと、Internetによる前・後期各4～5回程度のレポートの提出および出席を加味して評価する。</p>
受講者に対する要望など	<p>情報処理概論(経済学部)、情報処理(法学部)、コンピュータ概論(外国語学部)、または言語情報処理I(英語学科)を既修のこと。</p> <p>受講者の人数を確認するので第1回の講義には必ず出席すること。</p>

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	コンピュータの歴史(1): ハードウェア。ノイマン型電子計算機、電子計算機の世代論と記憶素子。
2	コンピュータの歴史(2): ソフトウェア。コンピュータ言語、オペレーティングシステム。
3	コンピュータの構成: 中央処理装置、制御装置、演算装置 記憶装置、入力装置、出力装置、補助記憶装置。
4	COMET の処理装置(1): 語構成とビット構成、アドレスとアドレッシング、命令語、制御方式、プログラムカウンタ (PC)。
5	COMET の処理装置(2): レジスタ、汎用レジスタ (GR)、指標レジスタ (XR)、フラグレジスタ (FR)。
6	情報の表現(1): 数値の内部表現。整数と2の補数表記、16進表現。
7	CASL プログラミング(1): CASL の命令、疑似命令、マクロ命令、機械語命令 命令の形式、ラベル、命令コード、オペランド、注釈。
8	CASL プログラミング(2): CASL プログラム、ロード命令とストア命令、加算命令と減算命令、定数定義と領域の確保。
9	CASL シミュレータとその実行: プログラムの入力、編集、アセンブル、1命令毎の実行 プログラムのディスクへの記憶、ディスクからの呼出し。
10	CASL プログラミング(3): 乗除算処理(1) シフト演算命令。
11	CASL プログラミング(4): 乗除算処理(2) 比較演算命令および分岐命令とフラグレジスタ。
12	CASL プログラミング(5): 繰り返し処理。指標レジスタの使用。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	CASL プログラミング(6): 情報の表現(2) 文字の内部表現、ASCII コード。
2	CASL プログラミング(7): 入出力命令。コード変換と論理演算。
3	CASL プログラミング(8): サブプログラム(1) 汎用レジスタによるデータの受け渡し。
4	CASL プログラミング(9): サブプログラム(2) スタックを利用したデータの受け渡し。
5	アセンブラとコンパイラ: プログラムの翻訳と実行。例題と Turbo C++ for Windows の操作。
6	C++ プログラミング(1): C++ 言語とは。 C++ 言語の基本事項。
7	C++ プログラミング(2): 出力処理。四則演算と演算子、シフト演算。
8	C++ プログラミング(3): 判断・分岐演算。関係演算子、論理演算子。
9	C++ プログラミング(4): 繰り返し演算。配列。
10	C++ プログラミング(5): 入力処理。文字と文字列の扱い。
11	C++ プログラミング(6): 関数 (メインプログラムとサブプログラム)。サブプログラムにデータの値を渡す。
12	C++ プログラミング(7): 関数(2) サブプログラムにデータのアドレスを渡す。
備考	

科目名	情報科学特殊講義A(コンピュータ・プログラミング論)1(94年度以降) コンピュータ・プログラミング論2(93年度以前)	担当者名	立田ルミ
-----	---	------	------

講義の目標	<p>現在ワープロや表計算ソフト等の様に、様々なソフトウェアが開発されている。それらがどのように開発されているかを理解し、実際にどのようにプログラミングすればよいかを理解する事を目標としている。また、現在どのようなプログラミング言語があり、どのような言語で現在のソフトウェアが開発されているかを知る事も目標とする。</p>		
講義概要	<p>現在コンピュータがどのような使われ方をしているかを概説し、最新のソフトウェアを知ってもらうために、ビデオまたはコンピュータを用いて紹介する。さらに基本的な情報処理の手順について概説し、それらをどのようにプログラミングすれば良いかを、オブジェクト指向言語の1つである Visual Basic を用いて例を挙げて解説する。さらに最近話題になっているインターネットやマルチメディアについても解説およびデモンストレーションを行う。</p>		
使用教材	テキスト	<p>・立田ルミ『Visual Basic と教育システム情報』朝倉書店</p>	
	参考文献	<p>・天笠美知夫編『情報処理の基礎』第2版 朝倉書店</p>	
評価方法	<p>前期、後期の試験：60% レポート1、2：30% 出席：10%</p>		
受講者に対する要望など	<p>情報処理論(3)を並行して履修(または既習)することが望ましい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業のガイダンスとコンピュータの歴史：コンピュータ誕生までの背景、第一世代、第二世代、第三世代、第四世代のコンピュータ
2	ハードウェアの概略と獨協大学におけるコンピュータの利用：入力装置、CPU、記憶装置、記憶方式、ビット、バイト、KB、MB、GB、サイクルタイム、アクセスタイム
3	ソフトウェアの歴史と概略：ソフトウェアの分類、オペレーティングシステム
4	情報処理におけるコンピュータの役割：自動化とコンピュータ、コンピュータと通信の結合、マルチメディアとしてのコンピュータ
5	システム開発とプログラム開発の手順：システム開発の手順と機械化、情報処理技術者の職種、情報処理技術者試験、プログラム開発の手順と期間
6	詳細設計とその手法：プログラムのモジュール化設計、モジュールの論理設計、プログラム流れ図、NSチャート、木構造チャート、HIPO
7	プログラム言語の種類と利用目的：機械向き言語、問題向き言語、オブジェクト指向言語、システム開発用言語、シミュレーション言語
8	第四世代言語とCASEツール：現在開発されている第四世代言語、ソフトウェアの生産性と信頼性
9	各種プログラム言語の使用推移とパソコンソフトウェア各種言語の推移、パッケージソフトの概要、出荷実績
10	Visual Basic とは オブジェクト指向言語、フォーム、プロジェクト、プロパティ、ツールボックス、プロジェクトウインド
11	簡単なプログラム作成の手順：アプリケーション開発手順、Visual Basic 開発環境
12	アプリケーションの構築(1)：アプリケーションの設計、コントロールの扱い方、プログラム設計の選択
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アプリケーションの構築(2)：プロパティをフォームに割り当てる、プロパティをコントロールに割り当てる、メニューのプロパティ
2	アプリケーションの構築(3)：イベント駆動型プログラミングモデル、Visual Basic と他のバージョンの Basic プログラム編成
3	アプリケーションのデバッグとコンパイル：実行エラーの修正、アプリケーションのコンパイル
4	入出力のテクニック：データをキーボードから入力する、データをディスクに書き込む、売上のグラフを描く
5	データ構造とコントロール：動的データ配列の使用、コントロール配列の使用、データの印刷
6	ランダムアクセスファイル：レコードのフィールドへの入力、データベースファイル、プロシージャとメソッド
7	いろいろな機能を使う：ピクチャーボックス、グラフィクス、タイマーコントロール
8	日付と時刻：日付と時刻の値を利用する
9	ファイル、ディレクトリ、ドライブコントロール 円グラフを描く
10	動的データ交換、シートを印刷する
11	ドラッグアンドドロップ操作、プログラム一覧表を作成する
12	Visual Basic とネットワーク、Visual Basic からネットワークを使う
備考	

科目名	情報科学特殊講義A (コンピュータサイエンスと自然言語処理) 2 (94年度以降) 情報論特殊講義A (93年度以前)	担当者名	工藤育男
-----	--	------	------

講義の目標	<p>言語理論を構築することと自然言語処理システム（英語や日本語などの言語を処理すること）との間には、理論と応用という表裏一体の関係がある。機械（コンピュータ）で言語を処理する方法を学び、実習などを通じて言語の持つ特質（複雑さ、困難さ、効率性など）へ理解を深めることを目的とする。コンピュータを操作することにより、コンピュータの基礎的知識を獲得することができるであろう。</p>		
講義概要	<p>我々の身の廻りにも、ワープロ、スペルチェッカー、機械翻訳システム、音声認識、合成装置など自然言語処理をする技術が広く使われ始めている。本講義では、自然言語の処理をする上で基本原理となっている技術、および、その考え方の基礎となっている言語理論などについて、分りやすく解説する。理解を深めるためにコンピュータ上での実習を行う。コンピュータのプログラムやコーパスを用いたシステムの評価方法は、将来研究などに役立つことであろう。</p>		
使用教材	テキスト	特になし	
	参考文献	講義の中で紹介する	
評価方法	<p>評価は、前期・後期各1回のレポートによって決める。</p>		
受講者に対する要望など	<p>コンピュータの基本的操作は知っている者を対象とする。講義中に分からない用語や箇所があった場合は、講義中又は講義後に遠慮なく尋ねること。積極的な態度で受講することを望む。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要を説明する。自然言語処理、コンピュータの基礎をつかむ。
2	マルチメディアについて説明する。インターネットを利用するための基礎知識を得る。音声データ・画像データの扱い方、将来のコンピュータの利用についてイメージを持つことを目的とする。
3	インターネットの実習を行う。電子メール、WWWについて利用する。インターネットが有益なツールであることを理解する。
4	マルチメディアをめぐる知的財産権（知的所有権）について法律上の問題について解説する。急速な情報処理技術の発展に伴って法律が未整理な課題を多くかかえていることを理解する。
5	統計言語学について説明する。世界の言語や文字がどのくらい存在し、計算機でどのように取り扱っているかについて解説する。
6	Zipf の法則に代表される統計量を実際プログラムを利用して計ってみる。計算機を利用するメリットについて理解する。
7	コンピュータを利用するための基礎知識（ファイル、エディター、WINDOWS）について実習する。
8	ワードプロセッサの基本原則である形態素解析技術について解説する。日本語の品詞のあいまいさについて理解する。
9	ワードプロセッサの実習を行う。身近な日本語処理について慣れ親しむ。カナ漢字変換を中心に日本語入力について実習する。
10	ワードプロセッサの実習（2回目）を行う。ワープロをうまく利用するための辞書登録や印刷方法、フロッピーへのセーブ、読み込みについて実習する。フロッピーのフォーマット、ディレクトリーについても扱う。
11	統語理論について解説する。文法を形式的に定義し、統語構造を導出する。とくに、形式言語の一つである文脈自由文法について解説する。文のあいまいさについても理解する。
12	意味解析について解説する。意味解析とは、格文法や結合価文法による解析を指す。意味解析を行うのに必要なソーラスや意味素性について説明する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	後期の講義内容について説明する。
2	80年代に提案された言語理論について紹介する。特に（LFG）を中心としたユニフィケーション文法と機械処理の関係について解説する。
3	Prologというプログラミング言語を用いて構文解析について実習する。実習を効率的に行なうためにEmacsというエディターを利用する。
4	構文解析について実習（2回目）を行う。文法と辞書を作成して、各自、文を解析する。構文解析のあいまいさについて確認する。
5	文脈処理について考える。文脈処理しなければならない現象は何か、扱うためにはどうしなければならないかについて説明する。
6	機械翻訳システムの原理について解説する。解析・変換・生成の各過程の中で辞書がどのような役割をしているのかについて理解する。
7	機械翻訳の開発の歴史を紹介する。言語データを整理し、実用的なシステムの辞書を構築するのにどのような労力が費やされているかを理解する。
8	コーパスについて説明する。コーパスが自然言語処理システムを評価する上で欠かせないことを理解する。KWIC、関係データベースについても説明する。
9	機械翻訳システムの実習を行う。システムの使い方に慣れる。
10	機械翻訳システムの実習（2回目）を行う。辞書の登録を行う。
11	機械翻訳システムの実習（3回目）を行う。翻訳システムの評価を行う。翻訳システムのメリット、デメリットについて理解する。翻訳システムの特徴を生かした利用方法について考える。
12	自然言語理解について解説する。言語を理解する上で、解釈ということが重要な役割を果していることについて理解する。Speech actについても紹介する。
備考	

科目名	情報科学特殊講義A(情報処理)3(94年度以降)	担当者名	東 孝 博
-----	--------------------------	------	-------

講義の目標	コンピュータを利用した情報の検索・収集・分類・整理・蓄積・伝達等の方法を学ぶ。		
講義概要	<p>前期：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータネットワークを利用した情報の検索・収集 ・適当なアプリケーションソフトを利用した情報の整理 ・データベースの扱いと構築 ・コンピュータネットワークを利用した情報の発信・伝達 ・コンピュータを使ったプレゼンテーションやデスクトップパブリッシング <p>後期：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷・出版用言語 T_EX <p>以上のような内容で講義と実習を進めていく。</p>		
使用教材	テキスト	とくになし	
	参考文献	参考書は適宜紹介する。	
評価方法	前・後期各1回の課題と日常の宿題等授業への参加態度。		
受講者に対する要望など	「コンピュータ概論」成績優秀者か、または、それと同等程度の者を対象としたい。教室のコンピュータの台数に合わせて受講者を選抜する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要に沿って進めていく
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	言語学特殊講義A（音の構造）（94年度以降） 一般音声学（93年度以前）	担当者名	伊豆山 敦子
-----	---	------	--------

講義の目標	<p>人間の言語音の聴音機構を観察し、その聴取の訓練を行う。そして、その表記の方法を習得する。それは言語研究の基礎である。</p> <p>さらに、音声はその言語で果たしている機能はどういうものか、日本語を例として考える。この授業により、無意識に習得した自国語の、音声に対する客観的認識が得られることを期待する。</p>				
講義概要	<p>国際音声字母表を用いながら、聴音音声学的訓練を行う。さらに自国語の音声面に対する観察を続けながら、音声の果たす機能に着目し、音韻論の基礎を学ぶ。各人が音声学的知識を身につけ、音声を観察することができるように、訓練を中心とした授業である。</p>				
使用教材	<table border="1"> <tr> <td>テキスト</td> <td>小泉保『音声学入門』（1996） 大学書林</td> </tr> <tr> <td>参考文献</td> <td> 服部四郎『音声学』（1984） 岩波 川上泰『日本語音声概説』（1977） 桜楓社 風間喜代三 et al『言語学』 東京大学出版会 城生伯太郎『音声学』 アポロン工業社 </td> </tr> </table>	テキスト	小泉保『音声学入門』（1996） 大学書林	参考文献	服部四郎『音声学』（1984） 岩波 川上泰『日本語音声概説』（1977） 桜楓社 風間喜代三 et al『言語学』 東京大学出版会 城生伯太郎『音声学』 アポロン工業社
テキスト	小泉保『音声学入門』（1996） 大学書林				
参考文献	服部四郎『音声学』（1984） 岩波 川上泰『日本語音声概説』（1977） 桜楓社 風間喜代三 et al『言語学』 東京大学出版会 城生伯太郎『音声学』 アポロン工業社				
評価方法	<p>授業中に行う単音聴取テストへの参加</p> <p>前期・後期各一回の聴取テスト</p> <p>後期末の筆記試験</p> <p>以上の総合により評価する。</p>				
受講者に対する要望など	<p>実際の音を聴き取り発音するのは、一人では難しい。授業で聴けばわかるものも、休んでは教科書を読んでもわかりにくい。休まないことを要望する。</p>				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義概要の説明。言語音が同じだとか違うのだとかいうことは、何を意味しているのか。音声面の研究とはどのようなことか。
2	音声と音声学。音声学の分野。(p. 1-4)
3	声道と気流。(p. 5-16)
4	発声と音声器官。(p. 17-27)
5	国際音声字母表。母音の調音。基本母音。(p. 85-94)
6	子音の調音点と調音法。(p. 35-36)
7	両唇音
8	唇歯音
9	歯音
10	副次調音。気音。破擦音。(p. 70-75)
11	硬口蓋音
12	復習とテスト
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期テストの講評と復習。
2	軟口蓋音。
3	口蓋垂音。
4	ふるえ音。はじき音。
5	側面摩擦音。側面接近音。
6	鼻母音。2重母音。(p. 97-101)
7	口蓋化。軟口蓋化。円唇化。(p. 77-83)
8	促音。撥音。(p. 148)
9	音素。音素の規定。弁別的特徴。相補分布。(p. 141-143)
10	サ行音。ハ行音。ガ行音。(p. 144-147)
11	日本語の音素。(p. 147-149)
12	復習とテスト。
備考	

科目名	地域文化研究（現代英米社会研究）1（94年度以降）	担当者名	有吉広介
-----	---------------------------	------	------

講義の目標	英国社会を支えるミドルクラスの社会学的分析を通して、現代英国の社会構造および文化を理解する。		
講義概要	かつてミドルクラスは英国資本主義社会をつくりだした歴史的主体ブルジョアジーであった。そしてこの国の伝統と革新とを独特な方法で調和させて近代の英国社会を生みだした。現代英国のミドルクラスは、19世紀末における経営者革命や官僚機構の発達に起源をおく専門経営層、中間管理者層、専門技術者層、および大量の事務員層からなるホワイトカラー層である。この層の中核をなす人びとは、家庭生活のなかでミドルクラスの文化を体得したうえで、英国の独特な教育システムを通して社会に送りだされて英国の社会と文化とを支えている。本講義では、英国人の生活と文化とを読み取ってもらいたい。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	随時指示する。	
評価方法	前・後期の終りに求めるレポートにて評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	英国におけるミドルクラスの現状
2	産業革命前後のミドルクラス
3	古典的ミドルクラスの性格
4	前回に続く
5	古典的ミドルクラスの文化
6	新しいミドルクラスの出現
7	現代におけるブルジョア階級の衰退
8	専門経営層の確立
9	前回に続く
10	中間管理者層の出現と社会的地位
11	前回に続く
12	新旧の専門家層
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前回から続く
2	実業家層の現状
3	事務労働者の階級状況
4	前回に続く
5	ミドルクラスの家庭生活
6	前回に続く
7	ミドルクラスと教育
8	前回に続く
9	ミドルクラスと余暇
10	ミドルクラスの政治的関心
11	ミドルクラスと政治リーダー
12	まとめ
備考	

科目名	地域文化研究(日本の民族芸能)2(94年度以降) 日本文化特殊講義A-1(93年度以前)	担当者名	飯島一彦
-----	---	------	------

講義の目標	日本人の生活の中に息づく芸能、すなわち民俗芸能は、現在でも日本の各地で伝承され演じられている。そこでは、長い年月の中で培われた日本の民衆の生活感覚や価値観が、現在でも濃厚に感じ取れる。表面的にはアメリカナイズされたごとくに見えて、モダンな我々日本人の生活は、実は、一皮めくれば千数百年以前の日本人の精神生活と同質の原理によって、多くは支配されているのだが、それを体感的知識として手に入れ、考えることを目標とする。		
講義概要	私が現地で取材し、実写したビデオを中心にして、民俗芸能の映像を見ながら、それを題材とした講義を進める、常日頃のフィールドワークの成果をもとにするので、扱う民俗芸能自体は未定である。できれば、クラスでフィールドワークを行ないたい。また夏期休暇中には各自のフィールドワークを課する。後期は、それをもとに発表形式の授業をする。		
使用教材	テキスト	・『日本の伝統芸能』錦正社	
	参考文献	・『日本の歴史と芸能』平凡社 ・その他、教室で指示する。	
評価方法	夏期休暇中のフィールドワークのレポート、及び冬期休暇中の課題レポート。提出しない者は評価の対象としない。		
受講者に対する要望など	授業の一環として行なうクラスのフィールドワークに必ず参加すること。もちろん各自のフィールドワークもしなければならぬので、手間暇を惜しまず身体を動かし、文献を読み、調査する根気と体力が必要。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業ガイダンス、民俗芸能とは①
2	民俗芸能とは②
3	
4	
5	
6	
7	時宜に応じて、ビデオを用いて講義。
8	
9	
10	
11	
12	
備考	前期中に1回、課外でフィールドワークを行なう。

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏期課題（各自のフィールドワーク）について、各自報告。
2	
3	
4	
5	
6	時宜に応じて、ビデオ等を用いて、講義又は発表。
7	
8	
9	
10	
11	
12	一年間のまとめ。
備考	

科目名	地域文化研究（熱帯雨林の生態と開発問題）3（94年度以降） 人文地理学（93年度以前）	担当者名	犬井 正
-----	--	------	------

講義の目標	熱帯雨林の破壊は単に森林資源の消失問題としてではなく、全地球的な環境、経済、文化の問題としてとらえなければならぬ。熱帯雨林の生態と開発問題について広い視野から検討し、人間と風土とのかかわり方を考察する。		
講義概要	熱帯雨林とはなにかという問いを端緒に、熱帯雨林がどこに存在し、どのような特徴をもった森林なのかを明らかにし、地球上で最も重要な生態系と言われている理由を考察していく。なぜ熱帯雨林が開発されるようになったのか、その開発の形態と規模、開発過程、この開発の結果どのようなことが生起しているのか、なにが適切な解決策かなどについて考えていく。テキストを用いながら、随時、VTR、スライドなども援用しながら講義をすすめる。		
使用教材	テキスト	クリス・C・パーク著『熱帯雨林の社会経済学』（1994、農林統計協会）	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ T・C・ホイットモア著『熱帯雨林総論』（1993、築地書館） ・ ジョン・C・クリッチャー著：『熱帯雨林の生態学』（1992、どうぶつ社） ・ 四手井網英・吉良竜夫監修『熱帯雨林を考える』（1992、人文書院） ・ 環境庁「熱帯雨林保護検討会」編『熱帯雨林をまもる』（1992、NHK ブックス） 	
評価方法	前期、後期1回ずつの定期試験による。		
受講者に対する要望など	特になし		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	本講義の1年間の受講の心構え、講義方法、講義内容等についてのオリエンテーションをおこなう。
2	1次生産者としての森林の重要性について。
3	世界の森林の分布と熱帯雨林地域の気候条件。
4	熱帯雨林成立の過程と特質。
5	熱帯雨林の森林としての構造。
6	熱帯雨林の動植物と食物連鎖。熱帯雨林の土壌の特質。
7	熱帯雨林の生態学的多様性。
8	VTR『熱帯雨林の生態』視聴。
9	熱帯雨林の開発の過程と破壊の核心地域。
10	様々な開発形態と開発速度。
11	薪炭材の生産と焼畑農耕—伝統的焼畑農耕は破壊的か？
12	人口爆発と集落再編計画。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	商業的木材生産による森林破壊。
2	プランテーション経営と牧畜業。
3	ダム・道路建設、鉱産資源開発などの大規模開発による森林破壊。
4	VTR『ミドリを守る男たち』視聴。
5	熱帯雨林破壊による環境保全機能の低下。
6	熱帯雨林破壊の気候変化と地球の温暖化。
7	熱帯雨林破壊の経済と生態の損失。
8	熱帯雨林で暮らす森林の民の苦境—アマゾンのヤノマミ族とカヤポ族。
9	VTR『熱帯雨林とサラワク先住民族』視聴。
10	日本の熱帯材輸入と森林破壊。
11	熱帯雨林破壊をくい止める可能な解決策？
12	まとめ—再考「人間と自然のかかわり」。
備考	

科目名	地域文化研究（ヨーロッパ近代とイスラーム世界）4（94年度以降） 比較文化論特殊講義A（93年度以前）	担当者名	奈良本 英 佑
-----	--	------	---------

講義の目標	危機の時代ともいふべき現代においてイスラーム世界が直面している諸問題の理解を目指す。とくに、近代ヨーロッパと、同時代の中東イスラーム世界を対比し、後者が前者からの挑戦に対してどのように応答したかを見る。このようにして、近代合理主義と呼ばれる文化のシステムと、イスラームと呼ばれるそれとの間の相異、相互関係が分かってくるだろう。そうすれば、今日のいわゆる「イスラーム原理主義」と呼び慣されているもののすべてが、必ずしも狂信者の迷いごとばかりとは限らないことも理解されよう。		
講義概要	前期は、主として、オスマン帝国の成立から解体までに至る中東の歴史と、西ヨーロッパの近代史を講義する。中東世界とヨーロッパ世界の力関係が逆転するのは17C末だが、この逆転によって「東方問題」と総称される一連の国際紛争が発生する。前期の講義は、この東方問題を軸とした東西関係史という性格を持つだろう。後期は、この2つの世界の思想、イデオロギーを取り扱おう。近代合理主義とは何か、それはいかにして生まれ発展したのか。それがイスラーム世界の思想にどのようなインパクトを与えたのか、イスラーム世界のエリートたちはどのように反応したか。こうしたことが講義のテーマとなるだろう。		
使用教材	テキスト	とくに指定しないが、「イスラーム事典」（平凡社）を座右に置くことを強く奨める。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・秀村欣二編『西洋史概説』（東京大学出版会） ・ S. J. Shaw, <i>History of the Ottoman Empire and Modern Turkey</i> (2 vols), Cambridge UP, 1976~7. ・ B. Lewis, <i>The Emergence of Modern Turkey</i>, Oxford UP, 1961. ・ A. Hourani, <i>Arabic Thought in the Liberal Age, 1798-1939</i>, Oxford UP, 1962. ・ N. Berkes, <i>Development of Secularism in Turkey</i>, McGill UP, 1964. 	
評価方法	評価は、前期と後期各1回の試験による。場合によっては、後期1回、レポート提出を求める。		
受講者に対する要望など	世界史について、高校生程度の常識があることを前提に講義する。異文化に対する興味を持つ諸君の受講を歓迎する。事前にイスラームに関する入門書を読んでおくことを奨める。たとえば、小杉泰「イスラームとは何か」（講談社現代新書、1994）。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	〔イントロダクション〕地中海をはさんだヨーロッパと中東との間の交易・文化の伝播について。
2	〔オスマン帝国の発展〕13世紀末、アナトリアの一角に生まれた、イスラーム戦士集団の一小侯国が、いかにして世界最強国に発展し、ヨーロッパを脅かしたか。
3	〔オスマン帝国の社会構造〕異教徒から改宗したエリート奴隷たちが文武の支配機構の中枢を占めた、ユニークな帝国の組織と構造について。
4	〔オスマン帝国の衰退〕このイスラーム帝国は16Cを絶頂期として、以後は衰退に向かう。その政治的・経済的諸原因について論じる。
5	〔産業革命〕ヨーロッパにおける農業革命、商業革命、産業革命の関係。ヨーロッパ近代の経済基盤は如何に形成されたか、イギリスを中心に論じる。
6	〔産業革命②〕同上。他地域への伝播などにも触れる。
7	〔市民革命〕ヨーロッパにおける経済発展、都市の形成、絶対主義を経て市民革命に至る政治過程について、フランスを中心に論じる。
8	〔帝国主義と東方問題〕産業革命と市民革命を経て力を蓄えたヨーロッパ列強と、衰退期のオスマン帝国との関係。又、オスマン帝国へ勢力圏の拡張を求める列強相互間の紛争について。
9	〔オスマン帝国の近代化①〕開明的なスルタン、セリムⅢ、マハムートⅡによる近代化の着手について。
10	〔オスマン帝国の近代化②〕“Tanzimat”と呼ばれる、エリート官僚主導の近代化改革について。
11	〔青年トルコ革命〕さらなる近代化によりオスマン帝国の再生を目指したこの革命が、なぜ帝国の分解をもたらしたかについて。
12	〔ケマリスト革命〕オスマン帝国の廃墟のなかから、近代的な国民国家建設を目指して創られたトルコ共和国について、それを指導したケマリストたちの政治思想と政策を論じる。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	〔ルネサンスと宗教改革〕復古運動としてはじまったルネサンスと宗教改革が、なぜ「近代」の萌芽をつくり出したのか。
2	〔近代合理主義①〕理神論を中心に、「神」観、宗教観の転換がいかにして近代的な自然観・社会観を導いたかについて論じる。
3	〔近代合理主義②〕近代自然科学、社会科学はいかに生まれたか。
4	〔ナショナリズム〕近代ヨーロッパが生み出した、非合理的なイデオロギーであるナショナリズムとは何か。
5	〔イスラームとは何か〕イスラームは、どのような政治的・文化的背景から生まれたか。預言者・政治家としてのムハンマドの役割、イスラーム法の成立などについて。
6	〔イスラーム改革運動①〕近代イスラーム改革運動の特徴は何か。復古運動として始まった改革は、新しい思想を生み出したのか。改革者たちは、理性と啓示の関係をどのように扱えたかなどについて。
7	〔イスラーム改革運動②〕先駆者としての at-Tahtawi, Khayr ad-Din, al-Afghani の思想と行動。
8	〔イスラーム改革運動③〕Muhammad Abduh と Rashid Rida について。
9	〔イスラーム改革運動④〕イスラーム近代主義 (tajdid) と青年オスマン人運動について。
10	〔アラブ・ナショナリズム〕イスラーム改革運動とアラブ・ルネサンスの結合から、いかにして新しいナショナリズムが生まれたか。
11	〔トルコ・ナショナリズム〕オスマン帝国の中央集権化を目指した改革運動から、聖俗分離の原則に立つ新しいナショナリズムがいかに生まれたか。
12	〔近代化とイスラーム復興運動〕中東イスラーム世界における近代化の実験は成功したのか。現代のイスラーム復興運動は何を目指しているのか。
備考	

科目名	地域文化研究(スペイン：歴史と文化) 5 (94年度以降)	担当者名	野々山 ミチコ
-----	-------------------------------	------	---------

講義の目標	スペイン史の重要なポイントを解説し、それが現在のスペインにどのようにかかわっているかを理解させる。		
講義概要	前期はスペインの過去に、後期はスペインの現代に焦点をあわせる。前期は全授業にわたってビデオを見せる。		
使用教材	テキスト	野々山真輝帆著『すがおのスペイン文化史』 東洋書店	
	参考文献	斎藤孝編 スペイン・ポルトガル現代史 山川出版社 若松隆 概説スペイン史 有斐閣 野々山真輝帆 スペイン辛口案内 晶文社	
評価方法	前期はレポート 後期はテスト		
受講者に対する要望など	日本の問題と比較して考えてほしい		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	スペインのルーツ
2	スペインのローマ化
3	イスラムスペインの文化
4	レコンキスタのスペイン
5	マドリッドの歴史
6	バルセロナの歴史
7	黄金世紀のスペイン
8	スペインの内戦
9	スペインの特質(1)
10	スペインの特質(2)
11	スペインの特質(3)
12	
備考	

後 期

週	現代スペインの社会	主 要 テ ー マ
1	若者(1)	
2	若者(2)	
3	女性問題(1)	
4	女性問題(2)	
5	女性問題(3)	
6	老人	
7	麻薬	
8	フアン・カルロス国王	
9	スペイン語の表現の特殊性(1)	
10	スペイン語の表現の特殊性(2)	
11	スペイン語の表現の特殊性(3)	
12		
備考		

科目名	地域文化研究（戦後冷戦史の展開）6（94年度以降） 国際政治史（93年度以前）	担当者名	深谷 満雄
-----	--	------	-------

講義の目標	戦後国際政治を長期にわたって支配した東西「冷戦」の実相を明らかにし、「冷戦」の発生と消滅の意義についての正しい理解を目指す。		
講義概要	冷戦の起源に関する解釈から説き起こし、NATO、ワルシャワ条約機構の成立により戦後のヨーロッパが東西に完全に分断されるまでの経緯について概観する。		
使用教材	テキスト		
	参考文献	講義の都度指示する。	
評価方法	原則として学年末の論文形式の筆記試験による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	一年間の講義概要と授業方針について説明する。
2	「冷戦」の起源に関する三つの解釈——「正統的」、「修正主義的」、「ポスト修正主義的」——を扱う。
3	「冷戦発生史におけるポーランド問題」として、ソ連と亡命ポーランド政府との関係が断絶した1943年4月までの時点を扱う。
4	同じく、1945年2月のヤルタ会議での討議と決定を扱う。
5	同じく、ヤルタ会議後この問題をめぐりアメリカの対ソ態度が硬化しはじめた模様について述べる。
6	「冷戦」発生のもう一つの大きな原因としてのドイツ問題につき、戦後ドイツが米英ソ仏4カ国によって分割占領された事情について述べる。
7	ポツダム会議および管理理事で決定・作成された「ドイツ産業水準計画」を取り上げる形で、米ソ関係変化の推移を追う。
8	同上。
9	同上。
10	同上。
11	同上。
12	レポートの課題、提出期限等について説明する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「冷戦」を公式に宣言したとされる1947年3月のトルーマン・ドクトリンを取り上げ、その内容、意義づけ、宣言が出された背景について述べる。
2	同上。
3	対ソ「封じ込め」の意義をもったヨーロッパ復興計画＝マーシャル・プランの発表経緯、およびその具体化について述べる。
4	同上。
5	東側に対抗的な軍事同盟として1948年3月結成されたブリュッセル条約の締結経緯およびその内容について述べる。
6	同上。
7	西側12カ国による一大軍事同盟機構 NATO (=北大西洋条約機構) の成立事情について述べる。
8	同上。
9	「ベルリン封鎖」危機の発生、その進行、およびドイツ分裂を取り上げる。
10	東西ドイツの成立から1950年代半ばに至る西ヨーロッパ統合の動き、および東側におけるワルシャワ条約機構結成の動きについて概観する。
11	同上。
12	一年間の授業についての「まとめ」を行い、定期試験に関し、出題方針を明らかにする。
備考	

科目名	地域文化研究（西洋美術史）7（94年度以降） 西洋美術史（93年度以前）	担当者名	前川久美子
-----	---	------	-------

講義の目標	14、5世紀のイタリアとアルプス以北の絵画作品の分析をとおして、西洋美術史の諸問題を概観する。		
講義概要	1～4週で完結するテーマごとに、スライドを使い講義形式で進める。		
使用教材	テキスト	プリント	
	参考文献	授業時間中に話す。	
評価方法	テスト。		
受講者に対する要望など	次ページに記す計画が実際に期日どおりに進むことは保証の限りではない。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	イントロダクション
2	
3	14世紀前半のイタリア美術：ルネッサンスと中世
4	
5	ジョット作『アレーナ礼拝堂壁画』：キリスト教図像学の伝統と展望
6	
7	
8	
9	絵画の物語叙述：絵画表現の様々な可能性
10	
11	14世紀後半のイタリア美術：ペスト後のイタリア絵画
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	14世紀の北方美術：写本装飾の展開
2	絵画ジャンルと技法
3	芸術家と制作
4	15世紀始めのイタリア美術：新たな表現の成立
5	マザッチオ他作『ブランカッチ礼拝堂壁画』
6	
7	遠近法
8	15世紀前半の北方美術：細密描写と風景
9	絵画の象徴的表現
10	鑑賞者と絵画
11	15世紀の北方とイタリア
12	
備考	

科目名	地域文化研究(中洋-ネパール・インド・チベットの社会と文化)8(94年度以降)	担当者名	三本 茂
-----	---	------	------

講義の目標	<p>我々が「西洋」、「東洋」と呼んでいる地域の間には「中洋」と呼ばれるべき特有の文化を持つ広大な地域が広がっている。</p> <p>中洋の国々のなかで、訪れたことあるネパール、インド、チベットの社会と文化の特徴を紹介し、地域文化間の交流のあり方について考えてみたい。</p> <p>出来るだけ日本の社会と文化に関連付けながら講義を進めたいと考えている。</p>		
講義概要	<p>ネパール、インド、チベットの歴史を辿り、これらの地域の社会構造や日常生活の様子を現地で撮影したビデオ映像を主にして紹介する。</p> <p>現地でのフィールドワークの方法や技術などについても触れるつもりである。</p> <p>また、地域間の交流の一つの形としての探検のありかたについて考えてみたい。</p>		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	必要に応じて紹介する。	
評価方法	数回のレポートの提出と期末の筆記試験の結果により評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	中洋の国々で出会ったこと、考えたこと
2	ネパールの歴史
3	ネパールの社会構造
4	ネパールの文化
5	ネパールの宗教
6	インドの歴史
7	インドの社会構造
8	インドの文化
9	インドの宗教
10	
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	チベットの歴史
2	チベットの社会構造
3	チベットの文化
4	チベットの宗教
5	文化交流としての探検
6	中洋の文化を結んでいるもの
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A (カリブ海域の民族と文化) I (94年度以降)	担当者名	井上兼行
-----	-------------------------------------	------	------

講義の目標	日本からは、政治・経済・文化などあらゆる面で最も遠い位置にあるカリブ海域の民族と文化について、その特質をおおよそ知る。		
講義概要	カリブ海域は他に類を見ない独特の歴史をもち、それを基礎に民族と文化が築かれている。そこで歴史をある程度時間をかけて明らかにし、その上に築かれた民族及び、文化の一つである言語について述べ、さらに他の文化についても言及して、その特徴や現代における問題点を探っていく。		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	随時紹介する。	
評価方法	登録者の数による。		
受講者に対する要望など	なるべく2年生以上、また文化人類学の単位を取っていることが望ましい。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	序——カリブ海域概観
2	歴史——（１）コロンブス到来。スペイン人による支配。
3	” （２）16C後半、英・仏などの新興勢力の侵入、植民地化。
4	” （３）17C～18C後半、砂糖きびプランテーションを通じての植民地の繁栄。
5	” （４）砂糖貿易衰退、奴隷勢力の伸長。その一つの象徴としてのハイチ独立。
6	” （５）19C前半からの奴隷制廃止。外国からの労働力輸入。そして複雑な民族社会へ。
7	民族構成からみたカリブ海域社会（１）
8	” （２）
9	” （３）
10	” （４）
11	” （５）
12	複雑な言語、また複雑な言語構成（１）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	” （２）
2	” （３）
3	” （４）
4	以降は文化の各論である。テーマは未定。これまでの話の脈絡から決めてゆく。
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A（東西文化比較）2（94年度以降） 西洋文化特殊講義A-1（93年度以前）	担当者名	近衛秀健
-----	--	------	------

講義の目標	<p>現在の世界は昨日の世界とは違う。明日は今日とは同じでない世界が開けてくる筈だ。人間社会は生き物であり、日本もヨーロッパも絶えず変化している。生活の付加価値たる文化現象も永遠不変のものではあり得ないだろう。博物館で既に化石化した先人の努力のあとを探るのも大事なことに違いないが、われわれは自分の周辺に広くアンテナをはりめぐらせて周囲の世界とその中にいる個人の現在位置を確認することも大切ではなかろうか。</p>		
講義概要	<p>毎日の新聞、テレビ、ラジオ等で報道されている事柄をとりあげて、それに対するヨーロッパ的、日本的対応のさまを較べてみる。よく見ると、そこに書かれている事柄、書かれなかった事柄、その取り上げ方、取り扱い、どんな小さな記事からも興味のあるテーマが浮かび上がってくるだろう。</p> <p>日本はヨーロッパの出張所である。但し支店長以下すべて現地採用で社員が勝手にやっている。そこが他の植民地あがりの地方と違うところだ。本店と遠く離れたアジアの島々で、今まで百数十年どうやって来たのか、又これからどうなっていくのか、これを観察することの興味は尽きない。</p>		
使用教材	テキスト	ナシ	
	参考文献	ナシ	
評価方法	<p>これを書いている1996年12月現在、1997年4月開講時の社会状況を予見することはできないが、前期後期の二回期末にレポートを課す。私は時事につき勝手に註釈をつけるが、これに関し諸君は自分の考えで意見を書いて欲しい。参考書不要、独断、偏見は若い者の特権だ。</p>		
受講者に対する要望など	ナシ		

年 間 講 義 予 定

毎日の新聞などから時の話題をとり出して、これを分析する。その時何がおこるかは予知不能なので、今、テーマを提示することはできない。

科目名	比較文化論特殊講義A（南から見る南北アメリカ関係）3（94年度以降） 時事問題研究特殊講義A-1（93年度以前）	担当者名	佐藤 勸 治
-----	---	------	--------

講義の目標	<p>(新) 比較文化論特講（副題：南からみる南北アメリカ関係）</p> <p>第一の目標は、ラテンアメリカ・カリブ海域の現状をその歴史的背景とともに知ることである。高校で世界史および地理を学ばなかった学生がいること、およびその内容の偏重を考慮して、ラテンアメリカに関する基礎的知識の習得に重点を置く。第二の目標は、米国とラテンアメリカがぶつかりあう地域「米・メキシコ国境地帯」について現状と歴史を学び、北米自由貿易協定時代における多民族・多文化社会の今後を考えていきたい。米・ラテンアメリカの外交関係を論じるのではないので注意していただきたい。</p>		
講義概要	<p>米国もラテンアメリカも、その歴史をたどれば、植民地として成立し、30年から40年の差があるものの同時期に独立を果たしたなど、多くの共通性がある。しかし、我々の常識では米国とラテンアメリカが本質的に共通な性格を持つものとは理解されていない。ラテンアメリカ、特にカリブ海・中米地域から北のラテンアメリカは19世紀半ばから米国の圧倒的な影響下に置かれた。現在のラテンアメリカは、米国の影響を無視して理解することはできない。一方、米国もラテンアメリカの存在と切り放して理解することはできない。後者に関して一般的には無視されることも多いが、米・メキシコ国境地帯に焦点をあてることでラテン化が進む米国についても言及したい。</p>		
使用教材	テキスト	<p>特に指定しない。プリントを配布する予定である。</p> <p>各授業の導入として映像資料（ビデオ・写真など）を多用したい。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席と授業での発言を重視する。レポートを前後期二回提出してもらう。受講者数によっては試験（ペーパーテスト）をおこなうことがある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>一方的授業にはしたくないと考えている。学生の積極的参加を望む。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業内容の紹介：ラテンアメリカとは
2	民族の誕生1：インディオとインディアンはどちらがう？
3	民族の誕生2：クレオールとは
4	民族の誕生3：ラティーノ、ヒスパニックとは
5	米国の中のラテンアメリカ：プエルトリコ
6	米・メキシコ国境の町：ティファナ
7	米・メキシコ関係史1：テキサス共和国の独立
8	米・メキシコ関係史2：米・メキシコ戦争
9	米・メキシコ関係史3：メキシコ革命
10	米・メキシコ関係史4：NAFTA時代の到来
11	日本におけるラテンアメリカ研究の現状
12	予備
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	カリブ海世界と米国1：カリブ海世界とは、ボブ・マーリーを知っていますか？
2	カリブ海世界と米国2：キューバ革命
3	カリブ海世界と米国3：パナマ運河とパナマ建国
4	カリブ海世界と米国4：ニカラグア革命
5	ブラジル
6	ペルー：フジモリ政権とは
7	アルゼンチン：タンゴの国
8	チリ：アジェンデ政権の成立
9	米・メキシコ国境地帯1：メキシコのジェロニモ
10	米・メキシコ国境地帯2：労働者にとっての国境地帯
11	米・メキシコ国境地帯3：架空の領域アストララン
12	予備
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A(能楽における中世武士の諸像)4(94年度以降) 日本文化特殊講義A-2(93年度以前)		担当者名	瀬尾菊次
講義の目標	<p>日本の古典芸能である『能楽』を、作品構成を中心として解説し、あわせて歴史・舞台構造・装束など能楽全般にわたる知識を習得する。</p> <p>また、昔より伝わる生活行事・風習など、日本人のしきたりを時節に即して考察する。</p>			
講義概要	<p>貴族政治から武家政治へ変遷していく平安時代の末期に、時代の寵児として華々しく活躍し、さまざまな伝説を残した『源義経』の生涯を、能の作品を通して能舞台上で上演されたビデオを鑑賞しながら解明していき、あわせて舞台芸術としての能を理解していく。</p>			
使用教材	テキスト	関連資料のコピーを講義ごとに配布。		
	参考文献	講義のさいに資料を配布する。		
評価方法	前・後期各1回のレポートと能楽鑑賞のレポート。			
受講者に対する要望など	随時紹介する能楽堂における公演のなかより能楽鑑賞をし、レポートを提出することを義務とする。			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	能楽についてのあらまし。
2	流儀・各役・番組の見方など、能楽が演じられるしくみについて。
3	能の現行曲について。
4	能舞台について。
5	義経の生きた時代背景。
6	義経との関連曲目。
7	義経の能・「烏帽子折」を題材として、能舞台と演技のかかわりについて。そのⅠ
8	関連曲「熊坂」を題材として、現在能と夢幻能について。そのⅠ
9	同上。そのⅡ
10	五節句のはなし。
11	前期レポートについて。
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	更衣（ころもがえ）と和服について。
2	義経の能・「橋弁慶」を題材として。
3	義経の能・「舟弁慶」を題材として、能の作り物（大道具）について。
4	義経の能・「安宅」と歌舞伎「勅進帳」との関連。そのⅠ
5	同上。そのⅡ
6	冠婚葬祭に関するしきたり。
7	義経の能「八島」を題材として、平家物語との関連について。そのⅠ
8	同上。そのⅡ
9	人生儀礼に関するしきたり。
10	能と狂言の演技の対比。
11	後期レポート、曲目解題について。
12	能の流れ・まとめ。
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A(ユダヤ教の歴史)5(94年度以降) 西洋文化特殊講義A-2(93年度以前)		担当者名	高橋正男
講義の目標	<p>唯一神ヤハウェ信仰を民族共同体存続の基本原理とするユダヤ人という名を冠せられる宗教的・民族的共同体は紀元前6世紀のバビロニア捕囚をとおして初めて成立し今日に至っている。したがってバビロニア捕囚前のヤハウェ信仰(古代イスラエルの宗教)をユダヤ教と呼ぶことは誤りである。本年度はユダヤ教の歴史にかかわる諸問題を多面的・立体的に理解させることを目標とする。</p>			
講義概要	<p>ユダヤ教の歴史にかかわる諸問題を時間の許す範囲で古代から現代までを扱う。講義は平明・概説的・重要事項は詳述し、あわせて学界の研究状況も織り込んで紹介する。講義内容は別紙年間講義予定表を参照されたい。</p>			
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・石田友雄著『ユダヤ教史』山川出版社、1980年 ・高橋正男著『年表 古代オリエント史』(第2刷)時事通信社、1994年 		
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・高橋正男著『旧約聖書の世界』(第4刷)時事通信社、1994年 ・吉見崇一編『ユダヤ教小辞典』リトン、1997年 <p>随時紹介する</p>		
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・学年末のレポートもしくは筆記試験および出席回数によって決める。少人数の場合はゼミナール形式で行う。 ・講義資料等は出席者のみに配布する。 			
受講者に対する要望など				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日本人とユダヤ人
2	日本におけるユダヤ教史研究瞥見
3	ユダヤ教史研究の基本史料(1)
4	ユダヤ教史研究の基本史料(2)
5	儀礼とユダヤ教暦(1)
6	儀礼とユダヤ教暦(2)
7	古代イスラエルの宗教(1)
8	古代イスラエルの宗教(2)
9	ヤハウェ信仰の継承—ユダヤ人共同体の成立—(1)
10	ヤハウェ信仰の継承(2)
11	ラビのユダヤ教(1)
12	前期のまとめ・VIDEO
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ラビのユダヤ教(2)
2	ユダヤ教の諸党派(1)
3	ユダヤ教の諸党派(2)
4	ユダヤ教の展開(1)
5	ユダヤ教の展開(2)
6	ユダヤ教の展開(3)
7	現代ユダヤ教の諸問題(1)
8	現代ユダヤ教の諸問題(2)
9	儀礼とユダヤ暦(3)
10	儀礼とユダヤ暦(4)
11	ユダヤ人の食文化考
12	後期のまとめ・VIDEO
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A(比較教育)6(94年度以降)	担当者名	鳥谷部 志乃恵
-----	---------------------------	------	---------

講義の目標	本講義は、自然観の相違が宇宙観・世界観や人間観、ひいては教育観にどのような違いをもたらすかを、教育思想の視点から比較的に考察する。この考察を通して、現在の教育にも通底する自然観を明らかにし、かつ変化する現代社会の中で、人間の教育を方向づける新しい自然観を探究することを目標とする。
-------	--

講義概要	西欧文化の源流である古代ギリシアの思想から、自然科学が支配的な現代思想に至る歴史的過程の中に、代表的な自然観をとり挙げてその変遷を概観する。またそれぞれの自然観を代表する教育思想を比較的に考察する。
------	---

使用教材	テキスト	
	参考文献	『自然の観念』 R. G. コリングウッド著 みすず書房 『教育思想史』 I～IV 上智大学中世思想研究会編、東洋館出版

評価方法	評価は、2回のレポート提出によって決定する。
------	------------------------

受講者に対する要望など	
-------------	--

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	講義の進め方と参考文献について説明する。自然観を考察する今日的意義と重要性について述べる。
2	I 古代ギリシアの自然観と教育 (1)神話にみられる自然観……ゼウスとプロメテウスの対立について
3	(2)イオニアの自然哲学における自然観……自然の事物と自然界
4	(3)ピュタゴラス学派の自然観……自然における質的な相違と幾何学的構造の相違
5	(4)プラトンとカリクレスの自然観の比較……「自然に従って」と「自然に反して」
6	(5)「模倣」(ミメーシス)と「分有」(メテクシス)について——「バラ」はそれ自身の中に赤をもつことによつてのみ赤を模倣しうる。
7	(6)プラトンの教育論……『国家』編から
8	(7)アリストテレスの自然観……自然それ自体は過程であり、変化であり、成長である。
9	(8)アリストテレスの教育論……「すべての人間は、自然によって(生れつき)知ることを欲する」
10	II キリスト教の自然観と教育 (1)ユダヤ教思想にみられる自然観……神の業と神の似姿
11	(2)アウグスティヌスの自然観……現われくるものをある形で把握する我々人間の本性(natura)
12	(3)アウグスティヌスの教育論——言葉は記号である。記号は実在ではない。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	III ルネッサンス期の自然観と教育 (1)コペルニクスの自然観……世界は中心をもたない
2	(2)南イタリアの自然哲学者にみられる自然観……不動の動者としての超越的な神ではなく、内在的動者としての神性の発見
3	(3)ルネッサンス期の教育思想
4	IV 17世紀の自然観と教育 (1)機械論的自然観……科学的知識の対象としての自然と主観としての人間
5	(2)社会思想にみられる自然概念……自然権や自然状態(ホッブスとロックの比較)
6	V 18世紀の自然観と教育 (1)ルソーにおける自然観とフランス啓蒙思想……「心理的自然」について
7	(2)ルソーの教育論……「自然主義」の教育思想
8	(3)カントにおける自然観……科学的認識の根拠づけと目的論について
9	(4)カントの教育論……「自然」の他律において「自由」の自律を養う
10	VI 現代の自然観と教育 (1)生物としての自然……生命は新しいものの出現に至る創造の過程
11	(2)ゲーレンの人間学における自然観
12	(3)現代教育思想の課題としての自然観
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A(神話・説話の世界)7(94年度以降) 日本文化特殊講義A-4(93年度以前)		担当者名	肥田野 昌之
講義の目標	『古事記』『日本書紀』『風土記』『日本靈異記』などの古文献を読みながら、古代の神話や説話について概観する。そして古代人の豊かな心をさぐるとともに、その文学的特質を考え、また日本周辺の神話・説話からさらにギリシア神話など世界各国の神話との類似性や世界大拡布の説話との関連性についても言及したい。			
講義概要	<p>前期は主として、黄泉国訪問・天の石屋戸・ヤマタのオロチ退治・海幸山幸などの神話について、古代祭式や氏族伝承の問題などと関係させて解説したい。</p> <p>後期には、昔話「蛇喰入」「鳥女房」と親近な関連にある三輪山型説話や羽衣説話など異類婚姻譚といわれるものを中心にして広く伝説や仏教説話について考察してみたい。</p>			
使用教材	テキスト	阿蘇瑞校他『古代説話』笠間書院		
	参考文献	西郷信綱『古事記の世界』(岩波新書)		
評価方法	授業への出席および年度末試験によって決定する。			
受講者に対する要望など				

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	文献以前の歴史を概観するとともに、年間の講義概要を説明する。
2	天地創造の神話——記紀を中心として、世界の創成神話についても言及する。
3	黄泉国訪問——オルベウス型との比較や呪的逃亡譚について
4	天の石屋戸神話——特に鎮魂祭儀礼との関連について。
5	八俣大蛇退治——ペルセウス・アンドロメダ型との比較や生贄伝説について。
6	大国主神の神話——通過儀礼および死と復活・ジェソン型についても考える。
7	天若日子神話——ニムロドの矢との関連および招魂の歌舞など。
8	国譲りと天孫降臨——神々と神社について述べ、大嘗祭儀礼との関連についてもふれる。
9	木花之佐久夜毘売——聖婚儀礼について述べ、また世界各地の死の起源譚についても考える。
10	海佐知毘古と山佐知毘古、そのⅠ——失われた釣針型との比較や隼人舞の起源について。
11	海佐知毘古と山佐知毘古、そのⅡ——蛇女房・竜女伝説との関連について。
12	日本神話のまとめとして、その構造・特色や天孫系・出雲系あるいは北方系・南方系などについても考える。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	異類婚姻譚について、そのⅠ——三輪山型と昔話「蛇舁入」について。
2	異類婚姻譚について、そのⅡ——丹塗矢型（賀茂社縁起）および蟹満寺縁起など。
3	異類婚姻譚について、そのⅢ——羽衣説話（白鳥処女説話）と天人女房・鶴女房など。
4	異類婚姻譚について、そのⅣ——浦島説話と竜宮女房や亀女房および信田妻・女化稻荷と狐女房・芦屋道満大内鑑など。
5	沙本毘古と沙本毘売—ヒメヒコ制やヲナリ信仰などについても説明する。
6	倭建命——異常誕生・怪力・クマソ退治・悲劇的末路・神に転生など貴種流離譚との関連でも考える。
7	天之日矛——日光感精説話や卵生説話について述べ、百濟・新羅・高句麗や中国説話との関連についても考える。
8	赤猪子——赤猪子説話と皿々山説話について述べ、その歌謡についても考える。
9	筑波と富士・蘇民将来——祖神巡行説話・外来者歓待譚および祇園社縁起について。
10	まとめとしてプリント四枚を配り、年度末試験についての出題傾向とその対策を説明する。
11	道場法師譚および力女譚について——異常出生・異常な怪力・鬼退治など金太郎譚・桃太郎譚との類似についても考える。
12	仏教説話——善悪現報を得る話など。
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A(古代ギリシャ社会における日常生活)8(94年度以降) 西洋文化特殊講義A-3(93年度以前)		担当者名	古川 堅治
講義の目標	本年度は「古代アテナイの市民生活」と題し、都市国家(ポリス)アテナイの人々の日常の暮らしぶりを追うことによって、古代ギリシア社会の特質を考えてみたい。それはとりもなおさず、現代社会の特質をもその相違性において把握することにもつながる。そのようなパースペクティブの中で歴史を考えることが、本講義の目的である。			
講義概要	講義は概説的に進めていくが、関連するテーマについてはビデオなどの映像資料も駆使して理解を深める一助にしたい。毎回できるだけテーマごとに課題を設定して考えていくようにする。記憶するとか、暗記してもらおうとかいうものではないので、アト・ホームな雰囲気ですららの考え、感想なりが湧き上がるように期待する。			
使用教材	テキスト	特別に使用することはしない。		
	参考文献	その都度、指摘する。		
評価方法	前、後期2回のレポートと数回の小レポートで評価。テーマ・枚数等については授業中に提示する。			
受講者に対する要望など	積極的な姿勢で参加することを望む。			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「はじめに」 (1) 年間授業計画の概要 (2) 「日常生活史」の意義
2	「1. ポリスの構造」 (1) 空間構造 (2) 社会構造
3	「2. アゴラと市民生活」 (1) 弁論術と裁判 市民生活を支える「弁論」の術と裁判の関係を扱う
4	(2) 市民の一生 平均的アテナイ市民の一生をあとづける
5	(3) 子供の生活 子供の生態がどのようなものであったかを扱う
6	(4) 結婚 アテナイ市民にとって、結婚はどのような意味を社会的にもっていたかを扱う
7	(5) 年中行事(I) パンアテナイア祭——アテナ女神を祭るアテナイ最大の祭典を扱う
8	(6) 年中行事(II) ディオニュシア祭——ディオニュソス神の祭典と演劇の関係を扱う
9	(7) 年中行事(III) その他の祭典——諸々の祭典の内容と社会的意義を扱う
10	(8) 男の生活 男の日常生活を扱う
11	(9) 女の生活 女の日常生活を扱う
12	「3. 小 括」 前期のまとめと前期レポートの課題について
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「4. アテナイ民主政と帝国主義」 (1)民主政の成立——アテナイ民主政の形成過程を扱う
2	(2)民主政の構造——アテナイ民主政の構造的特質を扱う
3	(3)「デロス同盟」とアテナイ帝国主義——アテナイを盟主とする「デロス同盟」体制がどのように「アテナイ帝国」へと変貌したかを扱う
4	(4)支配の論理と抵抗の論理——アテナイ帝国内部での支配する側の論理とそれに抵抗する側の論理について扱う
5	(5)ペロポネソス戦争 ペロポネソス戦争がアテナイ社会にもたらした諸々の影響・結果について扱う
6	「5. 奴隷の生活」 (1)奴隷と「奴隷制社会」——奴隷の存在と「奴隷制社会」の関係を理論的に考える
7	(2)奴隷の用途——アテナイ社会で奴隷が実際どのような領域で働いていたのかを考える
8	(3)民主主義と奴隷——奴隷制の存在と民主政の関係を扱う
9	「6. ソクラテス裁判の意味するもの」 (1)ソクラテスとプラトン——プラトンを通してソクラテスの思想を復元する。
10	(2)ソクラテスの裁判の模様——実際のソクラテスの裁判の状況を扱う
11	(3)ソクラテスはなぜ裁かれたのか？——ソクラテスが裁判で裁かれ、刑死した意味を考える
12	「7. まとめ」 一年間の総括と後期レポート課題について
備考	

科目名	比較文化論特殊講義A(アラブ文化・芸術)9(94年度以降)	担当者名	本田孝一
-----	-------------------------------	------	------

講義の目標	<p>本講義ではアラブ文化、特にアラブの芸術に焦点を当ててその特性について考えます。またアラブ文化と日本文化との違いを考え、これからの国際化時代の中でわれわれはどのように生きるべきかを探ります。</p>		
講義概要	<p>講師のアラブとの具体的な関わりをいろいろな角度から紹介します。従って本講義はアラブ文化を広く浅く知識を提供するというものではなく、講師がアラブに対して熱い視線を向けている部分、あるいはアラブだけに関わるのではなく、人間としてどう生きべきかに関わる部分についても強調してお話していこうと考えています。</p> <p>特に講師がサウジアラビアの砂漠で経験したこと、考えたことを中心にお話しします。授業は映像（映画、ビデオ、スライドなど）を見ながら進行させる予定。</p>		
使用教材	テキスト	特に使用しません。	
	参考文献	その都度紹介します。	
評価方法	<p>初めに題を出し、簡単な作文を書いてもらいます。（できたらそれを受講生全員の作文集として一冊の本にまとめ印刷する予定。有料。）</p>		
受講者に対する要望など	<p>本講座は真にアラブ世界に興味をもっている人だけを対象とします。従って人数的にはあまり多いことを望みません。具体的にはオリエンテーションの最初の時間に教室（中教室）の席に座れる人数だけを原則にしたいと思います。まじめに受講したい人は早めに来て下さい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	Introduction
2	アラブ全体について、「アラブとは何か」ということを中心に考えます。『アラブの風土』のスライド等を観ながら、アラブの砂漠風土、および彼らの考え方の特性などを考えます。
3	アラブの言語であるアラビア語、およびその周辺の言語（ベルシャ語、ヘブライ語、トルコ語など）について紹介し、それらの言語と日本語や英語との違いなどを検討します。
4	アラブの衣食住研究(1)
5	” (2)
6	” (3)
7	アラブ文化の基礎となっている砂漠的文化について、その住民であるベトウィンの生活を、講師の実体験をまじえて紹介し、その特性を考えます。
8	講師のサウジアラビアにおける砂漠での生活で考えたことを話します。
9	アラブの芸術全体を、エジプト、カイロにあるイスラム芸術博物館のビデオを観ながら紹介していきます。
10	「アラビアのロレンス」(1)その映画を観ながら、アラブと西欧について考えます。
11	「アラビアのロレンス」(2)ロレンスという現代的個性をもった人物像に焦点をあて、なぜ彼が現代史のヒーローに祭り上げられたかを見てきます。
12	「アラビアのロレンス」(3)「アウトサイダー」としてのロレンスの実像を彼の自伝『知恵の7柱』から考察します。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アラブの宗教である「イスラム教」について紹介し、その誕生の意味や教義を考えます。
2	イスラム教の聖典『コーラン』を取り上げ、他の宗教との違い、ムスリムの考え方などを検討します。
3	アラブの芸術の中で最も際立った位置を占めているアラビア書道について、その名品を鑑賞しながらアラブ人の美意識を探ります。
4	講師が専門としているアラビア書道について、その歴史を紹介。あわせて講師の作品を紹介しながら書道芸術の将来的意義を考えます。
5	エジプト映画「バイナル・カスライン」(1) (エジプトのノーベル賞作家の小説)を観ながら、アラブ社会のあり方を探ります。
6	エジプト映画「バイナル・カスライン」(2)同映画を通じてアラブ社会の家族、男女問題などについて考察します。
7	エジプト映画「バイナル・カスライン」(3)
8	今世紀が生んだアラブ文学の異色の作家、詩人であるジブラーン・ハリール・ジブラーンについて、彼の代表作で、現代の聖書とまでいわれている『預言者』(プロフェット)の一部を読みながら、われわれがこの世界で生きる意味を考えます。(1)
9	ジブラーン・ハリール・ジブラーン(2)
10	アラブと関わりが深かった『星の王子さま』の著者でもあるサン・テグジュペリーを取り上げ、彼の人生に対する考え方をまとめた『人間の大地』特に、彼が砂漠で遭難し九死に一生を得た部分を読みます。
11	アラブの音楽、舞踊について、テープやビデオで紹介し、その特徴を考えます。
12	まとめ、講師のアラブとの将来的な関わりを話します。
備考	

科目名	比較文化論特殊講義B(ヨーロッパから見た日本思想)(94年度以降) 比較文化論特殊講義B(93年度以前)	担当者名	Bernard Stevens
-----	---	------	-----------------

(後期完結)

講義の目標	ヨーロッパから見た日本の近代哲学、および日本の近代哲学とヨーロッパ思想との比較を通して、日本文化とヨーロッパ文化の思想的基盤の違いを考察する。		
講義概要	最近ヨーロッパでは、日本の近代哲学（特に京都学派の哲学）が論じられることが多くなりつつある。本講義では、西田哲学、西谷啓治の哲学などを、フランス語・ドイツ語に翻訳されたものをもとにして、ヨーロッパの哲学者から見た日本の近代哲学の解釈とその問題点の剔出、そして哲学史上の位置づけを試みたい。なおこの講義は、ゆっくりとした、分かりやすい英語でなされるように心掛ける。		
使用教材	テキスト	講義中に指示。	
	参考文献	講義中に指示。	
評価方法	平常点かテストにするか、それともレポートにするかは、講義の進行と学生の要望を検討することによる決める。		
受講者に対する要望など	積極的に参加する用意のある人が望ましい。		

科目名	日本語学概論	担当者名	金田一 秀 穂
-----	--------	------	---------

講義の目標	母語である日本語を客観化するための視座を提供すること。日本語は、私たちの思考や感情を決定しているものかもしれない。その可能性や限界を少しでも明らかにしたい。	
講義概要	音声、語彙、文法、発話というレベルを通じて、日本語の意味の表し方を中心テーマとする。各外国語との対照も適宜行う。授業では学生の発言を強制する。	
使用教材	テキスト	
	参考文献	玉村文郎編 『日本語学を学ぶ人のために』 世界思想社 工藤浩ほか 『日本語要説』 ひつじ書房 林大編 『図説日本語』 角川書店（古書） 渡辺実 『日本語学』 岩波書店
評価方法	前期試験を予定。 後期はレポート。	
受講者に対する要望など	豊かな好奇心と柔軟な発想を持った学生の活発な発言を期待する。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	・日本語学の領域 共時態・一語意識・膠着語
2	・音声 シニフィアン・シニフィエ・拍（モーラ）の種類、数、構成
3	・音声 アクセントと弁別素・恣意性と意味 ・表記 文字文化と声文化 ・語彙 語彙の分類・出自
4	・語彙 外来語
5	・語彙 相対名詞・指示詞
6	・語彙 語構成・派生語
7	・語彙 数と語彙
8	・語彙 辞書論
9	・語彙から文法へ シンタックスと品詞
10	・文法 格・助詞
11	・文法 アスペクト
12	・文法 ヴォイス
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	・文法 モダリティ
2	・文法 複文・条件
3	・言語行動 発話・語用論・含意
4	・言語行動 敬語
5	・言語行動 送り手・受け手
6	・言語行動 会話の方法
7	・言語行動 話題
8	・言語行動 言語外知識
9	・言語変化 発生と変化
10	・言語変化 流行・将来
11	・教育 日本語教育
12	・位相 方言・隠語・アイデンティティ
備考	

科目名	日本語教育概論	担当者名	井口厚夫
-----	---------	------	------

講義の目標	日本語教育とは何か、今日本語教育に何が起きているかを理解する。	
講義概要	このコースでは、日本語教育がどのようなものなのかを紹介し、概観する。併せて日本語教育に関連した諸々の問題にも触れる。	
使用教材	テキスト	石田敏子著『日本語教授法』大修館書店 ¥2,266
	参考文献	
評価方法	前期試験・夏期レポート・後期試験の3つによって評価する。	
受講者に対する要望など	『日本語教授法』の前にこのコースを取ることが望ましい。 日本語を外国人に教えることに興味を持つ人は、まずこの授業から入ること。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	日本語教育とは何か・日本語教育と国語教育
3	日本人なら日本語が教えられるか
4	君の日本語は大丈夫か/日本語教育能力検定試験について
5	辞書の話/日本語学習者の姿
6	日本語授業の実際
7	日本語教育の歴史 1
8	日本語教育の歴史 2
9	教授法あれこれ——その歴史的発展と特長
10	日本語教育の現状 1
11	日本語教育の現状 2
12	日本語教育の抱える問題点
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	前期のテストの解答・解説
2	質問に答える
3	海外で教える
4	今日本語教育で何が起きているか
5	日本語と外国語
6	外国人の日本語
7	日本語教師論 1
8	日本語教師論 2
9	日本語教育の将来 1
10	日本語教育の将来 2
11	まとめ
12	(予備)
備考	

科目名	日本語教授法Ⅰ（94年度以降） 日本語教授法（93年度以前）	担当者名	中西家栄子
-----	-----------------------------------	------	-------

講義の目標	言語理論及び言語学習理論の理解を深めた上で、日本語教育に当たって必要とされる日本語の知識と具体的な日本語の教授法を習得する。		
講義概要	日本語を母国としているからといって日本語が教えられるということではない。この点をまずはっきりと自覚することが日本語を外国語として教えるに当たって必要になる。その上で、どのように日本語を分類或いは分析し、どのような順序で、どのように教えていったらいいのかという問題について具体的、実践的に考えて行く。基本的には講義が中心ではあるが、教案作成、教材作成、研究課題のクラス発表など、学生の積極的な参加が求められる。		
使用教材	テキスト	中西家栄子・茅野直子『実践日本語教授法』バベル出版 プリントのハンドアウト	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・D. スタインバーグ 『言語心理学』 研究社 ・A. C. Omaggio "Teaching Language in Context" ・名柄迪・茅野直子・中西家栄子『外国語教育理論の史的発展と日本語教育』アルク出版 ・『にほんごのきそⅠ、Ⅱ—教師用指導書』財団法人海外技術研修協会 ・ビビアン・クック 米山朝二訳『第2言語の学習と教授』研究社 	
評価方法	1) 中間・期末テスト 30%+30% 2) 課題提出 20% 3) 出席 20%		
受講者に対する要望など	本クラスを取るまえに日本語教育概論又は/日本語学概論を履修していること。また、日本語文法論・音声学等も履修していることが望ましい。実践的な内容の科目なので、出席を非常に重視する。 <u>従って6回以上の欠席は認めない。</u>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション
2	コースデザインの概要・ニーズ分析とシラバス・学習者の Variables
3	言語教育の基礎理論・第一言語習得・第二言語習得の違い
4	教材——1.教科書の分析・教材 初級・中級の文型と語彙 2.その他の専門教材
5	同上
6	教室活動と授業分析・教案の書き方
7	同上
8	音声の指導法 (Video) と教材の作成 同上
9	聴解の教材作成と指導 1.初級 2.中級 3.上級 同上
10	文字表記の指導と教材 1.平仮名・片仮名の導入 2.漢字圏・非漢字圏の学習者の指導
11	同上
12	同上
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	読解力の養成——精読・スキミングと教材作成 1.初級 2.中級 3.上級
2	同上
3	文法の指導と教材——意味と文型の導入 1.ドリルから応用へ 2.絵教材・その他の教材の作成と検討
4	同上
5	同上
6	会話指導と教材 (上級のディベート教材の作成)
7	同上
8	Video 教材の紹介とその使用方法
9	同上
10	作文の指導法と評価の方法
11	同上
12	評価とテストの作成法
備考	

科目名	日本語教授法Ⅱ（94年度以降） 日本語学特殊講義A（93年度以前）	担当者名	井口厚夫
-----	--------------------------------------	------	------

講義の目標	模擬授業及び授業見学を通して、日本語教育の実践的知識と技能の育成を図る。		
講義概要	前期目標は日本語教育実習への準備として、導入から練習までの教案を作成し、模擬授業をする。後期目標は実習での経験を踏まえ、外国語としての日本語表現・文法の導入・説明を行うための方法を考え、教材作成を行い、発表する。		
使用教材	テキスト	『しんにほんごのきそⅠ』・『しんにほんごのきそⅠ・教師用書』（スリーエーネットワーク）	
	参考文献	授業中に指導する。	
評価方法	教案提出・模擬授業・教材発表 ①模擬授業 ②教材の提出 ③模擬授業の反省と自己分析 ④テストは無し ⑤出席		
受講者に対する要望など	自分に与えられた課題をきちんと果たすこと。教授法のⅠは既習又は履習中であること。 <u>実習をする学生は是非履習してほしい。</u> 欠席5回以上は認めない。発表者が当日予告なく欠席した場合、単位はあげられません。		

年間講義予定

前期

週	主要テーマ
1	オリエンテーション
2	教材の研究・検討
3	教案の書き方とオブザベーション
4	模擬授業
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
13	

後期

週	主要テーマ
1	実習経験の報告と反省
2	初級・中級における文法・表現項目の確認と問題点
3	文法・表現の導入・練習のための教材開発と発表
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	同上
13	

科目名	日本語文法論	担当者名	城田 俊
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>伝統的な「助詞・助動詞論」に立って日本語の文法を把握しようとする江戸時代に開発された「活用」という概念に大きく頼らざるを得ない。そうすると、「未然形」という統一的理解が不可能な形態と「終止形」「命令形」という明確な語形を混在させる「活用」とは一体何かという問題にぶつかる。しかし、この理解しにくい「活用」の概念なくしても日本文法の記述は可能である。可能というばかりではない。より明快で、より統一性を持ち、より体系的で、小・中学生および外国人学習者に理解しやすい文法が現出する。新しい等身大の文法の構築を目標とする。</p>		
講義概要	<p>下記のテキストに基本的に従い、日本文法の常識的知識を整理する。</p> <p>その上で、語のかたちという観点から、その意味・機能・用法をとらえるよう努める。特に、タペロのような語尾のかたち、タベサセ(ル)のような語幹のかたち、読ンデイルのような結合的なかたちの区別を学び、文法カテゴリー・テンス・アスペクト・ヴォイス、モード、やり・もらい等の理解を深める。</p>		
使用教材	テキスト	井口厚夫・井口裕子『日本語文法整理読本』 バベル・プレス	
	参考文献	<p>①寺村秀夫『日本語のシンタクシスと意味』Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ くろしお出版</p> <p>②鈴木重幸『日本語文法形態論』 むぎ書房</p>	
評価方法	前期・後期各一回試験を行う。		
受講者に対する要望など	シラバスに記したものと授業とでは多少前後することがある。授業中受講者に質問することがある。積極的参加が望まれる。		

年 間 講 義 予 定

前 期

主 要 テ ー マ	
序論：形態と形態論、文法的形態、文法形態の展望、ダロウと推量形、語の活用と文の活用、語尾活用と語幹活用一語尾形と語幹形、基本語幹活用と二次語幹活用、語的つらなり	
文法的内容をとらえるめやす：ヒトと構成者一行為者・対象等、話とその構成者一話し手・聞き手・第三者、語形：動詞と名詞、語彙語幹と助辞、語尾助辞と語幹助辞、子音語幹と母音語幹、結合子音と結合母音等	
語尾形、語幹形、語幹形の語尾活用、語尾形：終止形一伝達話法と呼掛け話法、伝達話法一叙述語法と推量話法、叙述語法一現在形と過去形、推量話法	
呼掛け話法一命令話法と意志・勧誘話法、命令話法（形成・意味・用法）、意志・勧誘話法（形成・意味・用法）、連用形：接続形（形成・意味・用法）、条件形（形成・意味・用法）、例示形（形成・意味・用法）	
汎用形〔いわゆる連用形〕（形成・意味・接続形との競合、移動の目的表示、強調表現、二次語幹形のもととなる汎用形、語的つらなりのもととなる汎用形、語形成を行う汎用形一複合動詞、名詞形成、否定汎用形	
語幹形：基本語幹形（受身態の形成・意味・用法、使役態の形成・意味・用法、いわゆる自発、尊敬、肯定と否定）、複合語幹（否定語幹の後行特性、使役・受身態、使役・可能態、受身・可能態）	
二次語幹形：動詞語幹一過剰相スギル（形成・意味・用法）、尊敬ナサル、オ+汎用形+ナサル等、願望態形容詞タイ（形成・意味・用法）、願望態動詞タガル（形成・意味・用法）、傾向・容易態形容詞ヤスイ	
傾向態状詞ガチ・ギミ（形成・意味・用法）、可能態動詞エル・カネル（意味・用法）、動作相一段階相動詞の形成・意味・用法（始メル・始マル・ダス等、カエル、カカル、オエル、オワル、ヤメル、ヤム、サス等）	
様態相動詞の形成・意味・用法（統ケル・統ク・ツケル、ナレル・ナラワス、オボエル、タテル、マクル、チラス、マワル、アルク、ツメル、ハテル、シメル、スエル、返ス、タス、加エル、タリル、ツカレル等）	
将前相状詞の形成・意味・用法（ソウダ）、関連〔タクシス〕：ナガラ、ツツ、ツイデニ、ガテラ、カタガタ、シダイ等	
語的つらなり、汎用形ベースの語的つらなり一形成・意味・用法、尊敬汎用形ベースの語的つらなり、接続形ベースの語的つらなり：テシマク（形成・意味・用法）、テイル（形成・意味・用法）、テイク/クル、テミル等	
試験	

後 期

主 要 テ ー マ	
文形、文の活用、話法文尾助辞と待遇文尾助辞、文形変化、かわり文形、文のパラダイム、文形の語形変化、話法体系、話法一叙述話法と推量話法、叙述話法一平叙話法と既定話法（いわゆるノダ文）	
平叙話法（形成・意味・用法・待遇）、既定話法（形成・意味・用法、語話用、ノダッタ、ノデ、ノデ+主文とカラ+主文、ノデの共起制限、ニとは何か、状態汎用形、語的つらなり一ノデアル、ノデナイ、スコープ）	
推量話法、無確信話法一無準拠無確信話法と準拠無確信話法、無準拠無確信（カモンレナイ）文形（形成・意味・用法・語活用、他の文形の無準拠無確信文形化）、準拠無確信（ソウダ）文形（形成・意味・用法等）	
確信話法、無準拠話法、無準拠弱確信（ダロウ）文形（形成・意味・用法、他の文形のダロウ文形化）、無準拠強確信（ニチガイナイ）文形（形成・意味・用法、他の文形のニチガイナイ文形化、語活用、語的つらなり）	
準拠話法、内在準拠確信（ヨウダ）文形（形成・意味・用法・語活用、語的つらなり、他の文形の内在準拠確信文形化）、外在準拠確信（ラシイ）文形（形成・意味・用法、語活用、語的つらなり等）	
待遇一通常待遇と丁寧待遇（形成、動詞文+デスの使用制限、デスとマス、語活用、デンタとタデス、ナイデスとマセンとシマセン、ダ・ダロウ、デス・デショウ等の二重性、デ・ニ・ナラ等の諸問題）	
主語撲滅論について、主語と述語、ガ格の優位性、文法格と副詞格、一次機能と二次機能、ヲ、ガ、ニ、デ、カラ、ト(1)、ト(2)、へ、マデ、ヨリカ、ノ、連用補語と連用修飾語の区別、不定格	
副助詞、完全副助詞、不完全副助詞	
体言とは、正常体言、名詞とは、ダナニ状詞、ダノニ状詞、ダノゼロ状詞、不完全体言、ダナ状詞、ダノ状詞、タルト状詞、純副詞、連体詞	
日本文法への形態音素論的注解	
文法論（語論と文論）、形態素論の可能性、国文法における「活用」の概念、語幹変化か語形変化か、	
試験	

科目名	日本語音声学	担当者名	城田 俊
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>日本語音声の実践的・構造的把握をめざす。それは正しい日本語をみずから話すためばかりでなく、外国人に正しい標準的日本語を教え、発音上の誤りを矯正するのに役立つ。また、事象を構造的に、理論的にとらえるためにも音声の理論的把握は必要である。哲学的・思想的立場としてある構造主義も、また、現在人文科学で広く用いられる構造主義的手法も言語音声の研究成果を出発点としていることを忘れてはならない。</p>		
講義概要	<p>調音音声学の基礎を講じ、それを基盤にして日本語の子音・母音を調音面から解説する（講義の形態をとるが、時に受講者を指名して、発音練習を行うことがある）。次に音節に話しを進め、それがなす体系には基本体系と第二体系が併存し、その異なりと発展のメカニズムを明らかにする。アクセントの正しい学び方・教え方に話しを及ぼす。</p> <p>第二部としてある音素論では、位置の差に著目しながら子音体系・母音体系をとらえ、日本語にはいかなる子音音素・母音音素があるかを論じる。</p>		
使用教材	テキスト	城田俊 『日本語の音（おと）—音声学と音韻論』 ひつじ書房（トテスト版）	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・服部四郎 『音声学』 岩波書店 ・川上泰 『日本語音声概説』 桜楓社 ・猪塚元・猪塚恵美子 『日本語の音声入門』 バベル・プレス ・マリンベル・大橋保夫訳 『音声学』 白水社（文庫クセジュ） ・城生伯太郎 「現代日本語の音韻」『岩波講座日本語』 5 『音韻』 岩波書店 	
評価方法	前期・後期共定期試験期間中に試験を行う。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	第Ⅰ部 音声学、単音 ことばの音（おと）、1単音か2単音か、発音記号、調音器官
2	子音と母音（テキスト1・2併せて1—25頁）
3	子音の分類、調音点による分類、調音方法による分類、無音子音・有声子音、非口蓋化子音、口蓋化子音、有気音、無気音、重ね子音
4	子音の調音、閉鎖音
5	弱い閉鎖音、摩擦音（テキスト3・4・5併せて26—52頁）
6	弱い摩擦音、破擦音
7	鼻音、はじき音、ふるえ音、側面音（テキスト6・7併せて52—64頁）
8	母音、母音の分類、舌の位置、唇の丸め、ジョーンズの「基本母音」
9	母音の調音、長母音、無声化母音、鼻音化母音（テキスト8・9併せて65—79頁）
10	日本語の音節、基本体系（伝承された体系、閉鎖体系）、〔e〕〔i〕に関する規制、〔t〕〔ts〕〔d〕に関する規制、〔h〕〔Φ〕に関する規制、〔w〕に関する規制、第二体系（革新体系、開放体系）、両体系の差
11	結合表、基本体系における結合則、第二体系における結合則、長音節、促音付き音節、撥音付き音節、引き音付き音節、イ音付音節、拡大長音節、拍、日本語音節の特徴（テキスト 5・6併せて80—112頁）
12	アクセント、共通語のアクセント、他言語との対照、高さアクセント・強さアクセント、統語機能、固定アクセントと自由アクセント、意味機能、アクセント核（テキスト 113—124頁）
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	第Ⅱ部 音韻論、音素論(I)、母音音素、音素の定義、母音の分布、母音音素、第二体系の母音の分布、第二体系の母音音素（テキスト 127—146頁）
2	音素論(II)、子音の分布と子音音素、1.〔a〕位置、2.〔o〕位置（テキスト 146—155頁）
3	音素論(III)、3.〔ω〕位置、4.〔e〕〔i〕位置、子音音素まとめ（テキスト 156—163頁）
4	音素論(IV)、第二体系の子音の分布と子音音素、1.〔a〕位置、2.〔o〕位置、3.〔ω〕位置（テキスト163—169頁）
5	音素論(V)、4.〔e〕位置、5.〔i〕位置、第二体系の子音音素まとめ、基本体系と第二体系の比較、第二体系が目指すもの（テキスト 169—181頁）
6	音素論(VI)、特殊音素（テキスト 182—192頁）
7	弁別要素（素性）(I)、音素から弁別要素へ、-/j/の仮構、同じ音素か違う音素か、音素より小さな単位、弁別要素の簡単な解説
8	弁別要素(II)、弁別要素の簡単な解説（続き）、音声の弁別要素による特徴づけ（テキスト 2・3併せて 193—206頁）
9	弁別要素(III)、音節の各部分における弁別要素（テキスト 206—216頁）
10	音節図素、特殊音の図表化（テキスト 217—226頁）
11	第二体系の一般音節（テキスト 226—233頁）
12	無声化母音、基本体系と第二体系、文化の問題、「開れた受容性」と「同化による閉鎖性」
備考	

科目名	対照言語学	担当者名	中西 家栄子
-----	-------	------	--------

講義の目標	<p>二言語間（日本語と他の言語—基本的には英語）の様相を体系的に比較対照することによって、次のことについて理解を深める。 1) それぞれの言語についての体系的知識 2) 言語の背景にある発想法 3) 第二言語としての日本語習得への干渉 4) 日本語教育への応用</p>		
講義概要	<p>前期は講義中心であるが、後期は学生による課題発表を中心に授業を進める。学生が発表するテーマは、教師が指定する課題の中から選ぶ。基本的には文法項目の比較対照が中心になるが、言語行動などを含めた広い範囲のものを考えている。学生は実際の言語資料からデータを集め、それを自分なりに整理・分析した上で、参考文献等を使用してまとめることが求められる。なお、講義資料としては実際の誤用例を検討し、その原因の一要因として目標言語(日本語)と母語の相違を考えていく。</p>		
使用教材	テキスト	無し。但しテーマごとにプリントの配布があり、それが最終的にはテキストとなる。	
	参考文献	<p>安藤貞雄『英語の論理・日本語の論理』大修館書店 森田良行『日本語の視点』創拓社 水谷信子『日英比較話し言葉の文法』くろしお出版 国広哲弥編『日英語比較講座 1—4巻』大修館書店 吉川千鶴子『日英比較動詞の文法』くろしお出版 『講座日本語学』外国語との対照10、11、12 くろしお出版</p>	
評価方法	<p>1) 中間・期末テスト 30%+30% 2) レポートの発表と提出 30% 3) 出席 10% 欠席6回以上は認めない。</p>		
受講者に対する要望など	<p>テキストはなく毎回の配布プリントがテキストになる。従って、きちんと出席しないと授業についていけなくなることに注意。レポート発表は全員する。どのテーマで発表するか早くから考えをまとめておくこと。すくなくとも日本語学概論・日本語学は履修していることが望ましい。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

回	主 要 テ ー マ
	オリエンテーション：対照と誤用分析
	音声と音韻の比較(1)
	音声と音韻の比較(2)
	語彙体系（語種、造語法、語構成）(1)
	語彙体系（語種、造語法、語構成）(2)
	文字・数・文法性
	人称
	語彙（意味の比較）
	語彙（意味の比較）：学生発表
0	語順
1	コソアド
2	宿題の説明 場所の助詞
3	

後 期

回	主 要 テ ー マ
1	主語・主題（は・が）
2	名詞・名詞文
3	形容詞・形容詞文
4	学生の発表
5	主たるテーマ：(1) 自動詞・他動詞 (2) 受身・使役
6	(3) 否定 (4) テンス (5) アスペクト
7	(6) 省略 (7) 連体修飾 (8) オノマトペヤ
8	(9) 敬語 (10) ムード（推量・確信・説明）
9	(11) 言語行動（謝罪する・感謝する・誉める）
0	(12) 接続（原因・理由・条件）
1	(13) その他：日本語教科書にあるさまざまな表現について
2	
3	

科目名	日本語史	担当者名	小島幸枝
-----	------	------	------

講義の目標	<p>日本語は、まだ日本民族が文字をもたなかった文献以前の時代から現代まで、日本列島に行われてきた言語である。海洋の島国という地理的条件から、古来日本人には外来文化を消化・吸収する能力が培われてきた。このことは、日本語の歴史においてどのような面に成果があらわれ、どのように日本語を生成発展させてきただろうか。今年度は語彙をとりあげ、その史的変遷を辿ることを目的とする。</p>	
講義概要	<p>講述にあたって時代を日本の政治区分に従い、上代・中古・中世・近世・近代・現代に分けて、主として古辞書、各種文献資料によって、各時代ごとの語彙の特徴を知り、その変遷の要因を考察する。</p>	
使用教材	テキスト	<p>国語学会編：国語史資料集（武蔵野書院）</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 亀井孝他編『日本語の歴史』1～7（平凡社） ・ 永山勇『国語史概説』（風間書房） ・ 国語学会編『国語の歴史』（改訂版）（刀江書院） ・ 講座解釈と文法1～7（明治書院） ・ 山田孝雄『国語の中に於ける漢語の研究』（宝文館） ・ 土井忠生編『日本語の歴史』（至文堂） その他
評価方法	<p>前期・後期にレポート各1本</p>	
受講者に対する要望など	<p>日本史の基礎知識をもっていること。および国語学を受講した上で受講することがのぞましい。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	国語史のための時代区分
2	国語史の資料
3	国語史の概要 音韻史(1)
4	国語史の概要 音韻史(2)
5	国語史の概要 文字史(1)
6	国語史の概要 文字史(2)
7	国語史の概要 文字史(3)
8	国語史の概要 文法史(1)
9	国語史の概要 文法史(2)
10	国語史の概要 外来語
11	語彙史概要
12	上代の語彙(1)
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	上代の語彙(2)
2	中古の語彙(1)
3	中古の語彙(2)
4	中古の語彙(3)
5	中世の語彙(1)
6	中世の語彙(2)
7	中世の語彙(3)
8	中世の語彙(4)
9	近世の語彙(1)
10	近世の語彙(2)
11	近代の語彙(1)
12	現代語の展望
備考	

科目名	ドイツ語Ⅰ	担当者名	大串紀代子
-----	-------	------	-------

講義の目標	現代の生きたドイツ語の習得と、ドイツ語文化圏における歴史・文化及び社会的背景への理解を深めることを目的とする。	
講義概要	<ol style="list-style-type: none"> 1) 簡単な文法事項の説明 2) 実際の「読み、書き、話す」の実力をつける。 3) 教科書、プリントだけでなく、ビデオテープも適宜使用する。 4) 出来るだけ学生の主体的勉学を促す。 	
使用教材	テキスト	『Neue Chancen für die Partnerschaft, (男と女の未来)』 Ursula Richter/小川さくえ 同学社
	参考文献	
評価方法	平常点を重視する。	
受講者に対する要望など	主体的かつ積極的に参加すること。文法的誤り等は恐れないこと。	

科目名	ドイツ語Ⅱ	担当者名	渡部重美
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>簡単なドイツ語を聞き取り、話し、書く能力を身につけることを目標とします。もう少し具体的に言うと、一年間の授業が終わる時点で自己紹介、家族紹介、学生生活、身の回りの出来事などについてドイツ語で表現できるようになることが目標です。</p>
-------	--

講義概要	<p>ビデオ、カセットテープ等を使って簡単な日常会話、作文の練習をする。受講者数はそれほど多くならないはずなので、グループ練習、パートナー練習が中心になります。</p>
------	--

使用教材	テキスト	コピーで配布します。
	参考文献	必要に応じて、その都度指示します。

評価方法	<p>毎回の授業の積み重ねが重要なので、学期末にまとめて大きなテストはおこなわず、前回の授業の復習となるような小テストを毎回おこない、また、宿題を出し（といっても、ごく短時間で済むような宿題なので恐れる必要はありません）、あと授業への参加度を加味して評価します。</p>
------	---

受講者に対する要望など	<p>失敗、間違いを恐れず積極的に、コンスタントに授業に参加して下さる方の受講を希望します。</p>
-------------	--

科目名	フランス語Ⅰ	担当者名	柴田芳幸
-----	--------	------	------

講義の目標	このクラスは、フランス語の初級文法を、思い切って耳と口と手で体得させることを目標とする。いわゆる文法的説明と理解は、後から付随する。		
講義概要	採用教科書の方針に従い、録音テープとテープレコーダーを活用して、各課とも、耳と口で、①理解、②反復、③フランス語→日本語、日本語→フランス語の反応過程がスムーズに消化できるように授業を進める。つまり同一の素材が工夫・編集してテープに吹き込んであるので、テープにより基本文例を耳と口で覚えてしまうのが先決である。次に文法の要点を解説し、課のポイントを理解させる。最後に知識の血肉化をめざして、書取りの小テストを毎回実施し、採点して返却する。		
使用教材	テキスト	大賀正喜著『フランス文法耳から口へ』（第三書房、1000円）	
	参考文献	手ごろな辞書が一冊あればよい。	
評価方法	毎回行う小テストの累計と、期末に実施する筆記試験の結果とを平均して、総合的に判断する。		
受講者に対する要望など	外国語の習得には、何よりも、「習うより慣れろ」（諺）の実践が望ましい。		

科目名	フランス語Ⅱ	担当者名	佐藤領時
-----	--------	------	------

講義の目標	初級文法を復習しながら、読む、聞く、話す、書くといった総合的な基礎力のレベル・アップを目指す中級フランス語のクラスです。		
講義概要	通常の語学授業の形態をとりますが、使用する教材が、日常会話や手紙、コミックや雑誌の記事などバラエティに富んだ内容のテキストなので、テープを多用し、聞き取り、書き取り、仏作文などにも力を入れます。		
使用教材	テキスト	『コム・ボンジュール』 白水社	
	参考文献	特になし。	
評価方法	前・後期の定期試験に、平常点を加味します。		
受講者に対する要望など	フランス語Ⅰか初級フランス語の既習者が対象です。		

科目名	スペイン語Ⅰ（総）	担当者名	佐藤 勘治 J. L. Velasco
-----	-----------	------	------------------------

講義の目標	<p>スペイン語を初めて学ぶ学生を対象として、口頭練習を中心にしながら、スペイン語文法の基礎と基礎的会話の習得を目的とする。具体的には、あいさつや自己紹介、所在に関する表現、数に関する表現、現在形での質問と依頼ができ、その答えについても話し、聞き取れることを目的にする。</p>		
講義概要	<p>この授業で学ぶ文法項目は、直説法現在、命令の用法、疑問詞、形容詞、名詞、代名詞、数などである。点過去まで進みたい。日常的によく使う会話文については、順次練習をおこなう。受講生の積極的口頭練習が求められる。テキストでは第1課から第6課までである。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>i Hola, amigos!</i> (芸林書房)</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅰ総の進行にあわせて口頭練習をおこなうスペイン語ⅠLが用意されているので、同時履習を要望する。</p>		

科目名	スペイン語 I (L)	担当者名	高松 朋子
-----	-------------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語 I 総を補う授業である。テープおよびビデオ教材を使って、自然なスペイン語会話力（聞き取りと話す能力）を養うことを目的とする。</p>		
講義概要	<p>スペイン語 I 総と同じテキストとテープ、およびビデオ教材などを使い、スペイン語 I 総の進度にあわせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語 I 総で主におこない、この授業では練習を中心にする。ビデオ教材も使って、耳からだけでなく映像を通してテキストを補いたい。進度については、スペイン語 I 総のシラバスを参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>i Hola, amigos!</i> (芸林書房)</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、年 2 回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語 I 総との組み合わせで受講すること。</p>		

科目名	スペイン語Ⅱ（総）	担当者名	高松 朋子
-----	-----------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅰ総の続きの授業である。スペイン語Ⅰ総の既習者を対象として、より進んだ文法の習得と、その文法内容をつかうより進んだ聴取力、理解力、口述能力の習得を目的とする。</p>		
講義概要	<p>主な文法項目は、線過去、命令、動詞の原形の使い方、現在分詞、過去分詞および接続法である。また形容詞、冠詞、前置詞など既習事項についてより高度な使い方の練習をおこなう。テキストの第7課から第12課を予定している。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>¡Hola, amigos!</i></p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、年2回の定期試験によって評価する。担当者によっては小テストをおこなう場合がある。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語ⅡLとの組み合わせで受講することを要望する。</p>		

科目名	スペイン語Ⅱ(L)	担当者名	佐藤 勘治
-----	-----------	------	-------

講義の目標	<p>スペイン語ⅠLの続きの授業である。スペイン語Ⅰ総の既習者を対象にして、スペイン語Ⅱ総の進度に合わせてより高度なスペイン語会話力（聞き取りと話す能力）を養うことを目的とする。</p>		
講義概要	<p>スペイン語Ⅱ総と同じテキストとそれに準拠したテープ教材を使い、スペイン語Ⅱ総の進度に合わせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語Ⅱ総で主におこない、この授業では練習を中心にする。また別のビデオ教材も使って、耳からだけでなく映像を通してテキストを補いたい。進度については、スペイン語Ⅱ総のシラバスを参照のこと。</p>		
使用教材	テキスト	<p><i>¡Hola, amigos!</i></p>	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、授業への積極的参加、および毎時間の小テストによって評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅱ総との組み合わせで受講すること。</p>		

科目名	スペイン語Ⅱ（読）	担当者名	佐藤 勘治
-----	-----------	------	-------

講義の目標	<p>第三外国語でスペイン語Ⅰをとった学生を対象に、文法の進度に合わせた簡単な読み物を教材にして、スペイン語の読みの能力を高めることを目標にしている。また、スペイン語を読むことで、ラテンアメリカおよびスペインの文化や社会を知るきっかけになるよう、教材に配慮したい。未出の文法事項については、適宜補う。</p>		
講義概要	<p>教材については、受講する学生が関心をもてるものと考えている。前回の例では、ラテンアメリカを代表する漫画マファルダ、メキシコに現れた聖母（グアダルupesの聖母）の物語などを教材とした。</p>		
使用教材	テキスト	プリントを用意する。	
	参考文献		
評価方法	出席と積極的な授業参加、および予習の程度をみながら総合的に判断する。		
受講者に対する要望など	スペイン語Ⅰ既習者の積極的参加を希望する。また、スペイン語Ⅱとの同時受講が望ましい。		

科目名	スペイン語Ⅲ（総）	担当者名	北岸 団
-----	-----------	------	------

講義の目標	<p>第三外国語としてのスペイン語の三年目である。スペイン語Ⅱ総の既習者を対象として、より高度で総合的なスペイン語能力の習得を目的とする。主要な文法項目をすべて身につけ、口頭表現に加えて文章を作る能力を習得させたい。</p>		
講義概要	<p>スペイン語Ⅱ総に引き続いて、復習をおこなった上で、同じテキストを順次進めていく。既習の文法項目のより高度な表現法をまなぶとともに、接続法の使い方、表現法も課題とする。テキストは、Unit13 からである。</p>		
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)	
	参考文献		
評価方法	<p>出席状況、授業への積極的参加、および年2回の定期試験によって評価する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅱ総の既習者は、履修を是非考慮していただきたい。スペイン語ⅢL、およびスペイン語Ⅲ読との同時履修を希望する。</p>		

科目名	スペイン語Ⅲ (L)	担当者名	霞 洋子
-----	------------	------	------

講義の目標	<p>スペイン語Ⅱ (L) の続きの授業である。スペイン語Ⅱ 総の既習者を対象にして、スペイン語Ⅲ 総の進度に合わせてより高度なスペイン語会話力 (聞き取りと話す能力) を養うことを目的とする。</p>	
講義概要	<p>スペイン語Ⅱ 総と同じテキストとそれに準拠したテープ教材を用い、スペイン語Ⅲ 総の進度にあわせて口頭練習をおこなう。文法についての解説などはスペイン語Ⅱ 総で主におこない、この授業では練習を中心にする。また随時別のビデオ・スペインニュース等を通して生きたスペイン語の世界に触れ、聞き取りの練習に役立てる。進度については、スペイン語Ⅲ 総のシラバスを参照のこと。</p>	
使用教材	テキスト	Modern Spanish (Harcourt Brace)
	参考文献	
評価方法	<p>出席状況、授業への積極的参加、および年2回の定期試験によって評価する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>スペイン語Ⅱ 既修者は履修をぜひ考えていただきたい。</p>	

科目名	スペイン語Ⅲ（読）	担当者名	野々山 ミチコ
-----	-----------	------	---------

講義の目標	スペイン・ラテンアメリカの現代短篇小説を読み、その文化の特殊性について考える。		
講義概要	授業に用いる教材のコピーはそのつど配付する。同時に文法の復習を行なう。		
使用教材	テキスト	コピー配付	
	参考文献	とくになし	
評価方法	授業への参加度とテストによる。		
受講者に対する要望など	予習をきちんとしてくること。		

科目名	ロシア語Ⅰ	担当者名	井上幸義
-----	-------	------	------

講義の目標	<p>ロシア語は、単語の活用が多く、取っつきにくい言語だと言われていますが、その取っつきにくさを親しみに変えるには、少しでも慣れることが必要です。本講義ではロシア語の骨組みをつかみ、少しでもロシア語に慣れることを目標とします。</p>		
講義概要	<p>全くの初学者を対象としており、アルファベット、発音から始めます。最も基礎的な文法書を教材として使い、名詞の格変化、動詞の現在人称変化、過去時称形、未来形、形容詞の用法などを中心に学び最も基本的な構文が理解でき、使えるようにします。講義はゆっくりといねいに進めます。</p>		
使用教材	テキスト	『はじめてのロシア語』（桑野隆著、白水社）	
	参考文献	『博友社ロシア語辞典』	
評価方法	<p>前後期それぞれ1回ずつ試験を行ない、それに基づき評価を下します。尚、参考として出欠を取ります。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	ロシア語Ⅱ	担当者名	井上幸義
-----	-------	------	------

講義の目標	ロシア語Ⅰで学んだロシア語の基本的な構文を、会話を通して習得し、さらにそれを発展させることを目標とします。		
講義概要	ロシア語Ⅰを昨年履習した学生、あるいはロシア語文法の初歩的知識を一通り持っている学生を対象とします。日常的な会話を中心に、あいさつの表現、様々な動詞を使った表現（過去、現在、未来時称など）を学んでいきます。		
使用教材	テキスト	『新ロシア語教程』（狩野享、A. アキーシナ共著、ナウカ株式会社）	
	参考文献	博友社ロシア語辞典	
評価方法	前後期それぞれ1回ずつ簡単な発話形式の試験を行ない、それに基づき評価を下します。尚、参考として出欠を取ります。		
受講者に対する要望など			

科目名	中国語 I	担当者名	秦 敏
-----	-------	------	-----

講義の目標	<p>はじめて中国語を学ぶ学生を対象とします。正確な発音と初歩的な文法が身につく、ある程度の読解力を身につけること、要するに初歩的な知識のすべてに通じることを一年間の目標とする。</p>		
講義概要	<p>講義の内容は発音、文法です。発音は声調から母音、子音の発音と組合せまで、文型は挨拶、買物、旅行など初歩段階で必要と思われる重要表現項目を例文に応じて配布し、文法は例文を学ぶことによって理解を深める。</p>		
使用教材	テキスト	榎本英雄『言える中国語』 同学社	
	参考文献		
評価方法	<p>評価は前後期とも筆記試験と出席回数によって行う。</p>		
受講者に対する要望など	<p>復習と予習することを望みます。</p>		

科目名	中国語 I	担当者名	張 継 濱
-----	-------	------	-------

講義の目標	入門から始めて、総合的な語学能力を養成することを目標とします。		
講義概要	<p>一か月目は、発音と簡単な挨拶などに当てます。正しく発音できるかどうかはこれらの一年間の中国語学習に、直接影響することになるので、教師の発音を真似て、テープを聞きながら、繰り返し練習する。発音の矯正を徹底します。</p> <p>二か月目から、文法にはいります。文法項目の説明を行い、文法重点に基づいて、中国語による問答、簡単な会話などを行います。</p>		
使用教材	テキスト	『ベーシック・チャイニーズ』 張継濱 著 白帝社	
	参考文献		
評価方法	授業中の学習態度、出席、テストなど総合評価する。		
受講者に対する要望など	予習、復習を行うこと。		

科目名	中国語 I	担当者名	頼 明
-----	-------	------	-----

講義の目標	初めて中国語を学習する学生を対象とします。正確にピンインが発音でき、初級段階において必要な基礎的な文法事項や日常会話の習得、平易な文章の読み書きができることを目標とします。		
講義概要	テキストを中心に、発音を繰り返し練習し、文法や文型について説明し、実際に習得した単語を用いて各自で文を作り、発音します。		
使用教材	テキスト	守屋宏則／余延玲『中国語プレリユード』朝日出版	
	参考文献	授業中に必要に応じてその都度紹介します。	
評価方法	出席を重視します。授業態度を平常点として、小テストや前後期の筆記試験を総合して評価します。		
受講者に対する要望など	無断に欠席せず、予習・復習を必ずしてください。		

科目名	中国語Ⅱ	担当者名	陳 跡
-----	------	------	-----

講義の目標	この授業は、聴く力と会話力の向上を第一目標とします。授業の対象は初心者およびある程度の能力を有している者にも配慮して進める。	
講義概要		
使用教材	テキスト	『リピート中国語』 相原茂・玄宜静 朝日出版社
	参考文献	
評価方法	成績評価に当たっては、平常点と定期試験をほぼ均等に扱う。	
受講者に対する要望など	履習者の出席と復習を期待します。	

科目名	朝鮮語 I	担当者名	朴 勇 俊
-----	-------	------	-------

講義の目標	<p>朝鮮語を初めて学ぶ人を対象に朝鮮語と日本語の共通点、類似点を示し、学習の容易さと有用性を理解させながらハングル文字の読み書き、辞書の活用ができるようにするとともに、実用会話を入門指導する。</p> <p>会話の学習については韓国固有の民俗、歴史、生活、芸術、衣食住等のストーリー性のある題材、日常生活で当面する様々な典型的局面や節目での文型、会話を選び、そのような場面を想定、再現することで実感を深めながら反復指導する。また写真、スライド、ビデオ等をも活用することで臨場感を深め積極的に学習に取り組むようにする。</p>	
講義概要	<p>(1)朝鮮語の特徴と学習への取り組み方の理解・体得 朝鮮語の特徴、特に「ハングル」の構造を日本語およびその文字との比較からわかりやすく説明する。</p> <p>(2)朝鮮語の文字、文章の理解と解説 辞書の活用による「ハングル」の解説、「ハングル」による表現、「ハングル」の音韻的法則を指導する。</p> <p>(3)実用会話 基本会話文（あいさつ、自己紹介、基本的感情表現、ショッピング、食事の注文等の日常生活に必要な表現）を厳選し学習者同士が役割を変えながら問答型の会話の反復練習をする。</p>	
使用教材	テキスト	『韓国語学習－基礎から完成まで－』 朴勇俊（プリント）
	参考文献	参考書や辞書等は後日指定する。
評価方法	評価は原則として定期試験と授業へのとりくみ、出席状況等を総合的に判定する。	
受講者に対する要望など	外国語の学習は学習者が持続的な学習や訓練に対応する積極的な興味や関心、持続的努力などを一貫して維持できるかどうかによって成果が左右される。意欲を持って主体的に取り組む姿勢を身につけてほしい。	

科目名	朝鮮語Ⅱ	担当者名	朴 聖 雨
-----	------	------	-------

講義の目標	<p>日常の朝鮮語会話を正確に聞きとれるようにし、多様な状況、場面に応じて適切な会話表現が可能になるべく指導する。また辞書を使用しながら長い文章を読み、書くことができるようにする。</p> <p>映画やテレビ、ラジオ等の朝鮮語を聞いて理解できるようにし、実際のドラマの脚本等にそって実演することを通して生きた会話ができるように練習する。</p>	
講義概要	<p>日常生活で遭遇する多様な状況を教室に設定し、実体験にみあう会話を身につけるようにする。</p> <p>また朝鮮語は単なる意思疎通の用具にとどまらず、朝鮮人の習俗や伝説や文化の結晶体であることを実感させ、朝鮮の歴史や文化や生活の諸相について関心を高め、理解を深めて行く。個別指導を基本とし、自学自習が可能なテキストによって講義を進めて行う。</p>	
使用教材	テキスト	朴勇俊編著『韓国語の活用』（未刊プリント）、1993
	参考文献	朴 聖雨・金 貞淑『韓国語の完成』同文書院、1988年
評価方法	<p>前・後期各1回の定期試験を基本に授業への取り組み、出席状況等を含め、総合的に判定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>はじめは、出来なくても、継続すれば必ず上達するので積極的に取り組むこと。</p>	

科目名	アラビア語Ⅰ	担当者名	本田孝一
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>アラビア語は中東21カ国の共通の国語であり、ユネスコなどの国連機関の公用語の一つです。このようにメジャーな国際語のアラビア語であるにもかかわらず、日本ではまだまだ西語偏重の中で、その重要性を認められていないのが現状です。本講義ではそれを少しでも是正すべく一人でも多くの受講生にアラビア文字をはじめとしたアラビア語の世界に親しんでもらうことを目標とします。</p>		
講義概要	<p>本講義では、語学だけの勉強ではなく広くアラブ世界に関心を向けることができるようにアラブ世界に関わるいろいろな側面を紹介していきます。例えばアラブの文化、習慣、ものの考え方など、ビデオやスライドを使いながら紹介していこうと考えています。</p>		
使用教材	テキスト	本田孝一『アラビア語の入門』（白水社）	
	参考文献	『パスポート初級アラビア語辞典』（白水社）	
評価方法	<p>学期末に簡単な会話をやってもらいます。</p>		
受講者に対する要望など			

科目名	アラビア語Ⅱ	担当者名	本田孝一
-----	--------	------	------

講義の目標	<p>昨年アラビア語Ⅰを受講した人を原則的に対象とし前年度のつづきを勉強します。受講生のみなさんがアラブ世界に関心を抱き、自分で興味の対象を定め、将来的にそれを伸ばしてゆけるようにすることが目標。意欲のある方ならアラビア語Ⅰを受講していない人も可。</p>	
講義概要	<p>授業はかならずしもテキスト通りに行なうということではありません。受講生の希望に従ってバラエティーに富んだ授業をしていきたいと考えています。</p> <p>昨年は講師の専門であるアラビア書道の実習を行ないました。今年も希望が多ければ、書道を中心に進め、最終的に各自書道作品を一点仕上げてもらおう予定。</p>	
使用教材	テキスト	本田孝一『アラビア語の入門』（白水社）
	参考文献	『パスポート初級アラビア語辞典』（白水社）
評価方法		
受講者に対する要望など		

科目名	古典ギリシア語	担当者名	古川 堅治
-----	---------	------	-------

講義の目標	一年間の授業を通して、古典ギリシア語を着実に読み、書き、話すことができるようになることを主目的とする。そのため簡潔にまとめられたテキストを使い、確実にテキストを終了できるようにする。また、古典ギリシア語の学習を通して古代ギリシア文化や現代ギリシア文化にも触れてみたい。		
講義概要	毎回、単元を1～2ずつ学習するペースで進む。授業はアト・ホームな雰囲気、気軽に行ないたい。毎回出席は必ずするように心掛けること。		
使用教材	テキスト	田中美知太郎・松平千秋『ギリシア語入門 改訂版』（岩波全書）	
	参考文献	特になし。	
評価方法	出席による問題解答を繰り返し行なうので、特別にテストや試験は行わない（平常点による評価）。		
受講者に対する要望など	だれでも一年間真面目に学ぶならば、ギリシア語はマスターできる。未知で貴重な古典語を気軽に学んで欲しい。時には音楽やビデオでギリシア文化に触れるので、興味ある人の来講を拒まない。		

科目名	ラテン語	担当者名	松田 治
-----	------	------	------

講義の目標	<p>古典ラテン語はむずかしそうに見えますが、語尾変化の約束を理解すればわりあい簡単なものです。</p> <p>前期はそのような約束を多少身につけて、簡単なラテン語の文章をつづれるようにしましょう。その文を現在学んでいる近代語に直して比べたりできるようになれば、きっと楽しいことでしょう。</p> <p>後期は簡単な文章を読みます。</p>		
講義概要	<p>前期：動詞の活用（現在、過去、未来、完了、受動態、形式受動態）、名詞、形容詞の格変化、前置詞の用法、など。</p> <p>後期：ギリシャ神話やローマの歴史などを述べる簡単なリーダー。</p>		
使用教材	テキスト	<p>『詳解ラテン文法』（樋口・藤井共著、研究社）</p> <p>『初等ラテン語読本』（田中秀央著、研究社）（プリントを配布）</p>	
	参考文献	<p>授業中に指示します。</p>	
評価方法	<p>どれだけ積極的に授業に参加したかを重視します。試験の成績だけではなく、総合的に判断します。</p>		
受講者に対する要望など	<p>精神的かつ時間的ユトリのある諸君を歓迎します。つまり予習できる人です。部活などで忙しいことが予め分かっている方は、ご遠慮ねがいます。</p>		

科目名	共通演習 (94年度以降)	担当者名	有吉 広介
-----	---------------	------	-------

講義の目標	現代の英国社会を学ぶ——現代の英国社会では、従来の社会構造に基礎を置く生活様式と、新しく起こってきた社会構造および文化に対応する生活様式とが混じりあって、ときには社会問題も生まれている。そこで、英国の社会構造や文化に関する社会学的分析を中心にして、英国人の行動様式や生活文化を深く理解することを目標とする。		
講義概要	まず現代イギリスにおける家族と家庭生活を取りあげて、社会が変化するなかで、伝統的なタイプとは違うさまざまな家族とその生活が生まれていて、そして人びとが結婚や家庭生活に関して不安感をいだくようになってきているのを見る。第二に、英国の都市生活を取りあげて、都市とその周辺部との間に生活機会の不平等問題が起こっていたり、あるいは都市の機能が、物質文明の中心地としてよりもサービス文化のメッカに変貌しつつある様子をさぐる。第三に、現代の英国の教育制度を取りあげて、社会や文化を再生産する場である学校が、職業教育の場あるいはエリート選別の場になっている点を見る。最後に、階級社会といわれる英国の社会構造を取りあげて、英国人の生活の多様性を見る。		
使用教材	テキスト	なし	
	参考文献	適時指示したり、または作成したものを配布する。	
評価方法	前・後期2回のレポートの評価による。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	日英の家族構造の比較
2	同上
3	英国における家族構造の階級差
4	近年における家族の多様化
5	田園地域の生活
6	都市生活の新しい傾向
7	同上
8	教育制度
9	教育と経済的生産との関係
10	隠れたカリキュラム
11	教育における不平等
12	社会的および文化的再生産
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	英国の階級社会の概観
2	最近の職業構造
3	階級構造の図解
4	所得および資産の分布状況
5	貧困の問題
6	労働階級の姿
7	同上
8	新しい労働者は出現したか
9	中間階級の多様性
10	サービス階級
11	英国の上流階級
12	まとめ
備考	

科目名	共通演習(94年度以降)	担当者名	飯島一彦
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>日本各地に現在でも無数に伝承されている民俗芸能について取り組み、そこに潜む「日本人」の価値観・感覚・感情・発想の原型、及びそれらを根底に置いた人間関係・社会組織・行動規範・様々な人生の様態等を、具体的に伝承の現場を体験・実感することを中心にして認識する。従って、少なくとも全体で一回以上、個人では数度にわたる現地調査を遂行する。</p>		
講義概要	<p>アプローチの方法は三つ。第一に民俗学の基礎的知識と分析の方法の獲得である。民俗伝承全体の中で芸能の伝承及びそれに対する追求がどの様に位置付けられるのか、講義及び参加者個々に課せられるリサーチによって構成される。これは前期前半に集中的に行なう。</p> <p>第二はどの民俗芸能を具体的な対象とするかの検討と決定である。これはすでに発行されている記録・報告類・各市町村で把握している情報、演習参加者が個人的に得ている情報等を元に行なわれる。前期中に行なう。</p> <p>第三は具体的な現地調査、及びその報告と検討である。後期をこれに費やす。現地調査は夏期もしくは秋期の予定。</p>		
使用教材	テキスト	『日本民俗学』(弘文堂入門双書、弘文堂、1984、東京、ISBN 4-335-57029-5、1340円税込)	
	参考文献	<p>主要なものについては最初の時間にその一覧を配付する。その他については、時間中にその都度指示する。</p>	
評価方法	<p>前期にレポートを一回、後期に現地調査のまとめ(レポート)を提出。及び平常点(出席点ではない)。</p>		
受講者に対する要望など	<p>民俗芸能に関する予備知識を必ずしも必要としない。ただし、みずから調査し参加する意志を持たないものは出席しても無駄である。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	演習の内容・年間予定の概要説明。民俗・民俗学・民俗芸能・民俗芸能を研究することの意義等について概説。参考文献一覧を配付、解説。
2	民俗芸能の研究手法・研究史について概説。参加者各個人の担当リサーチのテーマを決定。
3	日本民俗学史・学の構成・最近の問題意識等について概説。参加者各個人の対象とする民俗芸能に関する調査の報告。
4	リサーチ報告「社会伝承」。参加者各個人の対象とする民俗芸能に関する事前調査の報告。及びそれらの検討。
5	リサーチ報告「経済伝承」。参加者個人の対象とする民俗芸能に関する事前調査の報告。及びそれらの検討。
6	リサーチ報告「儀礼伝承」。参加者個人の対象とする民俗芸能に関する事前調査の報告。及びそれらの検討。
7	リサーチ報告「信仰伝承」。参加者個人の対象とする民俗芸能に関する事前調査の報告。及びそれらの検討。
8	リサーチ報告「言語伝承」。参加者個人の対象とする民俗芸能に関する事前調査の報告。及びそれらの検討。
9	リサーチ報告「芸能伝承」。参加者個人の対象とする民俗芸能に関する事前調査の報告。及びそれらの検討。
10	実施調査の実例の説明（例として：八潮市の民俗芸能概説。「三匹獅子舞」概説）。夏期もしくは秋期の民俗芸能調査の対象を決定。夏期休暇中の課題決定。
11	実地調査の実例の体験（例として：八潮市の民俗芸能）、現地実地調査（フィールドワーク）。
12	参加者各個人の対象とする民俗芸能に関する事前調査の報告、及びそれらの検討と、夏期もしくは秋期の民俗芸能調査の対象を決定することに関しての予備日。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	夏期休暇中の課題の報告、及び検討。参加者各個人の対象とする民俗芸能に関する実地調査の報告、補完調査の内容、及び調査報告（レポート）の形式・内容について検討。
2	2～11（この間同じ） 参加者各個人の対象とする民俗芸能に関する実地調査の報告、補完調査の内容、及び調査報告（レポート）の形式・内容についての検討・指導。
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	各自の調査報告の提出。年間のまとめ。
備考	

科目名	共通演習(94年度以降)	担当者名	井口厚夫
-----	--------------	------	------

講義の目標	外国人にも使える日本語の辞書を作成する。		
講義概要	<p>現在、国語辞書は様々なものがあるが、これらは日本人が使うことを前提にしたものばかりで、日本語を勉強する外国人が使うことを想定した本格的な辞書ではない。諸君も英語等の辞書を使っていて感ずるところがあるだろうと思う。この授業では外国人が使うための辞書作りについて論じ、かつ実際に作ってみたい。ただし辞書を作る、といってもせいぜいそのプロトタイプを示す程度しかできないだろう。どのようなことについてどのように書くかというフォーマット作りから始めなければならない。前期は既存の辞書の研究にほぼ費やされる。その途上で日本語の品詞に関するかなりつまこんだ知識に触れることになる。作成されたものは何らかの形で発表するつもりである。</p>		
使用教材	テキスト	<p>国広哲弥他著『ことばの意味』平凡社 この他に国語辞書数冊。</p>	
	参考文献		
評価方法	<p>授業における発表の出来と前・後期レポートによる。なお、担当発表の当日に無断欠席した学生には単位は与えられない。</p>		
受講者に対する要望など	<p>辞書作りはコツコツと地道なものであるので覚悟して受講されたい。前・後期とも学生の発表が中心。積極的に参加されたい。時間外の作業多し。データ整理の都合上パソコンの使い方を覚えてもらう。</p>		

科目名	共通演習(94年度以降)	担当者名	城田 俊
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>語と語は意味・文法・文体のみならず慣用によって結びつく。この慣用をいかに把握し、記述するか。いまだ未開拓の問題に様々な面から光りを与え、解明のいとぐちをつかむことをめざす。</p>	
講義概要	<p>形容することばと形容されることばの関係、名詞と動詞の結合上の関係等シンタグマティックな結びつきのみならず、代りに用いられるというパラディグマティックな関係を具体例に則して明らかにしていく。</p>	
使用教材	テキスト	<p>城田俊『ことばの縁—構造語彙論の試み』 リベルタ出版</p>
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ Explanatory Combinatorial Dictionary of Modern Russian. Wiener Slawistischer Almanach Sonderband 14 Vienna 1984 (I. A. Mel'cuk and A. K. Zholkovsky) ・ Dictionnaire explicatif et combinatoire du français contemporain. I, II. Les Presses DEL'UNIVERSITÉ, DE MONTRÉAL 1984~
評価方法	<p>レポート、発表、学習・研究態度を見て総合的に判定する。</p>	
受講者に対する要望など	<p>参加者の調査・研究・発表をもとに演習を進める。積極的参加が望まれる。</p>	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	ことばとことばは何によって結びつくか。慣用研究の重要性。
2	コロケーションの研究、その目的。なめらかな文章とは。(テキスト、1・2併せて8-30頁)
3	強め-強調語
4	讃え-称讃語 正しき-真正語 (テキスト、3・4併せて31-48頁)
5	動詞化動詞 始まり-開始語 終わり-終止語
6	完了-完了語 続き-継続語、繰り返し-反復語 (テキスト、5・6併せて49-74頁)
7	充たし-充たし語
8	生み-生成語 (テキスト、7・8併せて76-101頁)
9	調え-調之語 無化-無化語
10	悪化-悪化語 攻撃-攻撃語
11	成果-成果語 発声-鳴き声のオノマトペ (テキスト、9・10・11併せて102-132)
12	試験
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	コトとコトの参加者
2	参加者を示す名詞
3	舞台だてを示す名詞-時・場所・状況を示す名詞 (テキスト、1・2・3併せて133-156頁)
4	助数詞 集合-集合語
5	集団-集団語 成員-成員語
6	頭(かしら)-頭目語 真中-中心語 (テキスト、4・5・6併せて157-178頁)
7	同義・類義-同義語・類義語
8	敬い-敬語 反義-反義語
9	反転-反転語 総括-総括語
10	品詞転換-品詞転換語 類型的関連-類型的関連語 (テキスト、7・8・9・10併せて179-220頁)
11	コロケーションの研究は何に役立つか。(テキスト、221-234頁)
12	試験
備考	

科目名	共通演習(94年度以降)	担当者名	高橋正男
-----	--------------	------	------

講義の目標	<p>近年われわれはユーラシア大陸の広大な地域を占めている西欧、東欧・ロシア、中東で相次いで起こった政治情勢の劇的な変転に際会し、人間生活の過去を構築する歴史学への興味をかきたてられている。</p> <p>本年は昨年を引き続きエルサレムの多様な歴史を現代を基点に考古学・歴史学の成果を踏まえて中世・古代を展望する。併せて学習作法を懇切に伝授する。</p>		
講義概要			
使用教材	テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・立山良司著『エルサレム』(新潮選書)新潮社、1993年 ・高橋正男著『エルサレム』(世界の都市の物語14)文藝春秋、1996年 	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・D=バハト著 高橋正男訳『図説 エルサレムの歴史』(第2刷)東京書籍、1994年 随時紹介する。 	
評価方法			
受講者に対する要望など	<p>毎週休まずに演習に積極的に参加できるよう生活設計をたてることを希望する。</p>		

科目名	共通演習 (94年度以降)	担当者名	瀧本孝雄
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>この共通演習では、カウンセリングと心理テストの基本について学習し、さらにそれらに関連のあるパーソナリティ、人間関係、精神病、神経症などの諸問題について学習する。次にそれらをふまえて、各テーマについて受講者が発表し、相互に討議しあう。</p> <p>授業の前期では主にカウンセリングについて、後期では心理テストについての概説と各自の発表・討論・実習などが中心となる。</p>		
講義概要	<p>基本的には講義日程にそって行くが、日程に書いていない事項について概説したり、発表したりすることもある。</p> <p>前期では(1) カウンセリングの意義と目的、(2) カウンセリングの理論と方法、(3) パーソナリティ、(4) 人間関係、(5) ロールプレーの実習、(6) エンカウンター・グループの実習などを行う。</p> <p>後期では、(1) カウンセリングにおける心理テストの意義と目的、(2) 心理テストの種類、(3) 心理テストの実施を通して、心理テストの効用と限界について考察する。</p>		
使用教材	テキスト	『カウンセリングと心理テスト』林潔他著 ブレーン出版	
	参考文献	『カウンセラー入門』瀧本孝雄他著 ブレーン出版	
評価方法	出欠席、発表、レポート提出の3点により総合的に評価する。		
受講者に対する要望など	将来、臨床心理士、認定カウンセラーなどをめざす者、カウンセリング、心理テスト、パーソナリティ、人間関係などに興味・関心がある者を対象とする。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	カウンセラーとしての機能と活動 カウンセラーとは何か、カウンセラーとはどういうことを具体的にやっていくのかを考察する。
2	カウンセラーの世界 教育・医療・産業などの具体的場面でのカウンセラーの仕事の内容について紹介する。
3	インタビューの面接 インタビュー（受け入れ）面接は、カウンセリングの初回の面接であるが、その意義と留意点について検討する。
4	クライアント中心のカウンセリング クライアント（来談者）中心のカウンセリングの理解と方法について学習する。
5	行動カウンセリング カウンセリングにおける行動カウンセリングとは何か、具体的な方法を紹介し、実習する。
6	その他のカウンセリングの理論と方法 精神分析的カウンセリング、論理療法、芸術療法などについてその理論と技法を学習する。
7	パーソナリティについて パーソナリティの定義、構造、形成、診断などの諸問題について検討する。
8	人間関係について 親子、友人、恋愛などの人間関係における諸問題について検討する。
9	ロールプレーの実習(1) 1対1を中心としたロールプレーの実習を行う。
10	ロールプレーの実習(2) 3者関係を中心としたロールプレーの実習を行う。
11	エンカウンター・グループの実習(1) エンカウンター（出会い）グループを多人数で実習する。
12	エンカウンター・グループの実習(2) エンカウンター・グループを小人数で実習する。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	カウンセリングにおける心理テストの意義と役割 カウンセリングにとって心理テストを実施することにどのような意義があるかを検討する。
2	カウンセリングにおける心理テストの利用と倫理 心理テストの利用のしかた、心理テスト使用上の倫理的問題について考察する。
3	心理テスト実施による診断と予測に関する留意点 心理テストによって何がわかり、何を予測することができるかという問題について考えてみる。
4	心理テスト実施に関する調査結果 心理テストが、実際場面でどのように利用され、どのようなテストがよく使用されているかについて調査結果をもとに考察する。
5	心理テストの事例 実際に心理テストやった場合、テストの結果と本人の特徴について比較検討してみる。
6	心理テストの意義と目的 心理テスト使用の意義と目的、さらに心理テストの効用と限界について検討してみる。
7	心理テスト作成について 心理テスト作成のプロセスを学習し、実際に心理テストを作成してみる。
8	心理テストの種類と方法 心理テストにはどのような種類があり、またどのような方法によって実施するのかについて概説する。
9	知能テストについて 知能テストの理論と方法について概説し、知能テストを実施してみる。
10	職業興味テストについて 職業興味テストの理論と方法について概説し、職業興味テストを実施してみる。
11	性格テストについて(1) 性格テストの中での質問紙法について概説し、実際に実施してみる。
12	性格テストについて(2) 性格テストの中での作業検査法、投影法について概説し、実際に実施してみる。
備考	

科目名	共通演習(94年度以降)	担当者名	中西 栄子
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>英語文を日本語に翻訳する作業を通じ、英語と日本語におけるさまざまな表現方法の相違を捉える。その上で、英語文をより自然な日本語文に置き換えていくためには具体的にどのような操作をすればよいかを学んでもらいたい。最終目標としては、訳文を十分に練り上げていく過程で、日本語での表現力を身につけていくことである。</p>	
講義概要	<p>前期は、教師が各項目ごとに典型的な訳例を見せ、注意ポイントを説明する。学習者はそれを理解した上で、短文及び或る程度の長文を翻訳する。学習者は与えられた課題文を必ず自分で実際に訳した上で授業に参加することを原則とする。クラスでは自分の訳例と他の学生の訳例を照らしあわせながら、適訳を考える。後期は、一冊の本をクラス全員が担当ページを受け持ちながら、全訳する。最終日までにはそれを翻訳本としてまとめ、演習の成果としたい。翻訳する本はオリエンテーションの時に知らせる。</p>	
使用教材	テキスト	プリント配布。
	参考文献	特になし。但し、辞書類に関しては英英辞典、英和大辞典、(日本語の)類義語辞典、「大辞林」や「国語大辞典」(小学館)等々必携。
評価方法	出席。与えられた課題を果たすこと。	
受講者に対する要望など	この授業では自分で訳文を実際に書いていかなければ何の成果も得られない。従って、参加者は最低限翻訳をした上で授業に参加すること。欠席は4回以内とする。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	オリエンテーション 語順 (説明)
2	語順 無生物主語の構文 (説明) 所有格 (説明)
3	無生物主語の構文 人称代婦詞・指示代名詞 (説明) 所有格
4	人称代名詞・指示代名詞 Of+名詞 (説明)
5	Of+名詞 形容詞・副詞 (説明) 比較級・最上級 (説明)
6	比較級・最上級 自動詞文・他動詞文 (説明) 形容詞・副詞
7	自動詞文・他動詞文 否定 (説明)
8	否定 受動態 (説明)
9	受動態 連体修飾 (説明)
10	連体修飾
11	連体修飾 仮定法 (説明) 話法 (説明)
12	仮定法 時制・接続詞
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	クラスでの訳例 課題発表
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
備考	

科目名	共通演習(94年度以降)	担当者名	古川 堅治
-----	--------------	------	-------

講義の目標	<p>「ギリシア学入門」というタイトルで、ギリシアに関する諸々の問題を考えていく。本年度は「歴史と文化」(続)を中心課題として採り上げる。この講座は「ゼミ」なので、大学での「ゼミナール」というものがどのような形で進められるのか、出席者はどのような取り組みをすべきかなども合わせて、学んでいくことを目指している。</p>	
講義概要	<p>「ゼミ」の運営の仕方、出席者の各テーマに沿った報告と討論を中心に進めていく。関連するテーマについてのビデオやその他の資料を使っての解説がそれに加わる。ゼミ全体の雰囲気できるだけアット・ホームな形づくりあげ、同時に研究の成果をも残したい。</p>	
使用教材	テキスト	特別に使用することはしない。
	参考文献	その都度、指摘する。
評価方法	日頃の出席と報告、討議への参加具合を総合的に評価する。	
受講者に対する要望など	積極的に取り上げるテーマに関心を抱き、積極的に取り組む姿勢を期待したい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「はじめに」 ゼミ開講にあたり、年間の運営方針と具体的内容についての説明
2	「民族」 ギリシア民族とは？ 起源と「民族呼称」の変遷 海外の移民たち 現代ギリシアの民族事情
3	「言語」 ギリシア語の特色 古代と現代の言語の多様性 「民衆語」対「純正語」 現代ギリシア語の言語論争
4	「ギリシア正教」 現代ギリシアのアイデンティティ 生活の中に生きる宗教 ギリシア正教と民衆 アトス山の修道院生活
5	「自然と産業」 ギリシアの自然と気候 ギリシアの資源と産業 ギリシア各地方の風土
6	「歴史」(I) ギリシアの先史(ミノア文化とミケーネ文化) ポリスの時代 ヘレニズムから中世のビザンティン帝国の盛衰まで
7	「歴史」(II) オスマントルコの支配 ギリシアの独立革命 独立から第二次大戦まで 現代ギリシア
8	「神話・宗教」 ギリシア神話と宗教 古代ギリシアの神域 密儀信仰 祭典と儀式 神話と予言 神話と民間伝承
9	「建築と集落」 クレタとミケーネの宮殿 パルテノン神殿の謎 ギリシア劇場の魅力 ギリシアの都市空間 ビザンティンの修道院 中世の軍事建築 民家
10	「美術・工芸」 古代エーゲ海の美術 壺絵の変遷と展開 古典期の青銅彫刻 ビザンティン時代のイコン芸術 金銀細工の魅力 現代の装身具
11	「音楽・舞踊」 古代ギリシアの音楽と舞踊 多彩な音楽生活 陶器画に描かれた音楽と舞踊
12	「小 括」 前期のまとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	「文学・演劇」(I) ホメロスの世界 抒情詩人たち ギリシア演劇のアマチュア性と民主性 ギリシア古喜劇と新喜劇 「探求」から「歴史」へ
2	「文学・演劇」(II) 古典の相続 ビザンティン時代の学者たち ギリシア中世英雄叙事詩 民謡・バラードの生きた伝承 独立戦争とロマン主義者たち
3	「思想・科学」(I) 「知」への愛 ギリシアの思想と科学の特質 哲学の誕生 医術と秘儀 ソフィストとソクラテス ギリシア哲学の全盛
4	「思想・科学」(II) エピキュリアンとストアック 古代ギリシアの科学 アレクサンドリアにおける展開 キリスト教とギリシア
5	「ギリシアと世界」 ギリシアの遺産と世界 ビザンティンからイタリアへ ルネサンスとギリシア 西欧近代におけるギリシア像
6	「ギリシアの生活」(I. 家庭生活) 子供の誕生・洗礼 正教の結婚式 ギリシアの葬儀 祝祭日の年中行事 ギリシア料理 ワインとコーヒーの楽しみ ギリシア刺繍
7	「ギリシアの生活」(II. 社会経済) ギリシア人社会の特色 現代ギリシアの政治事情 財政赤字と闇経済 現代ギリシアのバルカン外交 人間優先の社会事情
8	「現在の文化」 1. 映画 ギリシア映画の魅力
9	「現在の文化」 2. 文学 現代ギリシアの文学
10	「現在の文化」 3. 演劇 現代ギリシアの演劇事情
11	「現在の文化」 4. 音楽・舞踊 ギリシア民謡と民謡舞踊、「レンペーティカ」
12	「総 括」 一年間のまとめ
備考	

科目名	共通演習 (94年度以降)	担当者名	松丸 壽雄
-----	---------------	------	-------

講義の目標	ものの考え方を、実際に自分自身が「自己」に関わる問題と取り組みながら、身につける。		
講義概要	<p>まずは、担当教員が「自己」とは如何に考えられるかを、時間の許す範囲内で、様々に示す。その後、受講者がそれぞれに、決められた担当日に各自の発表をし、参加者全員でいろいろな面から、該当する事柄を検討討議する。課題は自由に選べる。また、担当教員が必要と判断した場合には、論理の説明もある。演習形式なので、人数制限がある。</p>		
使用教材	テキスト	必要があれば、授業中に指示する。	
	参考文献	授業中に指示。	
評価方法	演習なので、参加者の発表内容と出席状況により評価。		
受講者に対する要望など	受講者は発表が義務づけられる。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	演習の概要説明
2	参加者の発表日の決定。「自己をめぐる諸問題」の講義。
3	同上
4	参加者の発表。討議・検討。
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	前期発表分を全体を見ての討議・検討。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	参加者の発表。討議・検討。
2	同上
3	同上
4	同上
5	同上
6	同上
7	同上
8	同上
9	同上
10	同上
11	同上
12	前期発表分を全体を見ての討議・検討。
備考	

科目名	共通演習 (94年度以降)	担当者名	三本 茂
-----	---------------	------	------

講義の目標	<p>ルポルタージュの書き方</p> <p>交通手段やコミュニケーションの方法が多様化し様々な選択が容易になっているが、自分の体験を他人や外部に伝える方法についての理論や技術についてのトレーニングはかならずしも十分ではない。</p> <p>この演習では、すぐれたルポルタージュ（現地報告）を読み、ルポルタージュの書き方についての基礎的知識と技術を身につけることを目的とする。</p> <p>更に文章だけでなく、写真、ビデオなどの映像による記録の方法についても実習する。</p>		
講義概要	<p>テキストとして本多勝一「ルポルタージュの書き方」（朝日文庫）を使用し、彼の書いた「カナダエスキモー」「ニューギニア高地人」「戦場の村」「アメリカ合州国」「冒険と日本人」などを事例として読み解きながら（ものを書くやりかた）を体得してゆく。</p> <p>もうひとつのテキストとして「日本語の作文技術」を座右において、絶えず参照してもらいたい。</p> <p>途中で、各人が実際に短いルポルタージュを書き、お互いに批評し合いながら進めてゆく。</p> <p>同時にビデオ・カメラやスティル・カメラを使って映像によるルポルタージュの実践法を試みる。</p>		
使用教材	テキスト	本多勝一『ルポルタージュの方法』『日本語の作文技術』他	
	参考文献	フィールドワークに関する文献やルポルタージュをその都度指示する。	
評価方法	提出された短いルポルタージュと普段の授業への参加の内容により評価する。		
受講者に対する要望など	実際に体を動かすような機会を用意するので、積極的に参加してもらいたい。質問や意見もおおいに出してくれることを歓迎する。		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	「ルポルタージュの方法」を読む。
2	フィールドワークについての基礎知識。
3	幾つかのルポルタージュを実際に読んで批評する。
4	短いルポルタージュを書いて発表する。
5	写真・ビデオに於いての基礎的知識の学習。
6	
7	
8	
9	
10	
.1	
.2	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	ルポルタージュを読む。
2	大学祭取材してルポルタージュを作成する。
3	書く、撮る、描く、語るなど方法の違いについて考える。
4	授業をルポルタージュする。
5	
6	
7	
8	
9	
0	
1	
2	
備考	

科目名	政治学(93年度以前)	担当者名	小野修三
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>大学における政治学は方法論的である点で、貴君らがこれまで慣れ親しんできた政治的議論とは明確に異なるはずで。つまり、どんな問題意識から、どんな立場から、どんな概念を用いて政治を見、政治を考えているかが本講義では重要なことがらとして論じられることとなります。そうした方法論的な構え方で、政治のなかで人間が生きてゆく際にその所にか人間の生きる意味を見出し得ない、その自治 (self-government) について議論を展開することが、本講義の目ざすところです。言い換えれば、統治と自治という問題を中心に議論は展開するはずで。</p>		
講義概要	<p>具体的には古代ギリシャのアテナイというポリスの住民ソクラテスの一生を説明することから始めます。そしてソクラテスの学生たるプラトン、プラトンの学生たるアリストテレスという三者における連続と不連続すなわち何が継承され、何が継承されなかったかを明らかにして、古代ギリシャの政治思想を紹介します。次いでヘブライの思想を聖書によって紹介し、古代から中世、ルネサンスを経て近代までの2000年以上にわたる政治的伝統を視野に入れることによって、現代の政治を考察するための橋頭堡を築きたいと思います。ルネサンス期ではマキャヴェリ、近代ではホッブズ、ロックを取り上げ、近代市民社会の政治思想のなかで自治の契機がどのように貫徹しているかを見たいと思います。</p>		
使用教材	テキスト	なし。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・シュeldon・ウォーリン『西欧政治思想史』福村出版 ・プラトン『ソクラテスの弁明』 ・『福音書』岩波文庫 ・ホッブズ『レヴァイアサン』 ・ロック『統治二論』 ・ヘーゲル『法の哲学』 	
評価方法	<p>年二回の定期試験(論文記述)を行なう。その他数回レポートを課す。このレポートは、配布する教材(原点の邦訳)についての理解を問うものだが、添削して返却する。</p>		
受講者に対する要望など	<p>テキストはないので年二回のテストを講義を全く聞かずに回答することは不可能であろう。つまり、こちらの出題以外のことをいかに丁寧に書いても一切評価しないことを予め伝えておく。</p>		

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	年間の講義計画の紹介。
2	ソクラテス以前の思想家たち。
3	政治家ソクラテス (1)ソクラテスの生き様。
4	(2)ソクラテス裁判
5	逃亡者プラトン。
6	政治学者アリストテレス。
7	ポリスの時代から帝国の時代へ。
8	古代ユダヤ教——旧約聖書の世界。
9	イエスの思想 (1)福音書によるイエスの生涯。
10	(2)意識革命と暴力革命。
11	
12	
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	アシシのフランチェスコ——最初の宗教改革者。
2	トーマス・モア——中世人と近代人の共存。
3	ニコロ・マキャヴェリと stato.
4	ルターとカルヴァン——キリスト教の民衆化。
5	トーマス・ホッブズと Leviathan.
6	ジョンロックにおける国家と社会 (1) 統治二論
7	(2) 寛容についての書簡
8	ヘーゲルの『法哲学』における市民社会。
9	マルクスの『ユダヤ人問題』を通しての人間主義。
10	マックス・ウェーバーの社会科学理論。
11	
12	
備考	

科目名	政治学(93年度以前)	担当者名	星野昭吉
-----	-------------	------	------

講義の目標	<p>今日われわれは、その日常生活の在り方によって大きく左右される「政治化の時代」に生きている。巨大で、複雑で、不透明な世界の全体像を再構成して、政治とは何か、われわれにとって政治世界とは何か、政治はどのようにしてわれわれの日常生活に入り込み、影響を及ぼしているのか、どのような政治問題が存在しているのか、その問題を解決するのにわれわれはどう対応すべきか、などを解明したい。また、そのため必要な政治学の理論や基本的概念を検討し、政治に対する見方、考え方、また、政治の在り方を模索する。</p>	
講義概要	<p>政治の実像を統治・権力と参加・運動という二本の軸の弁証法的展開運動として捉え、その中でわれわれの日常生活・社会とのかかわりを見ていく。そのために、政治概念の歴史性を検討し、その上で、政治と統合、政治権力概念の本質・意味・構造・手段・変動を究明し、国家の存在とその意義、政治指導の在り方を問う。また、政治を動かしていく体制や政治の仕組みを解明し、政治がどのように具体的に変動していくのか、政治が政党、利益集団、大衆、世論によってどのように形成・展開されていくのかの政治過程の分析を通して、大衆が政治にどのように参加し、かかわりをもつべきかを考察する。最後に、日本の政治文化を問いながら、現代日本の政治の実体と問題点を把握し、その対応を考える。</p>	
使用教材	テキスト	とくに使用しない。
	参考文献	講義開始後に参考文献リストを配布する。
評価方法	前期のレポートと後期のテストで、総合して評価する。	
受講者に対する要望など	テキストを使用しないので、必ずノートを使ってほしい。	

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	現代政治の本質と問題、政治学の課題。
2	政治と人間と社会生活。
3	政治概念と思想の歴史性－1：近代。
4	政治概念と思想の歴史性－2：近代。
5	政治の統合と分裂。
6	政治権力概念－1：権力の本質とその意味。
7	政治権力概念－2：権力の二重構造。
8	政治権力概念－3：権力的手段。
9	政治権力概念－4：権力の変動。
10	政治と国家・統治体。
11	政治と社会。
12	政治社会とエリート論。
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	政治体制－1：民主主義。
2	政治体制－2：社会主義。
3	政治と大衆参加
4	政治制度－1：議会主義。
5	政治制度－2：官僚制。
6	政治変動。
7	政治過程－1：政党と選挙。
8	政治過程－2：利益集団。
9	政治過程－3：大衆と世論。
10	国内政治と国際政治の連動性。
11	日本の政治文化。
12	現代日本の政治の現状と課題。
備考	

科目名	数 学 I, II (93年度以前)	担当者名	遠 藤 信
-----	--------------------	------	-------

講義の目標	<p>経済学は、多かれ少なかれ、数学的な学問である。或る程度の数学の知識がなければ、経済学を学ぶことは難しいと云っても過言ではない。また、経済学でよく使われる基本的な概念が、数学で扱われる問題の特殊な場合であることが多い。</p> <p>この講義では、経済学を学ぼうとする学生にとって必要最小限と思われる基礎的な数学の知識と数学的な考え方を身につけ、学生が経済学をより深く理解できることを目標とする。扱う分野は、線形代数と微積分である。</p>		
講義概要	<p>前半では、行列と行列式を講義する。これらは、数学の基礎であるとともに、例えば線形計画法、産業連関分析のように、経済学部が実社会に出て、応用することが多い分野である。</p> <p>後半では、微積分を講義する。これらは、応用分野が広範であるとともに、経済学の発展の上で極めて重要性をもつものである。</p> <p>定理の証明や公式を導くにあたっては、数学の厳密さよりも分かり易さを第1とし、数学的な考え方を中心に、複雑な計算をできるだけ避けるように心がける。</p>		
使用教材	テキスト	特に定めない。必要に応じて、プリント使用。	
	参考文献	参考書の類いは枚挙にいとまがない位ある。授業の際に、適当と思われるものを示す。	
評価方法	前期、後期それぞれ各1回の試験をおこなう。この成績に、出席状況を中心とした平常点を考慮して、成績評価をおこなう。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	行列の定義 行列の演算
2	行列の定義 行列の演算
3	行列の変形 行基本操作と正方行列を単位行列に変形すること 逆行列
4	行列の変形 行基本操作と正方行列を単位行列に変形すること 逆行列
5	行列式の定義
6	行列式の性質
7	行列式の性質
8	余因子とその性質
9	余因子とその性質
10	余因子を用いて逆行列を求める方法
11	連立1次方程式 1. Cramerの公式 2. 掃き出し法
12	連立1次方程式 1. Cramerの公式 2. 掃き出し法
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	関数と関数の極限 関数の連続
2	関数と関数の極限 関数の連続
3	微分係数と導関数の定義
4	微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
5	微分法の公式 関数の和、積、商の微分 いろいろな関数形の微分
6	平均値の定理 関数の極大・極小
7	平均値の定理 関数の極大・極小
8	偏微分の定義 偏微分の応用
9	偏微分の定義 偏微分の応用
10	不定積分と定積分
11	不定積分と定積分
12	微積分の社会科学への応用
備考	

科目名	自然科学概論（93年度以前）	担当者名	遠藤 信
-----	----------------	------	------

講義の目標	<p>現代の自然科学、特に現代物理学の諸概念が、人間の精神活動にどのような影響をおよぼしたか、また、それがいかに芸術表現に反映されているか、そして現代の自然科学は物質や宇宙についてどこまで解明しているかということ、生々しく、定性的に、また感性的にでも分かってもらうことが講義の目標である。</p>		
講義概要	<p>前半では、究極の物質は何かについて講義する。デモクリストス以来、自然科学が追求してきたこの問題を、歴史をたどりながら、現在ではどのように考えられているかを説明し、また、ミクロの世界の理論である量子論について講義する。</p> <p>後半では、相対論を中心に講義する。この理論がどのようにして生まれたか、また、相対論がもたらした結果について考察し、さらに宇宙の成り立ちや進化について現代の科学はどこまで解明しているかについて述べる。</p> <p>授業で特に留意する点は、できるだけ数式を使わないこと。また、講義の進行に合わせてビデオを観る。</p>		
使用教材	テキスト	特に定めない。必要に応じてビデオを利用する。	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・広瀬立成著『現代物理への招待』培風館 ・アインシュタイン－インフェルト著 石原純訳『物理学はいかに創られたか』（上、下巻）岩波新書 <p>その他、適当と思われるものを、授業中に示す。</p>	
評価方法	<p>①年に1～2回、授業中にまとめのレポートを提出する。この際、自筆のノートのみ使用可とする。</p> <p>②後期に試験をおこなう。</p> <p>①と②の成績に出席状況を考慮して、成績評価をおこなう。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

前 期

週	主 要 テ ー マ
1	根元物質をめぐる先人達の考え
2	原子とその構造
3	量子の世界
4	量子の世界
5	素粒子
6	Quark の登場 Quark と Lepton 物質の究極の要素は何か。
7	Quark の登場 Quark と Lepton 物質の究極の要素は何か。
8	Quark の登場 Quark と Lepton 物質の究極の要素は何か。
9	自然界の力 力の統一
10	自然界の力 力の統一
11	自然界の力 力の統一
12	まとめ
備考	

後 期

週	主 要 テ ー マ
1	光とエーテル
2	光速度の測定
3	Newton 力学と Galilei 変換 運動の法則の不変性、速度の変換則 Maxwell の電磁気学 光の伝播速度が一定。 Galilei 変換との矛盾
4	Newton 力学と Galilei 変換 運動の法則の不変性、速度の変換則 Maxwell の電磁気学 光の伝播速度が一定。 Galilei 変換との矛盾
5	Newton 力学と Galilei 変換 運動の法則の不変性、速度の変換則 Maxwell の電磁気学 光の伝播速度が一定。 Galilei 変換との矛盾
6	Michelson と Morley の実験 光速度不変と Lorentz 変換 長さの短縮、時間の遅れ
7	Michelson と Morley の実験 光速度不変と Lorentz 変換 長さの短縮、時間の遅れ
8	Michelson と Morley の実験 光速度不変と Lorentz 変換 長さの短縮、時間の遅れ
9	特殊相対性理論
10	宇宙のはじまり 相転移
11	宇宙のはじまり 相転移
12	まとめ
備考	

科目名	国際関係論 1, 2 (93年度以前)	担当者名	有賀 貞
-----	---------------------	------	------

(半期)

講義の目標	国際政治についての基本的知識をもち国際政治の歴史的理解を助けることを目指す。		
講義概要	<p>国際政治の歴史的展開を簡潔に講義することに力点をおくが、それに関連して、幾つかの国際政治理論にも言及する。</p> <p>講義概要は英文で作成し配布する。それにより、国際政治についての基本的語彙の習得を助ける。</p>		
使用教材	テキスト	テキストは使用しない。	
	参考文献	参考文献は最初の授業で紹介する。主なものは『講座国際政治』1、2巻、3巻（東京大学出版会）、岡部達味『国際政治の分析枠組』（同）など	
評価方法	学期中に提出するレポート（40点）と期末試験の成績（60点）を総合して評価する。		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	授業についての説明。国際関係の研究の歴史と現在。 A Brief Guidance : Studies in International Relations—Its History and the State of the Art
2	ヨーロッパ国際社会の成立と勢力均衡の理念 The Shaping of European International Community and the Concept of the Balance of Power
3	伝統的東アジア国際秩序の崩壊と帝国主義日本の台頭 The Collapse of the Traditional East Asian International System and the Rise of Japan as an Imperialist Power
4	帝国主義の時代と帝国主義論 The Age of Imperialism and Theories of Imperialism
5	ナショナリズムと国際主義 Nationalism and Internationalism
6	戦間期における反自由主義的民主主義思想の台頭 The Rise of Opposition to Liberal Democracy in the Interwar Years
7	冷戦期の国際政治とその終わり International Politics of the Cold-War Era and the End of the Era
8	「第三世界」の政治と経済 Politics and Economy in the "Third World"
9	現代における外交と政策決定過程論 Diplomacy in the Contemporary World and Decision Making Analysis
10	現代における戦争と安全保障 War and Security in the Contemporary World
11	現代における民族と国家 Ethnicity and the State in the Contemporary World
12	資本主義の世界化と情報化 The Globalization of Capitalism and the Information Revolution
備考	

注意) 国際関係論1, 2とも、通年で履修する科目ですが、半年ごとに担当教員が入れかわります。
ここでは、半期分のシラバスを掲載しています。履修にあたっては、残る半期のシラバス（竹田いさみ）も参照してください。

英語学科学学生へ

この科目は、英語学科の科目と合併して開設されていますが、共通自由科目の科目として履修登録すると、選択必修の卒業要件には算入されませんので、留意してください。

科目名	国際関係論 1, 2 (93年度以前)	担当者名	竹田 いさみ
-----	---------------------	------	--------

(半期)

講義の目標	<p>本講義では、「冷戦後」の新しい国際関係に注目し、現代の国際関係を分析する道具として、理論・モデル・基本用語の解説が行われます。国際問題を料理にたとえれば、材料（国際問題）をどうやって料理（分析）するかを学ぶことになります。本講義における第1の目標は、国際関係を具体的に見る眼を養うことである。第2の目標は、現実主義、多元主義、グローバリズムと呼ばれる国際政治学の代表的な理論・モデル・アプローチを理解することで、これが料理の方法（分析枠組み）に相当します。</p>		
講義概要	<p>本講義では参考文献、指定資料集、ビデオなどを適宜使用しながら、現代国際関係の特色を国際政治学の分野から理解していきます。「国際関係」の「変化」に着目し、歴史を現代に引き寄せて国際関係を分析することになります。「情報」のフローよりストックを重視し、単に表面的な現象に目をとらわれているのではなく、その下に潜む「構造的要因」に関心を払うことになります。その際、とりわけ重要とされる視点は政治的発想や政治的利害調整で、政治の役割が強調されます。近代ヨーロッパ社会に原点をもつ国際関係の基本的性格や原則を理解することによって、現代の国際関係を分析する道具を身につけることになります。</p> <p>講義の順番は部分的に変更することがあります。</p>		
使用教材	テキスト	講義用資料集	
	参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・有賀貞他編著『講座国際政治』全5巻（東京大学出版会、1989） ・猪口孝『国際政治経済の構図』（有斐閣、1982） ・衛藤藩吉他『国際関係論』（東京大学出版会、1982） ・川田侃『国際関係の政治経済学』（日本放送出版協会、1980） ・高坂正堯『国際政治：恐怖と希望』（中央公論社、1966） ・P・ビオティ、M・カピ『国際関係論』（彩流社、1993） ・蠟山道雄編『激動期の国際政治を読み解く本』（学陽書房、1992） 	
評価方法	<p>評価は基本的に試験ですが、授業の進み方を検討して決めます。</p>		
受講者に対する要望など			

年 間 講 義 予 定

半 期

週	主 要 テ ー マ
1	①国際関係を見る眼：木・林・森 ②国際関係の世界：戦争と平和（伝統的問題）・繁栄と貧困（南北問題）・世界経済ネットワーク、開発、環境、生存
2	①国際関係の理論・モデルとは何か：物理学・経済学・政治学・文学（ハレー彗星・ケインズ・キッシンジャー） ②国際関係論：世界大戦の落し子（資料集：8-14、35-45頁）
3	①利害調整：有限の世界、無限の欲望（資料集：21-27頁） ②政治過程：権力＋正統性＝権威（資料集：47-48頁）
4	①人間・政治・権力：ホッブス・グロティウス・カント（資料集：52-54頁）
5	国際関係：3つのイメージ：現実主義・多元主義・グローバリズム 意味・単位・構造・過程（資料集：59頁）
6	①リアリズム（現実主義）：トウキュディデス～E.H. カー（資料集：67-71） ②E.H. カー：ユートピアニズム vs リアリズム（資料集：12頁） ③勢力均衡論（資料集：91-94頁）
7	①リアリズム（現実主義論）：ヨーロッパ古典外交の特色－ウィーン会議：「会議は踊る」「会議はなぜ踊ったのか」 メッテルニヒ・タレーラン・カースルリー
8	①リアリズム（現実主義）：ビデオ教材「会議は踊る」
9	①多元主義・相互依存論（資料集：58、118-142頁） ②トランスナショナリズム：EUの出現・パワー論の補完
10	①グローバリズム・従属論（資料集：59、143-171頁） ②反欧米思想・南の主張・世界システム
11	国際政治と利害調整メカニズム
12	まとめ
備考	

注意) 国際関係論1, 2とも、通年で履修する科目ですが、半年ごとに担当教員が入れかわります。
ここでは、半期分のシラバスを掲載しています。履修にあたっては、残る半期のシラバス（有賀貞）も参照してください。

英語学科学生へ

この科目は、英語学科の科目と合併して開設されていますが、共通自由科目の科目として履修登録すると、選択必修の卒業要件には算入されませんので、留意してください。